ISSUE 5

FAST FOR SPEED FREAKS

underground fast hardcore magazine from tokyo



BRODY'S MILITIA

Apocalyptic Raids

HOLIER THAN THOU?

MUNICIPAL WASTE

CRYPTAS RECORDS

Nailbiter

HAVOC

DFA

BLACK MARKET FETUS

DIE YOU BASTARD!

FAST for speed freaks #5

F-FACTORY

H.G.FACT NEW RELEASE STUFF



Corrupted

new 12"EP 3曲収録予定 HG-176 12月発売予定 価格未定
new CD 1曲1時間 HG-177 12月発売予定 価格未定

324

ACROSS THE BLACK WINGS
new 3 songs CD HG-175 10月発売予定 ¥1000

SWARRRM

偽救世主共
2nd full CD HG-149 11月発売予定 ¥2000

FAST

EDITOR
Efu Matsumoto

EDITORIAL DESIGN & DTP
F-FACTORY

F-FACTORY
1086-1-2D Nozutamachi, Machida-shi,
Tokyo 195-0063 Japan

195-0063 東京都町田市野津田町1086-1-2D
tel. 042-737-3205 fax. 042-737-3206
fast@f-factory.com http://www.f-factory.com/

F-FACTORY MOVED!!!
NEW ADDRESS
引越しました！

毎号記していますが、オーストラリアのDESTROYER 666は日本では知名度が低く、マニアの中ではブラックメタルと認知されているに過ぎないけど、ヨーロッパでは実際多くのパンクスやハードコア・キッズにウケているバンドだ。メンバーがニューヨークのクラスト・ゴッズDISTRAUGHTのTシャツを着用していたのも驚きで、そのような世間一般的に言われているジャンルの壁を超えたバンド・ライヴを目撃したのをきっかけに本誌『FAST for speed freaks』は創刊しました。ハードコア本来の姿勢を重視し、更に個人的な趣味趣向として"速"をキーポイントとしたバンドとシーンのバックアップを目的としています。
また今回から広告を募集し掲載しています。本誌は営利目的として発行しないファンジンなので、当初広告を掲載することは意に反するとしていましたが、より内容の充実アップをするためにページ数と発行部数を増やしつつ350円という低価格をキープすると、莫大な負債を抱えてしまう等、ついに限界に達してしまいました。つまり、多くの人に読んでもらえなくなるどころか、存続すらできなくなる状態になりかねないのです。以上のような状況を打破するために、広告を募集・掲載することにしました。しかし、日本はご存知の通り印刷すら高額な費用がかかり、そのため日本の雑誌の広告はウン万円単位が通常ですが（一般的な雑誌は広告代で食いつないでいる）、海外のグレイトなファンジン『MAXIMUMROCKROLL』のように何とか低価格を設定してます。ただし本気でがんばっているバンド、レーベル、プロモーター、ディストリビューター等に限らせていただきます。また当然本誌に合った音楽スタイルが前提です、そうでないと意味がないので。もちろんメジャーレーベル、または目指しているバンドは不可です。そのようなバンドやレーベルは本誌が扱わなくとも、メジャー誌がたっぷりと紹介するし音楽に対する目的意識が違い過ぎますから…。
俺達を紹介してくれ、というようなバンドやレーベル等ありましたら、ドシドシご連絡ください。ただし電話だと応対できない時間も多々あるので、できれば郵便かメール、FAXにてお願い致します。その際、活動内容や状況等も記してください。ということで、本誌をきっかけにシーンの活性化に繋がればいいなと思っています。



Front cover photo : DIE YOU BASTARD!
Back cover photo : BLACK MARKET FETUS
This page photo : HOLIER THAN THOU?



約10年前、某TVCMで「芸能人は歯が命」なんてコピーが流行ったが、DIE YOU BASTARD!の言葉として引用すると「DYB!はスピードが命」な爆走するハードコアを身上としている。G.I.S.MやWARPIGS等日本のハードコア/スラッシュ史に名を残すバンドに在籍していたメンバーによって構成され、その迫力と存在感は有無を言わせぬ程凄まじいオーラを放っているのだ。ハードコア、デスメタル、グラインドコア等スタイルが異なっていようとも、自らの存在感を保てる広い意味でのハードコアなスタンスは非常に格好良く、ライヴでの異常な盛り上がり方はバンドの力量を物語る。
今回、8月にドラム歴20周年ということで自らの企画ライヴを行なった凄腕ドラマーIRONFIST辰嶋氏(以下敬称略)にインタビューをすることとなった。バンドの一員としてだけではなく、一ドラマーとしてのこだわりと追求を常に持ち続けレベルアップを試みるスタンスは、人として見習うところがあるのではないだろうか。

DIE YOU BASTARD!

INTERVIEW

速きゃいいんだよ、クソッタレ!!

── ドラム歴20周年ということで8月に記念ライヴを行ないましたが、ドラムを始めるにあたって最初はどんなバンド、音楽を聴いていたんですか?

IRONFIST 辰嶋:最初は日本のロックかなぁ。俺の兄貴の影響で沖縄のサンディエゴってロックバンドとかを聴いていたんだけど、そのうちやっぱり兄貴の影響でモッズとかを聴くようになって。その頃は邦楽ばっかり聴いていたんだけど、音楽雑誌を買うようになってからGIRLSCHOOL辺りを聴きはじめて、その流れでMOTORHEADを聴くようになったって感じかな。それでMETALLICAとかも聴くようになったよね。

── その頃ってまだMETALLICAが1stアルバムを出すか出さないかって頃ですよね? 良い時代をリアルタイムで体験していますよね。

IRONFIST 辰嶋:まぁそうだね。スラッシュって言葉が世に出てくる前から、そういう音楽聴いてたからね。

── 僕の場合、METALLICAといえば1stの『Kill'em All』ではなく、『Master of Puppets』からリアルタイムなんです。

IRONFIST 辰嶋:俺は『Master of Puppets』はだいぶ経ってから聴いたんだよ。2ndでかなり音変わっちゃったからね。「Fight Fire with Fire」とかは、あれはあれで好きだけどアルバム通して聴くとダルいと当時は思ってたね。俺にとっては違う路線だなって。でも当時、雑誌の隅っこに出てたバンドの情報とかをチェックして、レコード屋に行っていろいろ漁ってたよ。元々やっぱりパンクが好きだったから、DEAD KENNEDYSの1stを聴いて「わぁ凄ぇな」「コレ速ぇな」って思ってたし。

── 20年前に今でいうハードコアを聴きまくってたってことですよね？
IRONFIST 辰嶋：いや、もうちょっと前だったね。13か14歳くらいから聴きはじめて、ドラムを始めたのが高校1年だった16の時で、ちょうどその時、DIE YOU BASTARD!のギターともバンドをやってたんだ。中学の同級生でもあって、最初のうちはアイツの趣味でレインボーとかナイトレンジャーをやってたんだけど(笑)。俺がハードコアを聴かせても食い付いてこなくてさ。そうこうしているうちにMETALLICAの1stの輸入盤が日本に入ってきて、速い音楽をやりたい俺と、メタルをやりたいアイツとの共通点が出来たんだよ。METALLICAのコピーからはじめて、SLAYER、ANTHRAXとかね。やっぱりどんどん激しい音を求めるようになって、当時メタルよりハードコアの方が速かったし、激しかったしね。メッセージ的な部分もわりと重要視してたから。で、そんな感じでいたらドップリとハードコア・パンクに浸かってたよね。まっ、スラッシュも聴いてたけどね。

── 何の隔たりもなく聴いてたと。
IRONFIST 辰嶋：そうだね。聴く方としては、ただ速いのが好きだったから。ホント、速いのばっかり聴いていたよ。

── その気持ちの表れみたいなのが、DIE YOU BASTARD!のキャッチフレーズの"速きゃイイんだよ、クソッタレ!"なんですか？
IRONFIST 辰嶋：まあね(笑)。でも20年やっていると波があって、スピードに飽きてしまった時期があったんだ。8ビートにいった時期もあったし。8ビートは8ビートで世界最速8ビート・ドラマーになるんだってやってたけどね(笑)。

── ドラムを始めた頃って、当然DIE YOU BASTARD!とは違うバンドをやっていたんですよね？
IRONFIST 辰嶋：全然違うね。ちゃんとオリジナルをやるようになったのは18の頃で、その時はハードコアだったね。

── ライヴもやってたんですか？
IRONFIST 辰嶋：1回だけね(笑)。でもね、当時としては世界最速に近かったと思うよ。まだグラインドコアとかブラストとかない時期に、今で言うところのファストコアとかグラインド系の音だったからね。その頃の曲をやり直して、DIE YOU BASTARD!でやってたりするんだよね。そのバンドが極端に速いだけのバンドだったからすぐに飽きちゃって、それで8ビートの方にいっちゃったりしたわけ。聴いてたのはスラッシュやハードコアとかばっかりなんだけど、ドラマーとして興味があまりなかったんだよね。

── 歴史が長いから、なかなかDIE YOU BASTARD!に辿り着かないですね(笑)。
IRONFIST 辰嶋：そうだね。あとサイコビリーとかも聴いてた時期もあったんだよ。

── なんか似合いそうですね(笑)。
IRONFIST 辰嶋：俺はあんまりその辺詳しくなかったんだけどね(笑)。たまたまサイコビリーが好きな友達ができて、速いサイコビリーのカヴァーバンドやろうよって言ってたんだよ。そのバンドをやっている頃に、GENOAとかその辺のメンバーと仲良くなって。だから、あれはあれで良かったよね。



1st DEMO

「Soul Blast」を含む5曲収録し、お馴染みのイントロ「Power Hall」で始まるDYB!初音源。現在このデモそのものは入手困難だが、今年リリースされた再発盤1stアルバム『全身全霊』にボーナストラックとして収録されている。



V.A.『Thrash Corps of The Storm』CD

超強力なヘヴィ系バンドと共に収録されているコンピレーション盤で、他にSABAZZ、RISE ABOVE、肉奴隷、MORTES SALTANTES、ベギラゴン、BROB、VENUS JULIETが参加。



1st 7"EP
(半田商会)

リアル・ハードコアの専門レーベル半田商会より、DYB!初の単独レコード。IRONFIST辰嶋氏の驚異的なドラミングはもちろんのこと、百戦錬磨シーンで活動していたメンバーによってハイクオリティなグライディング・ハードコア・サウンドを実現。



『全身全霊』CD
(半田商会)

DYB!の集大成といえる14曲収録の記念すべき1stアルバム。誰もが驚く猛烈なスピードに磨きがかかり、もはや向かうところ敵なし状態で、DYB!と肩を並べられるバンドはおそらく世界レベルでもそうはいないだろう。グラインドコアの基本形といえるTERRORIZERを超えたと言っても過言ではない凄まじさ。また、ハードコアの持ち味である怒りを表現した怒濤のサウンドは、まさにタイトル通り全身全霊な圧倒的パワーによって聴き手を威圧する。
定評あるライヴとアルバム自体の完成度の高さから即効売り切れとなり、長らく入手困難となっていたが、今年再発された。しかもボーナストラックとして、1stデモの音源を収録!!! ただし、その再発盤も売れ行きが異常に早いようなので、持っていない人は売り切れる前に急いでレコード屋へ走れ!!! ちなみにジャケットの写真のモデルは、今回インタビューに応じてくれたIRONFIST辰嶋氏。「全身全霊」と彫り、身体全体で表現した彼自身の本気度の高さを示す。プロレスや格闘技にまつわる歌詞があるところも、身体表現するという表れのようにも思える。



V.A.『Rising Force』
(Trishuel Records)

LIBERATE、ガンフロンティア、VEIHAIZ、MUDER STYLE等13バンドと共に参加。

――で、その次はグラインドコアって感じですか?
IRONFIST 辰嶋:うん。ただ、18の頃やってたバンドで、俺はスピードを極めちゃったって思ってたんだよね。世界中で絶対に俺より速く叩ける奴はいないって。その頃グラインドって興味はなかったんだけど、デスメタル勢がいろいろ出てきて、巧いやつがブラストを叩くと格好イイなって再認識してさ。MORBID ANGELの1stかTERRORIZERだよね、Pete Sandovalのブラスト聴いて凄ぇなって。でまたスピードにこだわっちゃったってわけ。

――やっぱりTERRORIZERやMORBID ANGELの1stは、今聴いても凝っていると思いますよ。
IRONFIST 辰嶋:リズムがタイトで正確っていうのもあるしね。それまでのブラストって、結構グチャグチャって感じで、NAPALM DEATHの1stも当時聴いたけど、そんなに凄いなぁって思わなかったからね。

――TERRORIZERと比べたらハチャメチャですよね(笑)。
IRONFIST 辰嶋:うん。今聴くとあれはあれで凄い好きなんだけどね…。まぁPete Sandovalのドラムを聴いていなかったら今の俺はないな。

――その頃DIE YOU BASTARD!を始めてないですよね?(笑)。
IRONFIST 辰嶋:うん、そうだね(笑)。そのサイコビリー・バンドが終わった時点で、とりあえず速いバンドをやろうと思ってメンバーを探して今のギターがすぐ入って。でベースとヴォーカルも募集してDIE YOU BASTARD!になったんだよね。結局、みんな知り合いの伝手で揃ったからね。考えてもみれば、もうDIE YOU BASTARD!も始めてから10年経つんだよね。

――そう考えると、DIE YOU BASTARD!ってライヴは多いですけど音源は少ないですよね。
IRONFIST 辰嶋:そうだねぇ。

――音源ばっかり作って、ライヴをちっともやらないより全然いいですけどね。
IRONFIST 辰嶋:まあね。でも2ndアルバムも早く出したいんだよ。ホントは10月くらいからレコーディングを始めようって話してたんだけどね。最近ライヴが多くて、曲作りするヒマがなくてさ(笑)。

――ホント多いですよね(笑)。
IRONFIST 辰嶋:あと他のメンバーも仕事関係が忙しくて、年内のレコーディングは難しいかもしれないけどね。でもやっぱり早く2nd出したいんだよね。

――その音源についてなんですが、今年の年始にリリースしたCD-Rは、曲がたまったから出したって感じなんですか?
IRONFIST 辰嶋:うん、そうだね。去年1年間活動休止するって言ってたから、その前に何か出したいなって思って。で、今までと違う曲を集めて新曲も作って、新しいイメージを作りたいなって思った、って感じかな。

――あれは強力でしたよ。個人的にはMETALLICAをカヴァーするところなんて特に最高でした(笑)。
IRONFIST 辰嶋:昔のMETALLICAは格好イイよ。



V.A.『Change Change』

SWARRRMやSTATE CRAFT、EDGE OF SPIRIT等の新世代ヘヴィ系バンド収録のオムニバス。



『Underground is a Only Truth!』CD-R
(HxIxK Records)

今年リリースされたニューシングル。METALLICAのカヴァーではEDDIE氏が参加している。



V.A.『汚れなき豚友達へ!!』

日本のハードコア・シーンに多大な影響力と存在感を放っていたMASAMI氏トリビュート盤。BAREBONES、COLORED RICE MEN、EXTINCT GOVERNMENT、FINAL BOMBS、FORWARD、GHOUL、実はフェイマス、L.O.X、ニューロティカ、PAINTBOX、RAPES、RISE FROM THE DEAD、SLEEPERS、STICKS IN THROAT、鉄アレイ、THE原爆オナニーズ、THE TRASH、TOKYO YANKEES、VEIHAIZ、WORMS'MEAT、ZONE、そしてDYB!と参加バンドがとにかく凄い!!!

── 最後の質問としては変ですが、具体的に影響を受けたアーティスト、ドラマーって誰ですか?

IRONFIST 辰嶋:ドラマーとしては、ルーツはやっぱりMOTORHEADかな。あとDAMNEDやLIP CREAM。DIE YOU BASTARD!としてはTERRORIZERかな。

── デスメタルからの影響も強いですよね?

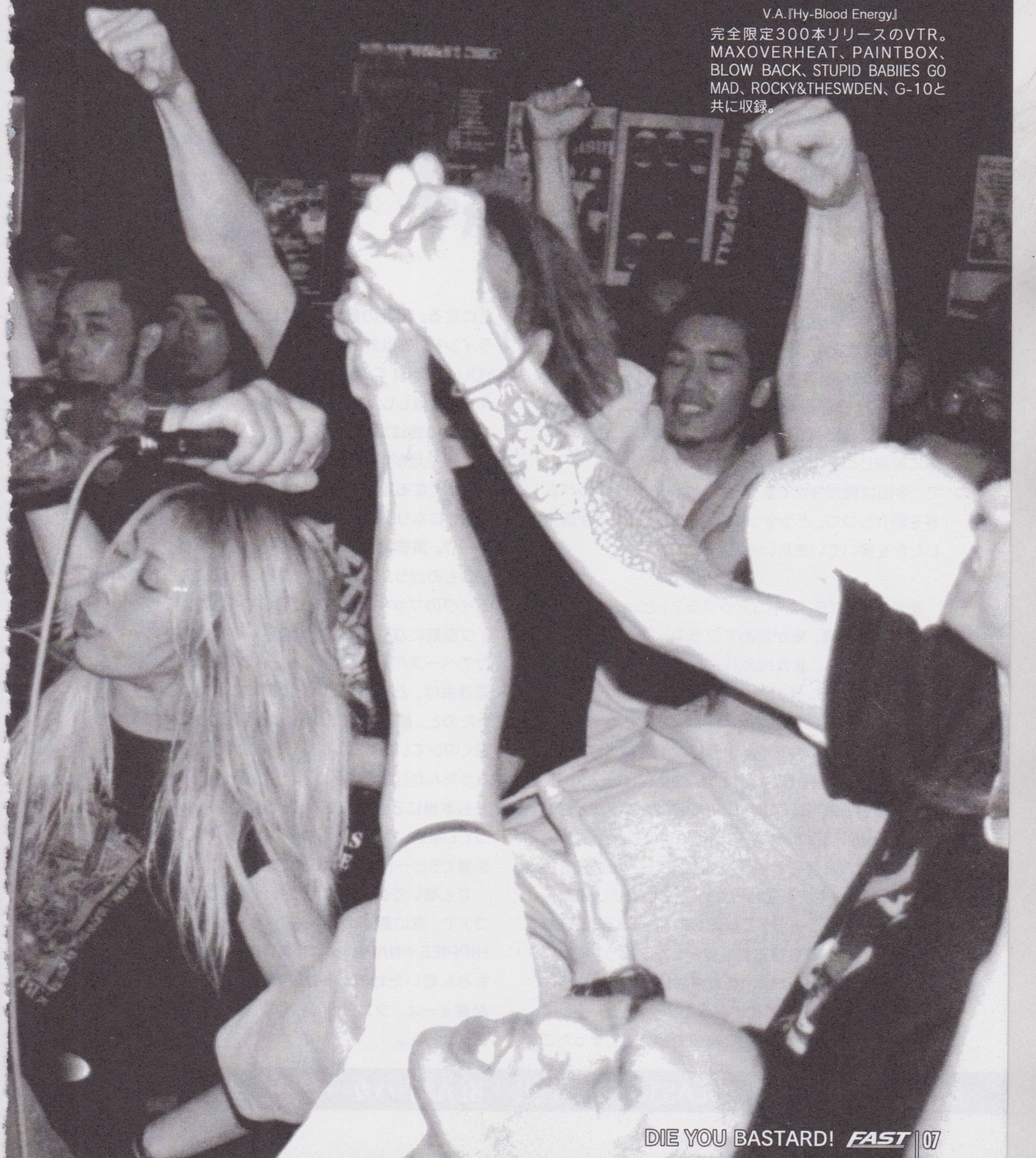
IRONFIST 辰嶋:やっぱり、そりゃそうでしょう。グラインドからブラストになったんじゃなく、デスメタルからまたブラストに興味を持ちはじめたからね。だ



から自分で速いバンドをやろうと思ったのも、例えばDECIDE辺りもあまり速い曲をやらなくなって、好きなバンドがどんどん変わっちゃって、それで、なかなか自分の聴きたいようなバンドがいないからDIE YOU BASTARD!を始めたわけなんだから。



V.A.『Hy-Blood Energy』
完全限定300本リリースのVTR。MAXOVERHEAT、PAINTBOX、BLOW BACK、STUPID BABIIES GO MAD、ROCKY&THESWDEN、G-10と共に収録。



IRONFIST辰嶋氏直筆コラム

BLAST バカ一代!!

『FAST for speed freaks』ってタイトルを見たとき、「これは絶対俺等のためのファンジンだっ!」って思った。で、「何で真っ先に俺等のところに話が来ないんだ!?」とも思った。でも今回こうやってインタビューもしてもらい、コラムまで書かせてもらうことになり、EFU君には本当に感謝します。ありがとう。
で、今回は俺が今まで影響を受けたバンドやアルバム等を紹介しつつ、どうやってこんなBLASTバカが誕生したかを書いていきたいと思います。

まず、まだグラインドコアやブラストビートなんて言葉はなかった頃、俺が初めてブラストビートらしき音を耳にしたのは、北九州のハードコア**CONFUSE**のソノシートだと思う。当時俺は**反吐**(ヘド)っていうハードコア・バンドをやっていて、(18歳の時)そのバンドで初めてオリジナル曲をやるようになったんだけど、反吐はDIE YOUよりも極端に速さのみを追求したバンドで、とりあえずその当時CONFUSEが最速バンドだと思っていたから打倒CONFUSEを目標にやっていた。でも、スタジオに入る度にどんどん曲のスピードが加速されていき(それは今でも変わらない…)、CONFUSEなんて遥か彼方にブッチぎってしまっていた。本当に85年当時としては世界最速に最も近かったと思う。でもこの思い込みが、後々バンドを消滅させることになるんだけど…。まぁとにかく俺にとってブラストビートってものは、外から聴くより先に自分でやってしまったことになる。反吐の音は、今でいうところのファスト/グラインドコア以外の何物でもないから。ちなみにDIE YOUの「Blast Crazy!」は、この反吐の曲を俺が手を加えて焼き直しした曲なんだよね。

反吐の曲は本当に良くも悪くも速いだけで、練習の度に腕や足が疲れるなんてものは通り越えて、毎日心臓が痛くなる程だった。で、曲もたまったライヴだ! ってことになり、85年秋頃に国分寺のモルガーナで1stライヴ。演奏は酷いもんだったけどインパクトはかなりのものだったらしく、店の人にも気に入られて2ndライヴのブッキングもすぐにしてくれた。でも2ndライヴ直前になり、まず俺が脱退。その直後ギターが抜けてベース/ヴォーカル1人になってしまった。俺の脱退理由は、とにかく速いだけの単調な曲に飽きてしまったのと、前に書いたように「もうこの世の中で俺より速く叩いている奴はいない! 俺は世界最速ドラマーになったんだ!」って勝手に思い込んでしまったから(恥)。でも本当に2ビートのスピードに対する興味はなくなってしまい、**RAMONES**や**HANOI ROCKS**なんかの影響で8ビートにハマってしまっていた。

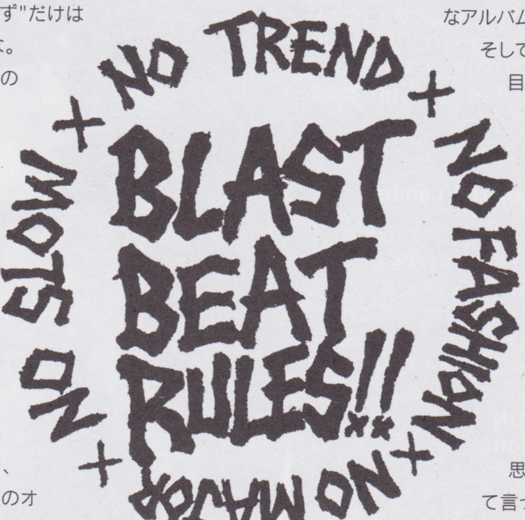
でも聴いていたのは相変わらずスラッシュやハードコアで、常に最速の音を求めていた俺は、**ELECTRO HIPPIES**や**NAPALM DEATH**の「Scum」なんかももちろん聴いたけど、その感想は「ちっ、反吐の方が全然速ぇーよ、タコ!」って感じで、全くそそられるものはなかった。

BLAST バカ一代!!　BLAST バカ一代!!　BLAST バカ一代!!　BLAST バカ一代!!

そしてZOLGEやWILLARDタイプのMOTORVATION(このバンドで初めてレコーディングを経験しソノシートを作った)、THE MAGNETS等をやって、その後PUPPETSというニューキーパイクスなんかと同じ所謂U.S.コアなバンドに加入した。このPUPPETSからまた速い曲をやるようになり、曲作りにも参加するようになったんだけど、この当時俺はDEATH ANGELやまだハードコアだった頃のC.O.C.なんかにどっぷりハマってて、やたら忙しない展開の多い曲構成を考えていた。

この頃の俺は、今までで一番テクニカル指向になってて練習量も一番多かったと思う。何もここまで叩かなくってもという位、ややこしい"おかず"を入れまくっていた。"おかず"で一番影響を受けたのは、ダントツでDave Lombardo(SLAYER)。あとシカゴのハードコア・ストリート・メタルZOETROUPEのBarry Stern、ANTHRAXのCharlie Benante、C.O.C.のReed Mulin、あとはMETALLICAのLars等。LOUDNESSのヒグチなんかも、"おかず"だけは結構パクらせてもらったな。

PUPPETSでは4曲入りのデモテープを出したんだけど、めでたくミニアルバムをリリースすることになったところでサクッと解散。まぁよくある話だね。



で、以前ヘルパーで参加していたSCAMPに、PUPPETSのギターと共に正式加入した。ちょどその頃、OBITUARY、MORBID ANGELなんかのオリジナル・デスメタルが出てきて、もちろん俺はハマりまくり! しばらくの間デスメタル野郎になっていた。一番のお気に入りはDEICIDEで、あまりに好き過ぎて1stのジャケのアートワークを背中にでっかくスミ入れてしまった。まだスジだけだけど必ず完成させるよ。でも今のDEICIDEはたるくて全然ダメ。

ここでPete Sandovalとうとう出会うわけだけど、TERRORIZERより先にMORBID ANGELを聴いていたんだよね。で、偶然渋谷で入ったレコード屋で『World Downfall』を見つけて、裏ジャケでMORBID ANGELの2人がいたんで即買いして、もう一発でヤラレた! その影響でSCAMPでもブラストを取り入れ出した。でもそれにはGENOAの影響も少なくないな。やっぱり当時の最速ドラマーは、GENOAのノブ君だったはずだしね。そのうちDIE YOUでGENOAのカヴァーをやりたいな。

まぁでも、俺が再びブラストに取り付かれたのはTERRORIZERの『World Downfall』の影響であることは間違いない! ただ、DEAD KENNEDYSの1stやMOTORHEADの『極悪ライヴ』、DISCHARGEの『Hear Nothing See Nothing Say Nothing』なんかを初めて聴いた時の、本当に背筋がゾクッときた物凄い衝撃と比べるとインパクトはそれほど強いものではなかったんだけど、その後のもちろん今でも続いている俺のドラムの方向性を決めつけてくれた重要なアルバムである事は間違いない。

そしてPete Sandvalは、俺の目標とするドラマーだ。でも俺にとっての目標ってのは、あくまでもブッチ切るための対称であって、別にただの憧れの存在って訳じゃない! 今はまだ負けているかもしれないけど、近い将来必ず追いついて、追い越して、ブッチ切って、振り返った思いっきり「ざまーみろ!」って言ってやる! このジャンルの最年長ドラマーの座も俺が頂く! 絶対に負けない!

とにかく、このファンジンを買って読んでいるような連中には、DIE YOUの2ndアルバムを本当に期待してて欲しいと思う!!! 絶対に1stより速く、激しく、狂暴な物凄いアルバムを作ることを約束するから! 期待は一億倍にして返す!!! 最後に本当に今回の機会を設けてくれたEFU君に感謝します。BLAST BEAT RULES! KILL UGLY TREND!!! じゃあまたライヴで会おう!!!

BLAST バカ一代!! BLAST バカ一代!! BLAST バカ一代!! BLAST バカ一代!!

IRONFIST 辰嶋氏直筆コラム・おまけのコーナー

俺のお薦め

BLAST バカ一代!! アルバム



CADAVER INC
『Discipline』

こいつらは凄い!!! CADAVER時代はイマサン位なしょっぱいバンドだったけど、これはハンパじゃない! ブラックメタルの中ではZYKLON-Bに取って代わってナンバー1、サイコー!!! Tシャツ欲しい!!! やっぱりノルウェイ・ブラックはサイコーだ!!!



ANAEMIA
『Stupidity of The Lambs』

スペインのピュア・グラインド。でもドラムはたぶんマシン、つーか絶対マシン。でもそんなの関係ない!!! オリジナルはもちろん良いけど、ラストに入っているCHAOS U.K.の「No Security」のカヴァー、これがサイコー!!! DIE YOUもこれに対抗して、DISORDERの「Life」のブラスト・ヴァージョンがやりたい!!!



REBAELLIUN
『Annihilation』

ブラジリアン・ブルータル・デス。KRISIUNと同じくブラストしっぱなしのスタイルだけど、こいつらの方が速い! ただ、あまりにブラストしっぱなしなんで、スピード感が無くなっていくんだよね。でも俺は大好きだ! DIE YOUもこいつらに負けないブラストしっぱなしの曲を作るんで、楽しみにしててくれよ!

最後の最後に、俺が85年、18歳の頃やっていた反吐の国分寺モルガーナでやったライヴテープが欲しい!って奴がいたら、必ず"手書き"で「絶対くれーっ!!!」って気持ちを書いて、俺の所に送ってくれ。俺のBLAST魂を揺さぶる文章を書いた奴一人だけに、テープをダビングします。

〒171-0042 東京都豊島区高松2-54-1
辰嶋 "IRONFIST" 聡



Apocalyptic Raids



ドイツのWARHAMMER(R.I.P.)と並びHELLHAMMER〜初期CELTIC FROSTのフォロワーとして名高いブラジルのAPOCALYPTIC RAIDS。暗黒世界を描写したブラック・スラッシュメタルは、キーボードやサンプリング等で全体を味付けするのではなく、極めてハードコア・パンクに近い攻撃一辺倒なスタイルで、アンダーグラウンド・シーンで絶大な人気を博している。モノマネの域を超えたスラッシュ・サウンドはもはや独自の音楽性を確立したといっても過言ではなく、メタル・サイドだけに留めておくのは惜しい存在だ。インタビュー中にもあるようにハードコアからの影響もかなりあるので、メタルヘッズだけでなく、クラスティーズを含めた全てのリアル・ハードコア・ファン必読!!!



INTERVIEW

──まず最初に、APOCALYPTIC RAIDSはHELLHAMMERのタイトルから引用したんですよね？
Leon：そうだね。俺達は明らかにHELLHAMMERのEPから引用したけど、今までずっと俺にとってフェイバリット・レコードだったからなんだ。

──APOCALYPTIC RAIDSの現在までの経緯を教えてください。
Leon：俺と昔一緒にやっていたドラマーと、1997年か1998年に始めたんだ。それまで未発表だった曲を中心にプレイしてたよ。翌年の1999年にデモテープを作って、多少メンバーチェンジをして2001年に『Only Death is Real…』、2003年に『The Return of The Satanic Rites』と2枚のアルバムをリリースしている。ギグもこの5年間で結構な数をやっているよ。このバンドを形成する上で、俺達と同じような血の流れているバンドに影響を受けているんだ。例えばVENOMやそのフォロワーだね。

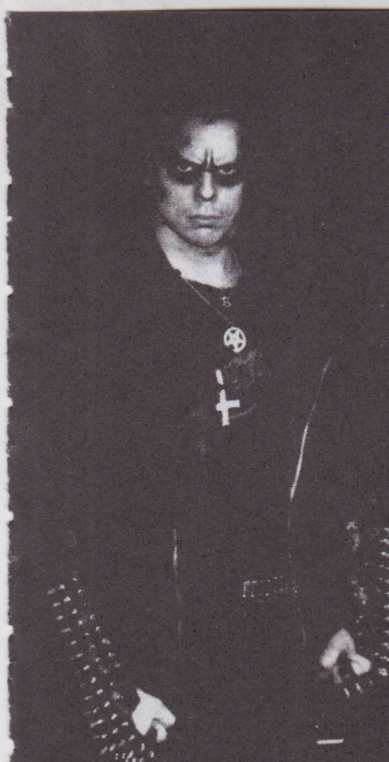
──HELLHAMMERやCELTIC FROSTはどうですか？
Leon：さっきも言ったように、HELLHAMMERは20年間ずっと大好きなバンドだよ。CELTIC FROSTについては、1985年に始めて聴いたとき俺はがっかりしたね。というのは、やっぱり以前のHELLHAMMERの方が断然良かったし。だけどHELLHAMMERのヘヴィ・ヴァージョンとも言えるし、最初の2枚は素晴しいメタル・アルバムだと思うよ。それ以降はアバンギャルド路線になっていったから興味ないけどね。



『Only Death is Real…』CD
(Demise Recs. / Dies Irae)



『Maximum Metal Mayhem』7"EP
(Iron Bonehead)



——CELTIC FROSTの『Cold Cake』とかですよね？
Leon：ほんと、あれは最悪だ!!!

——解散してしまったようなんですけど、ドイツのWARHAMMERはどう思いますか？
Leon：そうだね、俺は凄く良いと思う。違う奴らがHELLHAMMERそのものをプレイしているような感じだよね。もちろん、彼等は解散してしまったようだけど、やむを得なかったんだろ。俺は彼等の音源全て好きだ。

——HELLHAMMERやCELTIC FROST以外ではどんなバンドに影響を受けましたか？
Leon：VENOMフォロワーの第1世代全てだろうな。初期SODOM、初期BATHORY、DESTRUCTION、MANTAS、POSSESSED、ONSLAUGHT、あとブラジルのMUTILATOR、CHAKAL、VULCANO辺りだ。

——APOCALYPTIC RAIDSはたしかにHELLHAMMERに似ているということで厳しい評価をする奴もいますが、私はグレイトだと思ってます。当の本人としてはどう思いますか？
Leon：ほんとにありがとう！ 将来キミが満足するようなレコードを俺達が作れればいいなと願っているよ。

——あなたにとって、オリジナリティとは何ですか？
Leon：俺の考えではオリジナリティとはもっと定義されているもののことなんだ。キミは俺達の演奏を聴いて、すぐにAPOCALYPTIC RAIDSだとわかると思うけど、普段今風の典型的なデスメタルやブラックメタルばかり聴いている奴にとっては、HELLHAMMERとAPOCALYPTIC RAIDSの違いはわからないだろうね。ロクに聴きもしないで、そんな理由だけでオリジナリティがないと言えるのかな？ HELLHAMMERは解散してしまっているから、HELLHAMMERにはないものを作り上げることができるんだ。将来、もっと俺達はオリジナリティに溢れていると思うよ。

——現在のブラック・スラッシュメタルについてはどう思いますか？
Leon：たくさん最悪なバンドと最悪なスタイルがあるよね。メディアに多く取り上げられ、マーケットに合ったものを作って産業の一部と化しているのも気にいらない。だけど、本物のメタル・ヘッズはメタルのルーツは誰なのかを知っていると思う。たくさん良い音楽を聴いて、それらをリスナーが判断すべきなんだ。

——ブラックメタル・バンドがキーボードを使ったりするのはどう思いますか？
Leon：一部の例外を除いて、俺はそういったブラックメタルは好きじゃないね。キーボードを使う意味がわからない。キーボードはDEEP PURPLEのようなハードロック・バンドが使えばいいんだよ。

——現在のブラジルのハードコアやメタル・シーンについて教えて下さい。
Leon：今はたくさん良いバンドがいるよね。キーボードを使ったブラックメタルやブラスト・デス・バンドは、もはや飽和状態だと思う。でも素晴しいバンドはいるんだよ。DEMONTHOR、FARSCAPE、DOMINUS PRAELLI、DIABOLIC FORCE、KABARAH、POETICUS、SEVERUS、FLAGELADOR、ATOMIC



『The Return of The Satanic Rites』LP
(Dark Sun)

(左上)明らかにHELLHAMMER唯一の作品『Apocalyptic Raids』からの影響下にある1stアルバム。バンド名はもちろんのこと、ジャケットもいかにもっぽく、ここまで潔くやると文句もあるまい。サウンドも実に研究し、まるでHELLHAMMERの新作かと思えるほどだ。トレイの下に書かれている「Maximum Metal Mayhem」もナイス。
(左下)上記作品の直前にリリースされたスプリット盤で、そのアルバムにも収録されている「Angels of Hell」と「The Impaler」の2曲を収録している。
(上)今年リリースされた新作。

Leon Manssur
C.P. 44034
Rio de Janeiro - RJ
CEP 22060-970 Brazil



only death is real...

ROAR、NO RACE、BYWARとかね。

──HELLHAMMERはもちろんのこと、初期CELTIC FROST、初期VOIVOD等はむしろメタル・ヘッズよりハードコア・パンクスからの支持の方が熱いと思いますが、どう思いますか?
Leon:うん、CRUDE SSやANTI CIMEX、DISCHARGE等のファンに好まれているということは光栄だね。俺達はハードコア・シーンにあるような自由や素直な気持ちを表現する感覚を常に持っているし、典型的なサタニック・バンドなんかじゃないからね。ときどきサタニズムに対して考えたりすることはあるけど、それは非常に正直であり率直な意見でもあるんだ。

──APOCALYPTIC RAIDSを聴いていると、どこかハードコア的な印象も受けます。例えばDISCHARGEやイギリスのハードコア・バンドの影響を感じるんですよね…。
Leon:それは俺達にとって褒め言葉だよ! やっぱり俺達がONSLAUGHTのことをかなり好きだと、キミはどうやら知っているみたいだよ。彼等がハードコアからブラックメタルに変わった後にリリースされた最初のアルバムの『Power From Hell』なんて、イギリス版HELLHAMMERみたいなもんだよね。『Power From Hell』に収録されている「Thermonuclear Devastation」みたいに、このアルバムではハードコア・ソングが聴ける。その辺にハードコアとの接点を感じることができるよね。

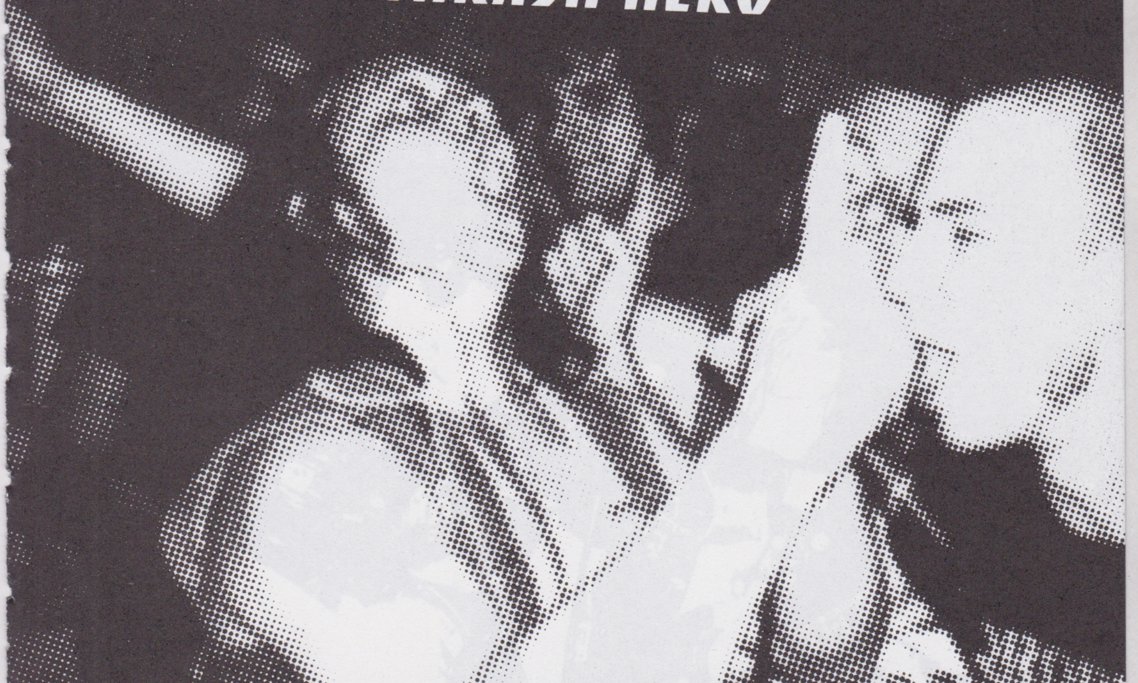
──日本について、何か知ってますか?
Leon:あまり詳しく知らないけど、人をなかなか受け入れないってイメージがある。あと現代的なものと伝統的なものの共存に問題があるかな。いつか日本でプレイしてみたいけどね。

──今後の予定は?
Leon:よりメタルに、より可愛い娘をゲットし、よりたくさんビールを飲むことだよ!!!

──最後に一言お願いします。
Leon:インタビューありがとう! KEEP THE TRUE SPIRIT! 自分は自分であるということを忘れるな!!!

MUNICIPAL WASTE

THRASH HERO



ユースクルー・ハードコアがもてはやされている中、いつの時代にもどっちつかずな立場で、ある時はヘヴィメタル扱いされたりハードコアだったりと振り回されているクロスオーヴァー・ハードコア。古くはACCUSED、D.R.I.、C.O.C.、CRYPTIC SLAUGHTER、SUICIDAL TENDENCIES等を中心に活躍していたが、2003年現在はこのMUNICIPAL WASTEを筆頭にアンダーグラウンド・ハードコア・シーンにおいて世界的に盛り上がっている。やはり、ハードコアやヘヴィメタルなどといった分別が無意味だということ。格好良ければ良いのだ!!!

INTERVIEW

── MUNICIPAL WASTEってバンド名は、どうしてついたんですか?

Tony:ある日、俺達のバンドのギタープレイヤーであるRyanが、ワシントンD.C.へドライブしている時に、ゴミ収集車の後ろに書かれていた"Municipal Waste"を見て、彼の頭の中からその言葉が離れなかったんだ。それで俺達は、今こういったバンド名なんだ。

── MUNICIPAL WASTEの歴史を教えてください。最初からクロスオーヴァー/スラッシュをやろうと思ってたんですか?

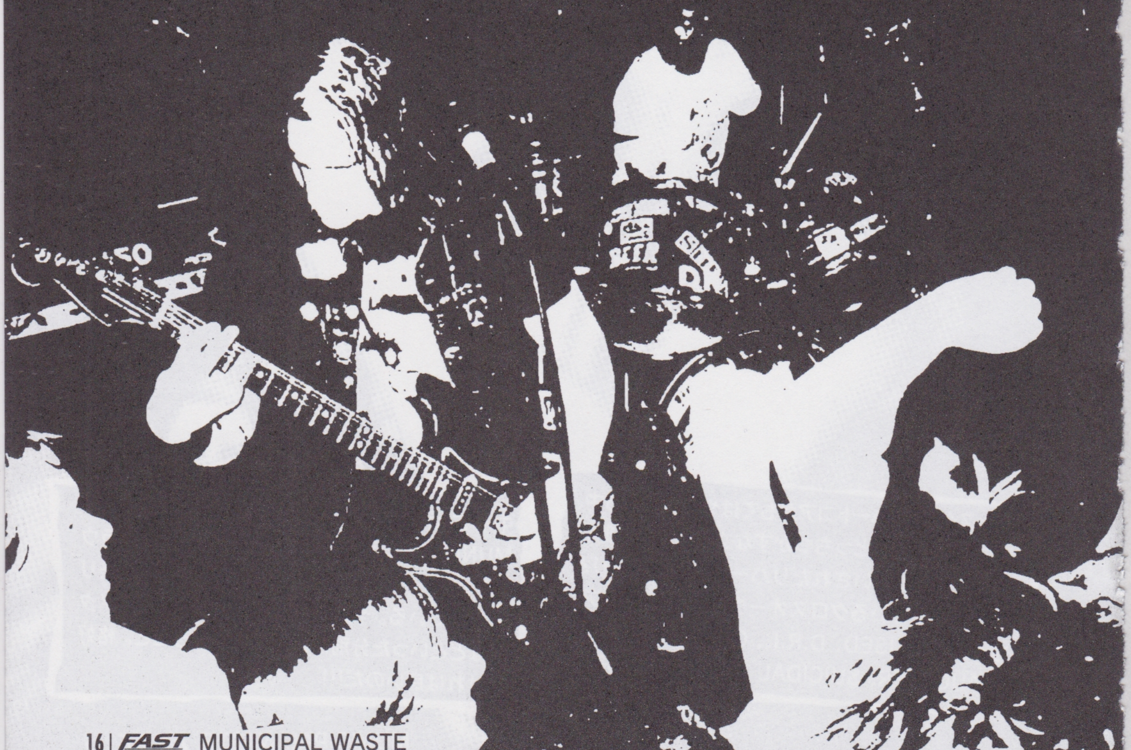
Tony:リッチモンド・ハードコア・シーンのタトゥを入れたタフガイ4人によってMUNICIPAL WASTEは3年前に始まったんだ。別に最初からクロスオーヴァーなバンドをやろうなんて話はなかったけど、S.O.D.やD.R.I.のようなスラッシュ・バンドをいつも聴いていたんだ。毎日同じようなガレージロックばかりラジオから流れているし、フラストレーションがたまるとレコード・ショップに行って"スラッシュ"なレコードを買っていた。その中でも特に好きなのがSLAYERやACCUSED、TANKARD、C.O.C.だ! これらは凄いスラッシュだぜ!

── SIX WEEKSからレコードを出そうと思ったのは?

Tony:そりゃSIX WEEKSがスゲエからだよ! 何かDEATH RECORDSやCOMBAT COREみたいな感じがしたんだ。JeffとAthenaはバンドに対して熱意を持って対応してくれるしね。だからSIX WEEKSから出すんだよ。

── 僕は高校生のとき、とにかくスラッシュメタルが好きでした。特に西海岸のMETALLICAやSUICIDAL TENDENCIES、POSSESSED、HEATHEN、VIO-LENCE、EXODUS、TESTAMENT、HIRAX、DEATH ANGEL、LAAZ ROCKIT、SACRED REICH、そしてFORBIDDENとかね!!! あなたはもっとハードコア寄りを好んでいたと思いますが、80年代のベイエリアのスラッシュメタルは好きですか?

Tony:HELL YES!!! もし良かったら俺と昔のレコードをトレードするか?





──じゃあ、リストを送りますね! …では現在のベイエリアのハードコアはどう思いますか?
Tony:ANNIHILATION TIMEやHOLIER THAN THOU?、FUNERAL SHOCK、DEADFALL、VOETSEKとかナイスなバンドはいっぱいいるよ!

──ではアメリカ以外の、例えばヨーロッパのバンドはどう?
Tony:凄い好きだよ! 特にCELTIC FROSTとSODOMは俺等にスゲエ影響を与えているね。

──MORBID ANGELやDECIDE、OBITUARYのような90年前後のデスメタルは?
Tony:俺はDECIDEの大ファンだけど、デスメタルってものをあまり聴いていない。俺にとっては昔のハードコアなレコードを聴いていた方が楽しいね。

──『Waste 'em All』の音はS.O.D.的だと感じ、ジャケのイラストはどこかLAAZ ROCKITっぽくも感じたのですが、どうでしょう?
Tony:LAAZ ROCKITってのは賛成できないね。S.O.D.的というコメントは、俺達にとってものスゲエ褒め言葉だよ!

──現在のクロスオーヴァーまたはスラッシュメタルはどう思いますか?
Tony:もし今それらの人気があったら、俺はあまり嬉しくないな。人を騙して儲けようって奴もいないからイイんだ。俺等がライヴでプレイして、サークルピットが出来て盛り上がって、スゲエ客からの反応が良い、それだけでイイんだよ。

──90年代、多くの奴が口を揃えてスラッシュメタルは嫌い、またはダサイと言ってましたが、どう思いますか?
Tony:俺に言わせりゃ、そいつらこそクソだね。

──10年前、LACK OF INTERESTやINFEST、NO COMMENT、CROSSED OUT、SPAZZ、CAPITALIST CASUALTIES、そしてMAN IS THE BASTARDの所謂"パワーヴァイオレンス"が勢いを増していましたが、あなたはどう思ってましたか?
Tony:俺はそれらのバンドが、心の底から大好きだね。残念なことに、これらの勢いはなくなってしまったけど、去年リリースされたINFESTのレコードなんか最高だったな!

──では、個人的に日々良いことと、嫌なことはあり

ますか?
Tony:ビールが自由に飲めることは最高だね。…でもビールが無かったら最悪だよ!

―― 日本についての印象は?
Tony:本当にツアーがしたい!!!!!! 誰か俺等をサポートしてくれる奴がいたら、是非連絡してくれ!!!

―― では最後に一言お願いします。
Tony:オールドスクールは、週末にクールな映画を観るように最高だよ!

MUNICIPAL WASTE
p.o. box 6311
Richmond V.A. 23230



split12"EP with CRUCIAL UNIT
(Six Weeks)



『Waste'em All』LP
(Six Weeks)

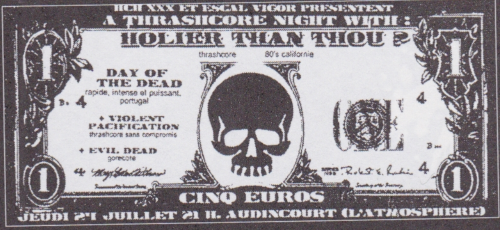
(左)勢いのあるメタリック具合が共通するCRUCIAL UNITとのスプリット盤。80年代をリアルタイムで過ごした世代に限らず、80年代ハードコアが好きな人なら、もしレコード屋でこのジャケットを引っぱり上げたら思わず声を出して喜んでしまうのではないか? 決して上手いとは言えないゴチャゴチャしたイラストを用いたジャケットは、ACCUSEDの3rdアルバムを彷彿させる。音も同様のクロスオーヴァーで、硬質且つヘヴィな感じも堪らない。ヴォーカルの声質もいくつか使い分けユニークだし、5曲目は何となくD.R.I.っぽく聴こえる。また、CRYPTIC SLAUGHTER級の畳み掛けるような厚みのある疾走パートも最高だ。ちなみに写真は12インチ版のジャケット。CD版はシンプルなジャケットに、各バンド名が書かれているだけなので、できれば雰囲気たっぷりの12"EP版をお薦めします。
(右)スプリット盤同様、いやそれ以上にこのジャケを見たら叫んでしまう人がいるはずだ。アルバム・タイトル、ジャケのイラスト、メンバーのルックス、何から何まで80年代中期〜後半のスラッシュメタル!!! インタビュー中にあるようにまさにCOMBAT周辺のバンドっぽい。音はスプリット盤と比較にならないくらいクリアになり、その影響もあってなのかモロNUCLEAR ASSAULTになった!!! 鳥肌モノの超クールなリフの連続で、ヴォーカルの声質も何となくJohn Connelyを思い出すし、スラッシュメタルならではのバックコーラスの掛け声も最高にクール!!! ダッシュ力はS.O.D.並にパワフル!!! これほどまで徹底的格好良いスラッシュメタルをやってしまうバンドは、世の中探してもそうはいないだろう。個人的な2003年度レコードランキングでは、間違いなく1位に輝く作品だ!!!



HOLIER THAN THOU?

※今回使用した写真はヨーロッパ·ツアー時のものです。







ある意味ギミックとも受け取れるバンダナ・スラッシュとうって変わって、ハードコア本来のパワーとスピードを兼ね備え、今最も勢いを感じるHOLIER THAN THOU?。VITAMIN Xのようなユースクルーの流れを組むハードコア・バンドと共通し、ファストなスラッシュ・サウンドが魅力なのだが、さらにメタリックなノリを手に入れてより強力になったといえる。前頁のMUNICIPAL WASTEと同様に今こそ注目すべき旬なハードコア・バンドなのだ!!!



INTERVIEW

──HOLIER THAN THOU?ってバンド名はどうしてつけたんですか?

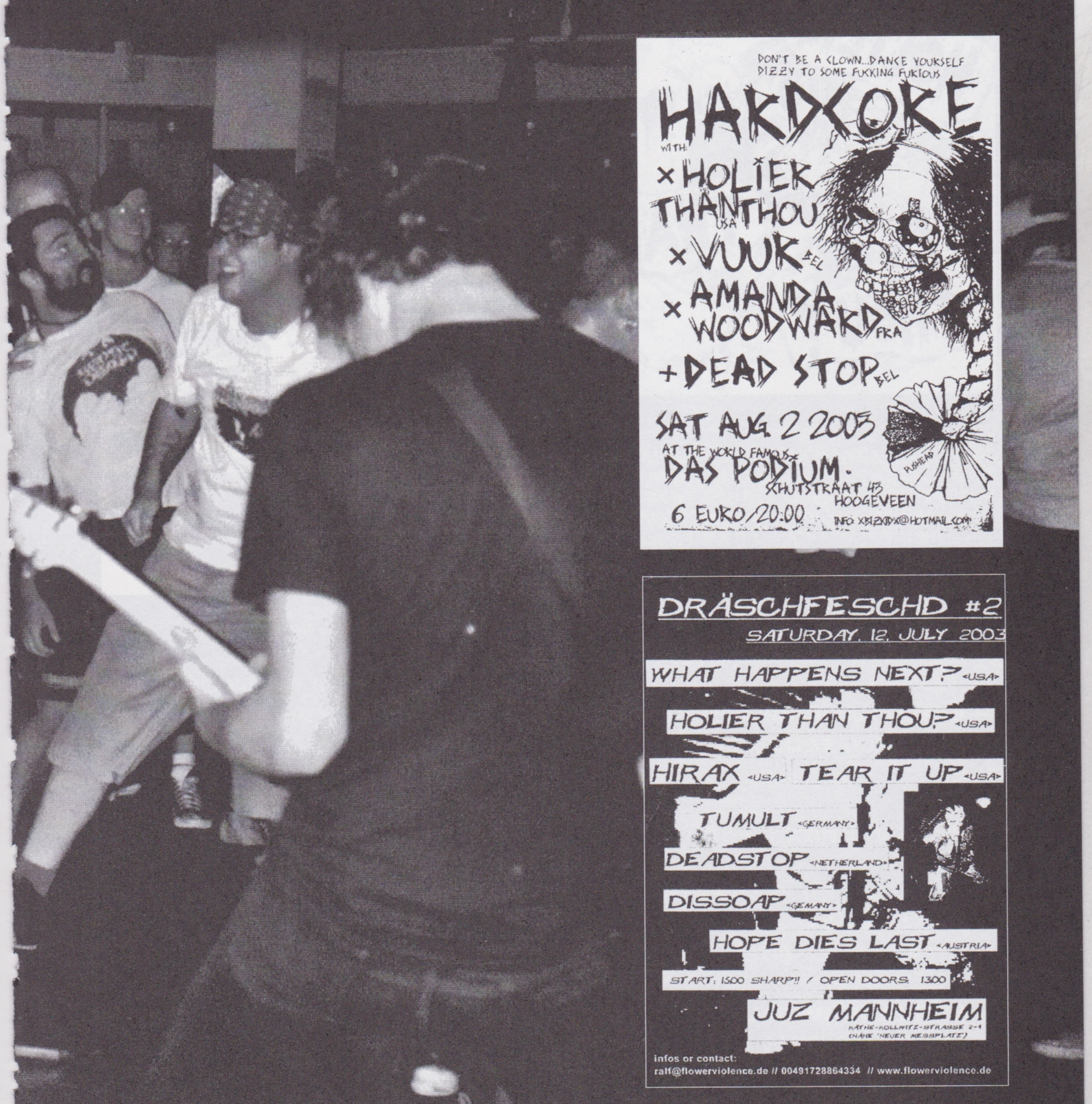
D.R.：俺達がバンドを結成する数年前から、Jeffが考えていた名前なんだ。それに俺が疑問符を加えたんだ。

Jeff：CORROSION OF CONFORMITYのライヴ・フライヤーからとったんだよ。

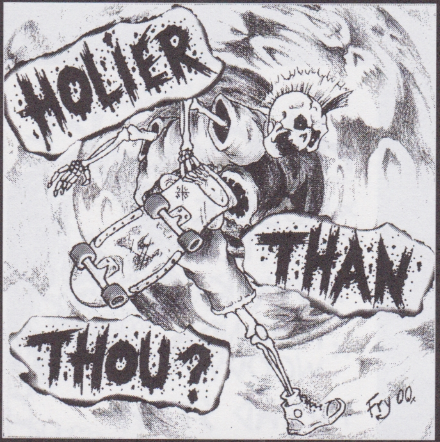
──現在までのHOLIER THAN THOU?の活動について教えてください。最初からクロスオーヴァーなスラッシュをやろうと思ってたんですか?

Kevin：本当は一緒にプレイするまではクロスオーヴァーなスタイルではなかったんだ。でもやっていくうちに、自然とスラッシュになっていったんだ。

Jeff：最初は誰もやっていなかったから、スラッシュ/スピードコアをプレイしていたんだけど、少しずつ成長してクロスオーヴァーになったのかもな。俺の青春



時代だよ。
D.R.:クロスオーヴァーは、俺等がティーンエイジャーだった頃好きだったサウンドだからね。でも90年代はこのスタイルは通じなかった。その頃はスラッシュ/クロスオーヴァー・シーンがなかったからね…。俺とJeffはルームメイトで、この酷い状況についていろいろ話し合ったんだ。しかも最近のハードコアは、どれも同じようなメッセージだしね。それで俺達は典型的



7"EP
(Six Weeks)

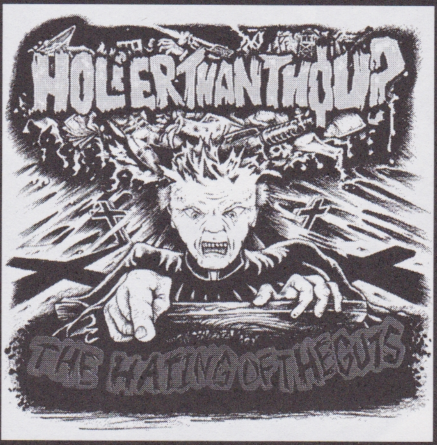
2000年にリリースされたHOLIER THAN THOU?初単独音源。メタリックなスラッシュ・サウンドで、この頃は1stアルバム時のSUICIDAL TENDENCIESといった感じだ。ジャケのイラストもスケートをキメているが、インナー写真では80年代のスケート・シーンの重鎮でスーサイダルとは兄弟関係にある"DOG TOWN SKATES"の板を使用してキメた写真がのっている。

なハードコアなサウンドではなく、自分達の好きな音でハードコアをプレイしようと思ったんだ。

── 私が初めてHOLIER THAN THOU?を聴いた第一印象はNO MERCY、またはSUICIDAL TENDENCIESでした。
Kevin:おぉ!
Jeff:俺はその意見に賛成だし、そう言ってくれて嬉しいよ。
D.R.:ありがとう! バンドとして今までの中で最高の褒め言葉だよ! 俺達のギターサウンドは、メジャーなバンドにも影響を受けているけどね。

── 私は高校生の時はMETALLICAやPOSSESSED、VIO-LENCE、EXODUS等といったスラッシュメタルが流行してました。80年代のベイエリア・スラッシュメタルは好きでしたか?
Jeff:もちろんだよ。でも俺はもっとハードコアだったかな。従兄弟と隣に住んでた奴がMETALLICAやSLAYERやIRON MAIDENが好きだったから、その影響もあるかな。
D.R.:俺も最初はそういったのが好きだったけど、だんだんクロスオーヴァーなものを求めていったね。だから俺が10歳の頃はメタルばかり聴いていたけど、12歳になった時はパンクも好きになっていた。俺の中ではメタルもパンクも同一線上にあるんだ。

HOLIER THAN THOU?の代表作と言っても過言ではない1stアルバム。スラッシュ・メタリック具合や上ずったヴォーカル・スタイルは相変わらず格好イイし、疾走感はよりパワーアップ。特にギターサウンドを中心としたリフが最高に堪らない!!! LP盤は当然グッドだが、CD盤には前作の音源がボーナストラックとして収録。今イチ違いがわからないが、リミックスと記してある。



『The Hating of The Guts』LP/CD
(Six Weeks)

Kevin:HIRAXは最強だね! 俺は85年に地元で観たことあるけど、本当にクレイジーだったよ!

── HELLHAMMERを筆頭としたヨーロピアン・スラッシュはどうですか?
D.R.:そうだね。俺はヨーロッパのバンドも好きだよ! BATHORYは今でもフェイバリット・バンドだしね。
Jeff:俺はBATHORYとVENOMが好きだね。他は正直に言ってあまり聴いてない。俺はUSスピードコアが凄い好きなんだ。
Noel:CELTIC FROSTは最強だよ!!! 俺はCORONERも好きだね。

── 例えばMORBID ANGELやDECIDEやOBITUARY

等のデスメタルはどうですか？
Kevin：嫌いだね。
Jeff：俺も好きじゃないし、魅力を感じないな。ドラムを叩く音はベルみたいだしね。テクニック面では凄い過激だけど、俺にとっては重要なことじゃないね。
D.R.：オールドスクール・デスメタルは好きだけど、最近のは興味ないな…。俺はMORBID ANGELは好きだよ。



『We Come in Peace...We Leave in Pieces』7"EP
(Flowerviolence)

今年ヨーロッパ・ツアー用にリリースされた3曲入り7"EP。スーサイダルというよりは、まるでACCUSEDとHERESYを足して割ったかのような音に変化したけど、基本的にはメタリックなオールドスクール・スラッシュ・サウンドであることには変わりはない。チープなジャケットがある意味印象的。

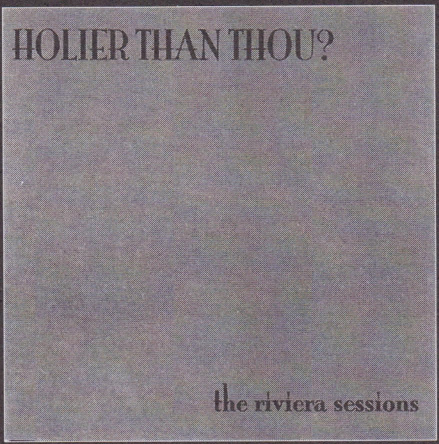


『High on Barbecue』12"EP
(Deranged)

片面のみの録音という不満を吹き飛ばす、誰がどう聴いてもスーサイダル以外の何物でもない「50 ways to Lose Your Liver」で始まる6曲入り12"EP。それ以降もやはりスーサイダルを彷彿させるメタリック・スラッシュの嵐。ジャケット通りスケートにマッチした曲の連続だ。

── 触発されたバンドは何ですか？
Jeff：これまでに触発されたバンドはたくさんいるよ。R.K.L.、ACCUSED、C.O.C.、FACTION、7 SECONDS、GANG GREEN、AGNOSTIC FROST、CHRIST ON PARADE、POISON IDEA等だね。

左記のヨーロッパツアー用に作られた7"EPと、スケート写真がクールな片面収録の12"EPをカップリングしたCD。実に味気ないジャケットだが、レコーディング時の写真が満載なので見ていて楽しいし、便利な1枚だ。



『The Riviera Sessions』CD
(Deranged)

D.R.：全てをあげるのは難しいな。いくつかだけ言うとR.K.L.、D.R.I.、CORROSION OF CONFORMITY、SUICIDAL TENDENCIES、THE ACCUSED、DIE KRUZEN、BEYOND POSSESSION、S.N.F.U.、BAD BRAINS、G.B.H.、RUDIMENTARY PENIとか他にも1000バンドはいるかな。
Noel：俺もいろいろ影響されたね。YOUTH OF TODAY、FU'S、DEAD BOYS、NAKED RAYGUN、MELVINS、SUBHUMANS等々だね。NO THANKS NIK ULMER。
Kevin：まあ、だいたい判るんじゃないかな。

── スケートボーディングは今でもやっているの？
Noel：仕事がある時、時々やっているかな。
D.R.：スケートできる時間があればやるよ。
Jeff：もちろんやっているよ。今でも好きだしね。だけど今はスケートをやると心が痛むんだ…。
Kevin：俺はスケートするときはJeffに許可を得ないと駄目なんだ。というのも俺は以前、ものすごく多く



の骨が
折れたことがある
んだ。今思うと俺はその時は最悪
だったよ。

―― 現在のクロスオーヴァーまたはスラッシュメタルの人気はあると思いますか？

D.R.：そうは思わないね。

Jeff：俺もそう思うけど、今は速いハードコアに変わっているよね。それがファッショナブルなのかもな。

Kevin：たしかに人気はあると思うけど、ものすごくビッグな人気ではないよね。今年の夏にヨーロッパ・ツアーした時、以前ツアーした時に比べて人気があると感じたけどね。たぶん、もう下火になりつつあるかもしれないよ。

―― 現在のカルフォルニア・シーンはどうですか？

Jeff：いいと思える部分もあるし、不愉快な部分もある。その日、その日によって違うな。

D.R.：良かったり、悪かったりだね。南カリフォルニアはあまり良くないんじゃないかな。

Noel：STREET TRASH、ANNIHILATION TIME、COVERD IN SCARS、EL BARBARO、DEADFALL、STRUNGUPとか良いよね。

Kevin：そうだな、南カリフォルニアは最悪だ。多くのバンドがベイエリアに行ってしまうからね。

―― 90年代にブレイクしたLACK OF INTERESTやINFEST、SPAZZ、CROSSED OUT、NO COMMENT、CAPITALIST CASUALTIES、そしてMAN IS THE BASTARDといった所謂パワーヴァイオレンスのほとんどが解散してしまいましたが、どう思いますか？

Jeff：俺は…残念だけどたしかにそうだよね。これらのバンドはみんなグレイトだったけど、ほとんどが過去のバンドなんだよね。俺としてはこれらのバンドのレコードを、今のバンド以上に欲しいとは思わないんだ。

D.R.：実は俺もあまりパワーヴァイオレンスなスタイルのバンドを知らないんだ。でもキミが言ったバンドは好きだね。MAN IS THE BASTARDとその多くのプロジェクト、例えばCHARRED REMAINS、NEANDERTHAL、BASTARD NOISE等が好きだし、だけどこのバンド達はパワーヴァイオレンスから外れるかな。俺達の友達であるCAPITALIST CASUALTIESのJeffも大好きだ。INFESTやSPAZZも良いね。



Kevin:俺はパワーヴァイオレンスが死んだとは思っていないよ。ポーランドのPIGNATIONのように素晴しいバンドがいるからね!

──ファッションとしての所謂バンダナ・スラッシュはどう思う?
Jeff:弱々しいね。
Kevin:そうだね、最悪だ。
D.R.:バンダナ・スラッシュてのは、俺が今まで観てきた中で一番バカらしくてポーザーだと思うね。キッズが自分達のグループの証しとして、阿呆らしい服装で揃えたってのが始まりなんだろうな。そういったことはパンクやハードコアにおいてナンセンスなことだ。ファッションばかり気になって、そんなの全然パンクじゃないよ。

──METALLICAの新作『St. Anger』は聴きましたか?
Jeff:彼等は昔は最高だったね。
D.R.:昔のMETALLICAは俺のハートを掃除機より吸い込んだね。
Noel:Cliffと共に死んでしまったよ。
Kevin:その通りだと思う。

──では話を変えて…。日本についての印象は?
Jeff:特にないな。
Noel:GAUZE、S.O.B、NIGHTMAREのような凄いバンドがいる国だね。あとタトゥも凄いんだろ!!!
D.R.:俺はバンドで行ってみたいね。
Kevin:日本の文化には非常に興味あるね。いつか行ってみたいよ。

──では最後にメッセージをお願いします。
Jeff:インタビューありがとう。
Kevin:そうだね、ほんとにありがとう!
Noel:また連絡してくれ。
D.R.:俺達みたいな奴にインタビューしてくれてありがとう。遠い国の人達が、俺達の音楽を聴いているなんて最高に嬉しいよ!!!
www.holychurchofannihilation.comでいろいろチェックできるよ。



DFA

INTERVIEW

── DFAという名前の由来を教えてください。また正式にはDESTINED FOR ASSIMILATIONなのですか? それともDEFY FALSE AUTHORITYなのですか?

Kramer:最初にDFAってバンド名を考え出した理由については、あまりにも馬鹿げた話だから言えないな。キミが言ったDFAの略については、DとFとAで始まる言葉をたくさん書き留めて、それらに番号をふって、その中からサイコロを転がして選んだんだ。

── パンクな名前の付け方ですね。ではこれまでの経緯を教えてください。最初からクロスオーヴァー/スラッシュをやろうと思ってたんですか?

Kramer:DFAはMikeと高校生のときに始めたんだ。もしずっと続けられるのなら、俺達にとって凄いクールなことだと思って始めたんだよ。仕事としてではなく、あくまでも俺達が楽しみたかったんだ。ハードコアというスタイルだけでなく、俺達はメタルや他の速い音楽も好きだったから、やっていくうちにハードコアから、スラッシュ・スタイルに変わっていったんだ。もし俺達が素晴しいミュージシャンだったら、正統な音楽をやっていたと思うよ。

── ACCUSED等のようなクロスオーヴァーなスタイルを感じますけど。

Kramer:一応言っておくけど、俺はあまりACCUSEDを聴いていないんだ。でも俺は彼等のことを凄いと思うよ。もし何かのカテゴリーに入れるとしたら、俺達はACCUSEDと同じなんだろうね。

── ではどんなバンドに影響されたんですか?

Kramer:俺達がバンドを始めたときはRUSHとLEFT FOR DEADだったね。セリーヌ・ディオンもよく聴いていたよ。あと昔のSLAYERやMINOR THREATも聴いてたね。でもやっぱりRUSHとLFDばっかり聴いていたってのが正しいね。

── DFAはスラッシュメタリックなギターですよね。

Kramer:俺達にはメタルのルーツはないよ。だから俺はそうは思わない。

── 今のクロスオーヴァー/スラッシュはどう思いますか?

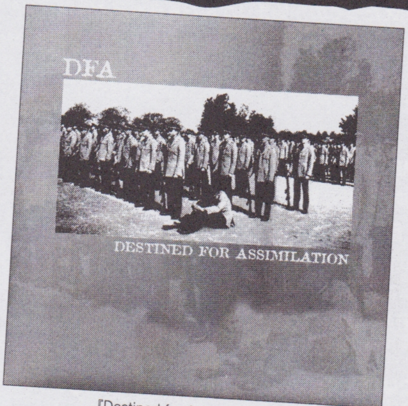
Kramer:いいと思うね。だけど俺からは何も言えないよ。DFAメンバーのMikeもクロスオーヴァー/スラッシュは好きみたいだけどね。俺はその辺についてあまり詳しくないし、そのシーン自体は大きくないと思うけどね。

── 少し前に流行ったバンダナ・スラッシュについては?

Kramer:俺に言わせればバンダナは馬鹿げているよ。

── INFESTやCROSSED OUT、NO COMMENT、SPAZZ、CAPITALIST CASUALTIESに代表されるパワーヴァイオレンスはどう?

Kramer:最近リリースされたINFESTの『No Mans Slave』



『Destined for Assimilation』LP
(Ugly Pop)

メタリックなギター、疾走するドラムとベース、そしてシャウト・ヴォーカルの絡みは、まさに80年代クロスオーヴァーを象徴するACCUSED系譜のサウンド。ベースがギター・サウンドで掻き消されずにハッキリと聴こえるのもポイントだ。

先頃SIX WEEKSから2ndアルバムをリリースしたことをきっかけに、一躍人気且つ有名バンドになった感のあるカナダ出身のDFAは、程度なメタリック具合がハードコアを引き立てているのは言うまでもない。まだ音源が少ないが、確実にライヴをこなし、実績、実力ともに今脂がのっているといえるだろう。どんなスタイルであろうと勢いに乗ったバンドは、説得力と魅力が満載だ!!!

は凄い良かった。CAPITALIST CASUALTIESはここ数年活動停止してたけど、また復活したみたいだね。SPAZZも復活してほしいよ。俺はあまり観ていないから、もし復活したらクールだよね。

── 90年代はスラッシュメタリックなハードコアは人気ありませんでしたが、どう思いましたか?

Kramer: 馬鹿にしていた奴は愚かだと思うね。そいつらはメタリックなスラッシュ・バンドを妬んでいたんだと思うし、そういった馬鹿な奴はとことん落ちていけばいいのさ。そいつらが当時馬鹿げていたと思っていた事を、今その馬鹿げたことをみんな不十分な状態なのに始めているんだ。ほんと、俺はそいつらが嫌いだね。

── 俺はメタル世代だから高校生のときにMETALLICAやVIO-LENCE等を聴いてました。今こうして話すことも、決して恥じることではないと思うんですけどね…。

Kramer: おぉ、Heck Yeah! 昔のSLAYERやMETALLICAを聴いて、俺は最初にギターを練習したよ。たしかに、昔は俺も凄いメタリックなプレイが好きだった。でも、ギターソロはできないし、だからクロスオーヴァーなスタイルになったのかもな。

── 現在のカナダのシーンはどうなってますか?

Kramer: あまりよく分からないけど、でもUNDER PRESSUREやHEAD HITS CONCRETE、CAREER SUICIDE、SCARE TACTIC、STREETSといったバンドは凄い良いから、世界中から注目を集め始めているんじゃないかな。良いバンドもいるけど、クソ野郎もたくさんいるよ。

── あなたはUSスラッシュが好きなようですが、ヨーロッパのスラッシュはどうですか?

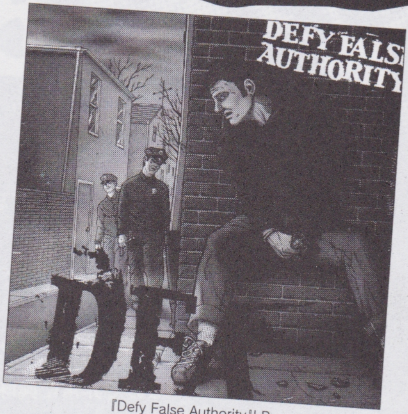
Kramer: そうだね、USスラッシュが好きだね。フェイバリット・バンドを4つ挙げるとしたらHOLIER THAN THOU?、CRUCIAL UNIT、ASSCHAPEL、MUNICIPAL WASTEだ。これらの素晴しいバンドは、決してクロスオーヴァーってジャンルなんかじゃないし、でも俺には適切な表現ができないね。ヨーロッパのスラッシュについては、あまり詳しくないんだ。やはりゴミ・レベルのジャンルは腐るほど多いし、いろんなスタイルがあるから特定するのは難しいな。

── 日本についてはどう?

Kramer: PAINTBOXは知っているよ。彼等は凄いバンドだ。日本のバンドで、もうひとつ好きなのはSLIGHT SLAPPERSだね。他のジャパニーズ・スラッシュはあまりよく知らないな。素晴しいバンドはいるとは思うけどね、聴くチャンスがないんだ。

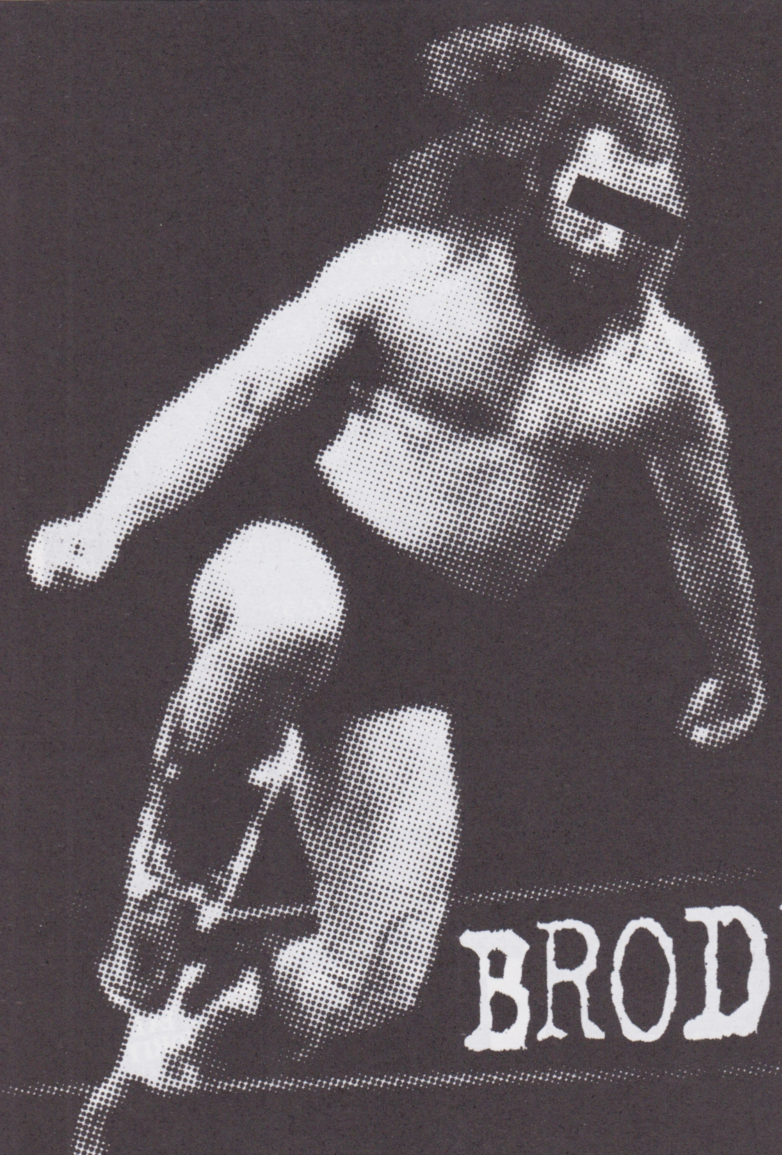
── では最後に一言よろしくお願いします。

Kramer: インタビューしてくれてありがとう。日本に俺達のことを知っている人がいるなんて思わなかったから嬉しいよ。PAINTBOXとジャパン・ツアーをしたいね。PEACE、そしてFUCK EMO。



『Defy False Authority』LP
(Six Weeks)

よりスピードにこだわった感のある2ndアルバム。一切ペースを落とすことなく疾走する様は、まさにスラッシュ。ギターが細かく刻み込んでくる箇所が増えてよりメタル度が増し、METALLICAのTシャツを着て叫ぶヴォーカルの写真も印象的だ。LEFT FOR DEADのカヴァー収録!



BRODY'S

昭和プロレス・ファンにとって忘れることのできない名レスラーのひとりブルーザー・ブロディの名を拝借し、ここ日本でもHELLNATIONのメンバーとして何度か来日したDoug在籍のBRODY'S MILITIA。かねてからプロレスとハードコアには共通するパワーがあると言われていたが、その接点をより近付けて具体化したバンドなので非常に興味深いし、頼もしい。かつて激しい試合で人気の高かったハードコア・プロレス団体のECWをサウンドで再現したかのようなBRODY'S MILITIAは、とにかく熱く、そしてデスマッチのように激しいのだ!!!

INTERVIEW

※"超獣"ブルーザー・ブロディ…
1979年、全日本プロレスの『新春ジャイアント・シリーズ』にて日本初登場。85年には新日本のリングにもあがる等計27回来日している名レスラーだ。スタン・ハンセンと「ミラクル・パワー・コンビ」を結成し、世界最強タッグ決定リーグで優勝したり、後にWWEに所属するジミー・スヌーカともダッグを組み活躍。ドリー・ファンクJrやジャンボ鶴田からインタ王座を奪取したり、アントニオ猪木とシングル戦を計6回行なうなど、日本マット界を語る上で重要な存在だ。得意技は、シュミット流バックブリーカーで叩きつけてから仕掛けるキングコング・ニードロップ。リングインする前から野獣ぶりを発揮していたが、試合開始後もやはり凶悪な野獣と化す。父親がユーゴスラヴィアからの移民炭坑労働者だったためか、彼の入場曲もあの「移民の歌」だった。しかし、1988年7月17日、プエルトリコの試合会場で、仲間のレスラーで日本への来日経験もあるホセ・ゴンザレスに刺され、42年の生涯を終えた。同年8月29日、日本武道館でスタン・ハンセンとのシングル・マッチが予定されていたが、「メモリアル・ナイト」と出して追悼イベントが行なわれた。そしてライバルのスタン・ハンセンは追悼試合でアブドーラ・ザ・ブッチャーと対戦。大量流血になりながらも、亡きブロディーに向けてロングホーンを捧げた。

※NWA…
アメリカ・マット界は今ではWWEが独占しているが、70～80年代はAWAとWWWF(現WWE)、そしてNWAのビッグ3が地域に密着して活動していた。中でもNWAは全米25団体だけでなく、全日本プロレスも加盟し、ジャック・ブリスコやハーリー・レイス、ジャイアント馬場、そしてリック・フレアーなど名チャンピョンを生む巨大な組織だった。しかし88年、オーナーであったクロケット・プロが、「ケーブル王」

── もうだいぶ前の話で申し訳ないのですが、HELLNATIONを辞めた理由から教えてください。

Douglas:HELLNATIONとしてヨーロッパ・ツアーの計画があった時、ちょうどその頃、俺は奥さんと知り合っていたんだ。だから、俺には彼等とツアーをする精神的に余裕がなかったから彼等に謝って脱退したんだ。彼等もすぐにベーシストが見つかって良かったと思っているよ。

── バンド名について聞きたいのですが、当然"超獣"ブルーザー・ブロディからヒントを得たんですよね?

Douglas:うん、もちろんだよ! 究極のプロレスラーに対するリスペクトを込めているんだ。俺達のサウンドはブルーザー・ブロディのように物凄くヴァイオレントで、イメージにピッタリ合うんだよ。

── 今までどんなバンドに触発されてきましたか?

Douglas:俺に影響を与えたバンドは、どれも似たようなタイプのバンドばかりかもしれない。でもその中でもRUPTUREは、俺にとってフェイバリット・ハードコア・バンドだよ! あとHERESY、MOTORHEAD、DEATH SIDE、CAPITALIST CASUALTIES、EXTREME NOISE TERROR、RIPCORD、鉄アレイ、HELLNATIONや昔のバンドとかだね。あと実は昔のカントリー・ミュージックも好きなんだけど、俺にはそういった音楽をプレイする声やギターのテクニックがないから、俺自身への直接的な影響はないんだ。

MILITIA

── GG ALLINやANTISEENとかはBRODY'S MILLITIAとしては影響を受けてないの?

Douglas:もちろん受けてるさ! ANTISEENは最もグレイトなアメリカン・パンクロック・バンドだよ! 俺達はラッキーなことに、ANTISEENと2回程ライヴをやっているんだ。俺達のベーシストなんて、家でプレイしているかのようにリラックスしている時でさえ、ひとりで騒いでいるからね。WIDESPREAD BLOODSHEDとの最新スプリットLPで、GG ALLINを2曲カヴァーしてるんだ。

── 破壊的になったりするのはどうしてですかね?

Douglas:俺は単純に破壊的なサウンドを放つバンドが好きだからいいと思うよ。

── ハードコア・シーンについてはどう思いますか?

Douglas:素晴しい友達がたくさんいたり、グレイトな音楽があるから俺にとっては最高だよ。それはパンク・ミュージックをプレイしているから彼等と出会え



るんだけど、でも普段ハードコア・シーンについて考えたことないな。

── 次の質問は音楽に関してではありませんが、プロレスは当然好きなんですよね？

Douglas：そうだね、俺はプロレスを心から愛しているよ！ ガキの時からずっと俺にとってのフェイバリットなことさ。7歳の時、祖父がNWAの試合に連れていってくれたんだ。それ以来、俺は取り付かれたようにファンになったよ。

── その初めて観戦した試合は何でしたか？ 僕自身はタイガーマスク対ウルトラマンでしたよ。

Douglas：はっきりと覚えているんだけど、オハイオ州のシンシナティ・ガーデンでワフー・マクダニエル対イワン・コロフだったよ。

── なかなか渋いところを観てますね！ ではブロディ戦はどうですか？

Douglas：間違いなくテリー・ファンクとの試合は全て良かったね。彼等は最高に偉大なレスラーだったよ。あの試合を観てしまうと、他がどんなに良くても記憶から消えてしまうくらいなんだ。

と言われたテレビ業界の大御所テッド・ターナーのターナー・エンターテイメント社が買収。事実上NWAは崩壊し、90年代に世界中で一大ブームを巻き起こした『nWo』で有名なWCWへと発展した。

※ウルトラマン…
1968年に素顔でデビューしているが、75年にウルトラマンとして再デビュー。メキシコから藤波辰己への刺客として来日を果たすが、本来ウェルター級の選手だったため、疑問の残る試合となった。3年後、当時体格的にも試合運び的にも似たタイプだったタイガーマスクのライバルとして再来日。当時、時空を超えた戦いとして盛り上がった。本名はベンチュラ・チャベス・ペレス。また戦後の名レスラーだったシャディト・クルスの長男であるUWA世界トリオ王座に君臨したブラソ・デ・オロに、1987年マスクを剥がされている。ちなみにパートナーとして、元々はマスクマンでラフ・ファイトを得意とするエル・ボラコも来日。

──ブロディといえば、日本での試合の時はチェーンを振り回しながら入場し、エプロンを行ったり来たりしながら吠えていた、というキャラクターだったのですが、本場アメリカではどうだったんですか？

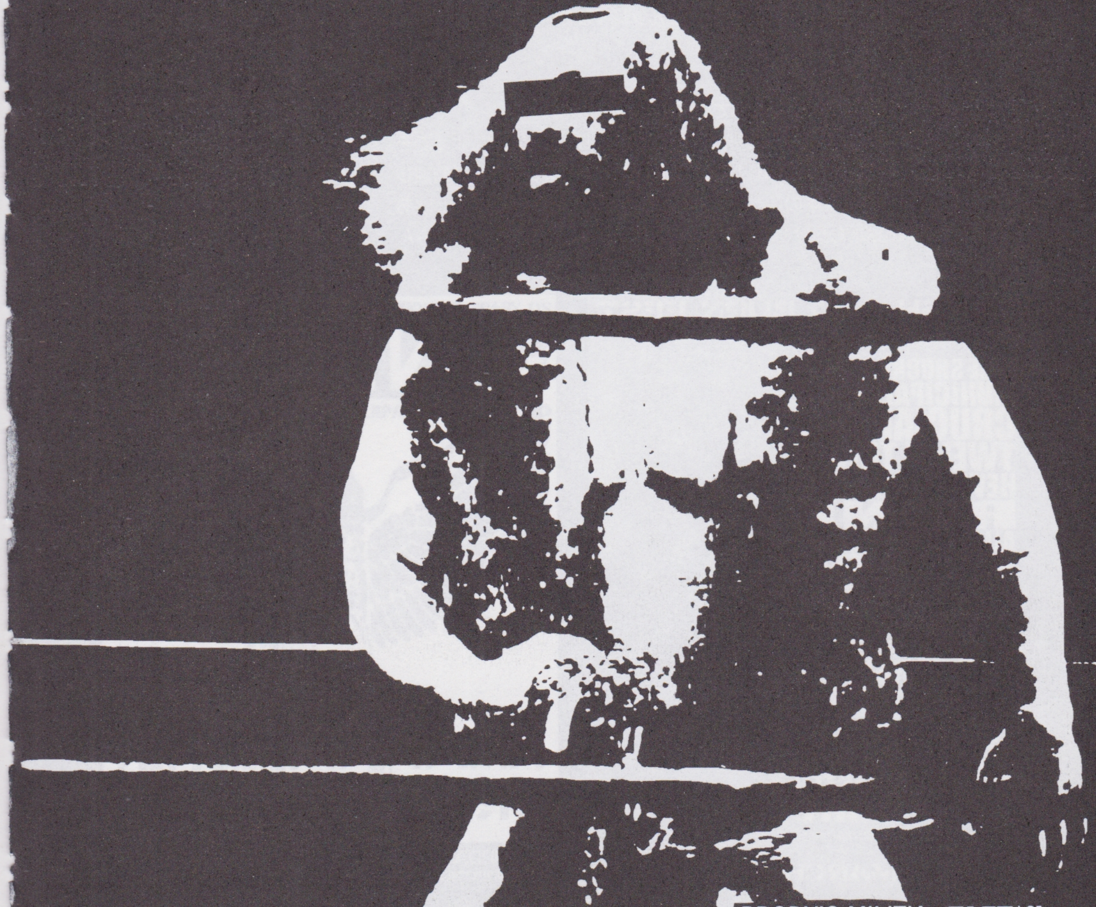
Douglas：俺がガキの頃のブロディは、全米でメジャー企業と契約していたから、彼をテレビで見ることはなかなかできなかったんだ。でも俺はアブドーラ・ザ・ブッチャーと戦っているブロディの写真をプロレス雑誌で見たことがあったから、知っていた。その後だいぶ時が経ってから、プエルトリコや日本のビデオを観るようになったんだ。その姿を観た時、俺が感じたのは半分人間で、またその半分は灰色の熊ってイメージだったよ。

──メジャー団体はどうですか？ 例えばWWEは好きですか？ 最近日本では年に1、2回来日公演があるのですが、その中でも僕は元ECWのダッドリー・ボーイズや元WCWのブッカーT、"ストーンコールド"スティーヴ・オースチン、レイ・ミステリオ辺りが大好きなんですよ。

Douglas：おお！ 俺はそのレスラー達のことを大好きとは言えないけど、今の業界の雰囲気と、ECWのような会社やカックタス・ジャックがテレビで出てた頃とは比較できないよね。でもWWEは俺が見る限り唯一レスリングをしている団体だから、だから俺はこれからもWWEを見続けるよ。WWEはしっかりとレ

※ワフー・マクダニエル…
NWA加盟団体だった全日本プロレスは、なぜかライバル団体のAWAとも協力関係にあった。そのためワフーはAWA所属レスラーとして『エキサイト・シリーズ』等で来日した。ちなみにイワン・コロフは、レッド・マックナティの名で1967年日本プロレスに初来日。

※テリー・ファンク…
『キン肉マン』主力キャラクター・テリーマンのモデル、ご存知「テキサス・ブロンコ」。兄ドリーとザ・ファンクスを結成し、1970年7月日本プロレスに初来日。77年12月の『世界オープンタッグ選手権』の決勝戦にて、ブッチャーから腕にフォークを刺されながらも優勝、日本での人気は不動のものとなった。83年に一度引退するが、後にECWやFMW、IWAジャパン等で活躍。全日本プロレス参戦時の得意技はスピニング・トーホールドだったが、インディー・マットを主戦場としてからは、ムーンサルト・プレス。今年、なぜかヒース・ヒーリングと「ニュー・テキサス・ブロンコス」を結成。



スリングをして戦い、スポーツ・エンターテイメントとしての方向性をしっかりと持ったことによって、本当の意味でのプロフェッショナルなレスリング、またはメインストリームな人気を集め始めているんだ。ただ、ダッドリー・ボーイズ、ロブ・バン・ダム、トミー・ドリーマー、タジリにしたって最高にクールだけど、彼等はWWEの中で技術を十分に発揮する機会を持っていないのが残念だよね。

──そういったプロレスと、ハードコアとの感覚の共通点ってなんだと思いますか?

Douglas: ANTISEENやNINE SHOCKS TERRORなんて、プロレスのような激しさを持ったパンク・バンドだと思うよ。それはいろんな部分で、プロレス的な感じがするんだよね。でも、他の多くのハードコア・バンドはちょっと弱々しい感じもするよ。なんかサッカーより思い出せない存在のバンドが結構いると思うな。でもね、日本のバンドでいえば、鉄アレイはたくさんプロレス的な部分があってパワフルだと思う。

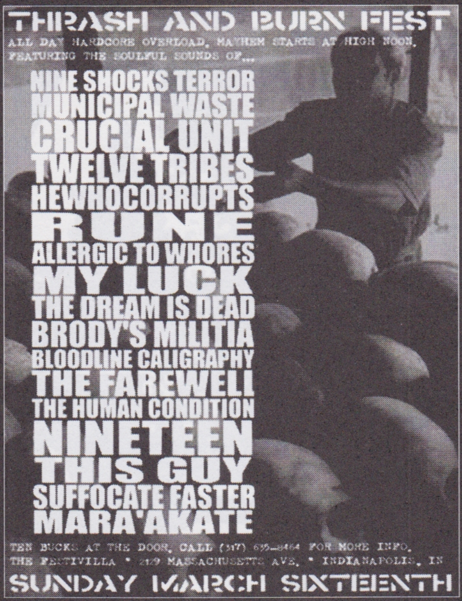
──普段はどういったバンドとライヴをやっているのですか?

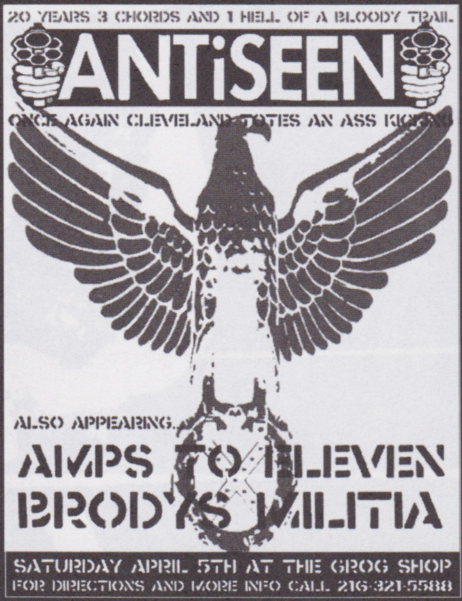
Douglas: 俺達はHELLNATIONとたくさんライヴをやっているし、友人でもあるVOETSEKともツアーをしたばかりだ。あと個人的にフェイバリット・バンドのひとつであるMUNICIPAL WASTEともたくさんプレイしているね。彼等はとにかく最高だよ!

──ところで日本についてはどう思っていますか?

Douglas: 日本には2度行ったことがあってその時に感じたけど、国によってそれぞれの考え方があるんだなと感じたね。普通の観光客のように各地で歓迎してくれて、俺はほんとに日本のことが好きだね。ただ何度か戸惑ったことはあったよ。1つ思い出したんだけど、街がとてもきれいだったので驚いたし、みん

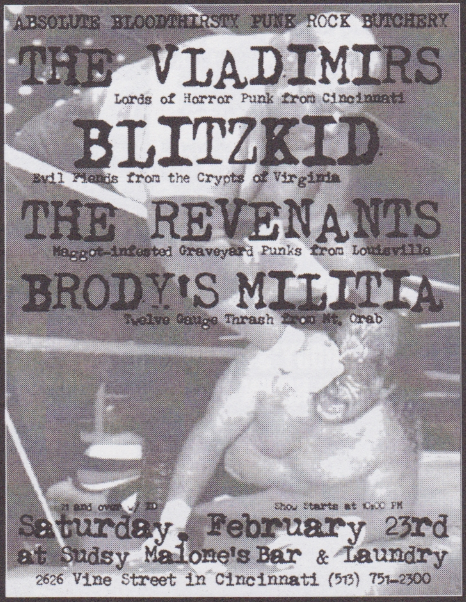
※ECW…
昨年、WWE"スマックダウン"ブランドのブロック・レズナーの名物エージェントとして再び脚光を浴びたポール・ヘイマン。そのポールによって作られたフィラデルフィア拠点のハードコア・プロレス団体。FMWばりのデスマッチを得意としながらも、現在WWEで活躍するダッドリー・ボーイズやロブ・バン・ダム等優れたレスラーを生んだ。2001年2月ECWは崩壊し、事実上WWEに吸収されたがいまだに人気が高く、WWEの試合会場ではよくECWコールが巻き起こるほど。ちなみにタジリもECW出身のWWEスーパースター。元々はキックボクシングのジムへ通いながらマーシャルアーツのベースを作った後、あの"アニマル浜口ジム"に入門。基礎トレーニングに始まって、アマレス仕込みのスパーリング等を身に付け、レスラーとして着実に成長し、その後IWAジャパンで働いていた彼をビクター・キニョネスがプロとしてデビューさせ、中牧昭二と共に大日本プロレスへ移籍。しかしあまりの待遇の悪さに離脱(笑)。メキシコへ渡りシルバーキング等と対戦し、プエルトリコ遠征を経てECWへと移籍した。当時ECW世界王座に君臨していたジャステイン・クレダブルにも挑戦、世界の頂点まであと一歩となるなど注目される存在だった。その間、FMWへ凱旋した経験もある。ECW崩壊後は、ビクターをエージェントとしてWWEと契約を果たした。ちなみにECWオーナーだったポール・ヘイマンはハリウッド・デビューを果たしている。






Hardcore Punk Rock Battle Royal
saturday, may 18th
Fast & Melodic Hardcore Punk
ALLERGIC TO WHORES
Nuclear Hardcore Attack
DESPITE
Chainsaw Thrash Punk
BRODY'S MILITIA
First Degree Distort
MURDER SQUAD
Detroit's Finest
FEAST OR FAMINE
directions at www.thrashyourface.com
five bucks, starts at six, all ages, kick ass
@ UAW 105 HALL in wapakoneta, ohio

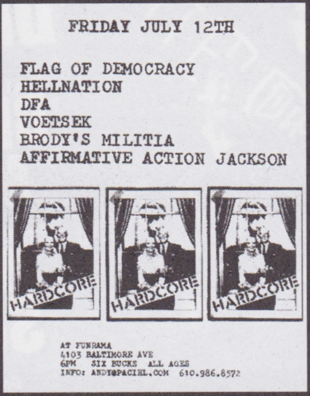

震 GODS OF WAR NOISE 坎
ALL PUNKS SPENDING DRUNK NIGHT
MUNICIPAL WASTE
BRODY'S MILITIA
Drunken Mountain Guerilla Punk Rock
Envenomed
Iron-Fisted Cincinnati Crustlords
DISMAL
BARBON
Grinding Whirlwind Thrash Violence from Cincy
AT METAL BLAST IN CINCINNATI OHIO
MONDAY MARCH SEVENTEENTH
ASSAULT BEGINS AT 11 - FIVE BUCKS - MORE INFO:

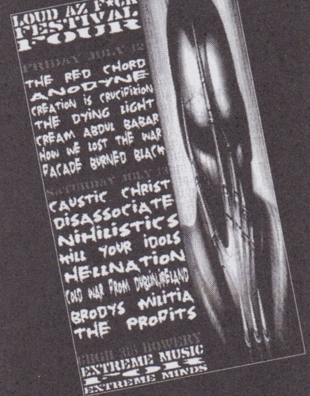

ABSOLUTE BLOODTHIRSTY PUNK ROCK BUTCHERY
THE VLADIMIRS
Lords of Horror Punk from Cincinnati
BLITZKID
Evil Fiends from the Crypts of Virginia
THE REVENANTS
Maggot-infested Graveyard Punks from Louisville
BRODY'S MILITIA
Twelve Gauge Thrash from Mt. Orab
21 and over w/ ID
Show Starts at 10:00 PM
Saturday, February 23rd
at Sudsy Malone's Bar & Laundry
2626 Vine Street in Cincinnati (513) 751-2300

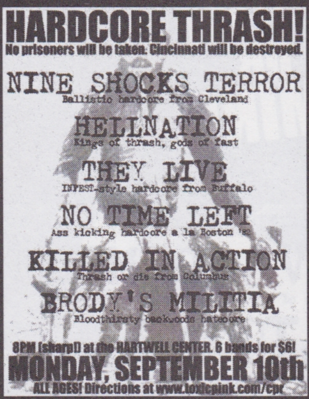
な歩くペースがとても速いんだ。しかもどれも無駄がなくて、例えば高速道路にしたってしっかりと細かいところまでオーガナイズされている。で俺のフェイバリットな場所は、MCRが拠点としている京都にある小さな町の舞鶴だね。あそこは俺のホームタウンの日本バージョンと思えるくらい良い場所だった。とても素晴しいし、平和な感じがしたよ。大仁田厚や大日本プロレス、CRUDE、SLIGHT SLAPPERS、PAINTBOXのように、日本にはまだまだいっぱい素晴しい人がいるね!

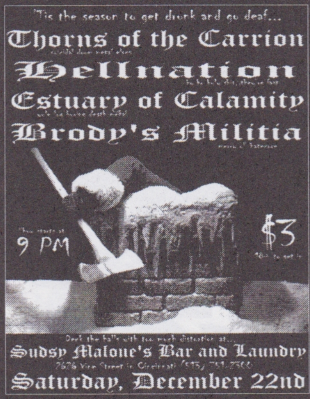
※大日本プロレス…
メジャー団体にも籍を置いたこともあり、今ではコスプレ王(笑)として有名なグレート小鹿率いるハードコア・プロレス団体、通称BJW。アメリカ・マット界でヒールとして名を馳せたケンカ屋ケンドー・ナガサキがエースとして活躍し、バラ線パーフェクトフォール・デスマッチによって1995年横浜文化体育館にて旗揚げした。

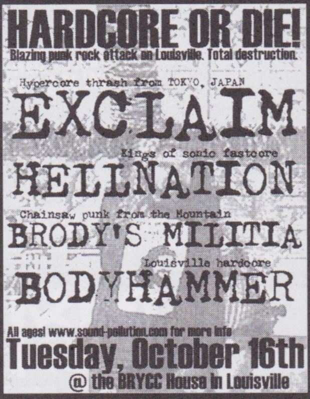


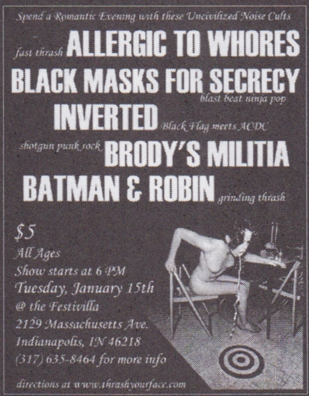


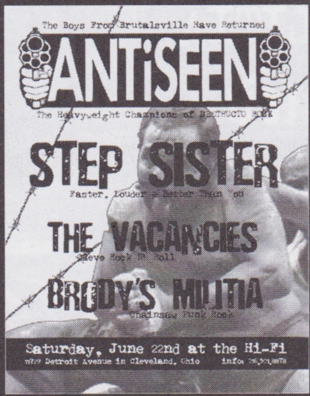


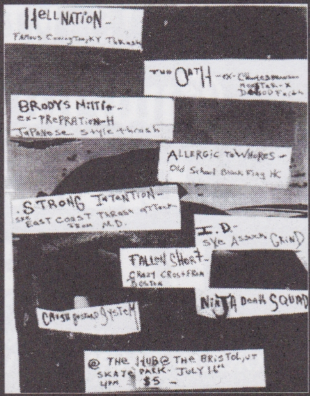


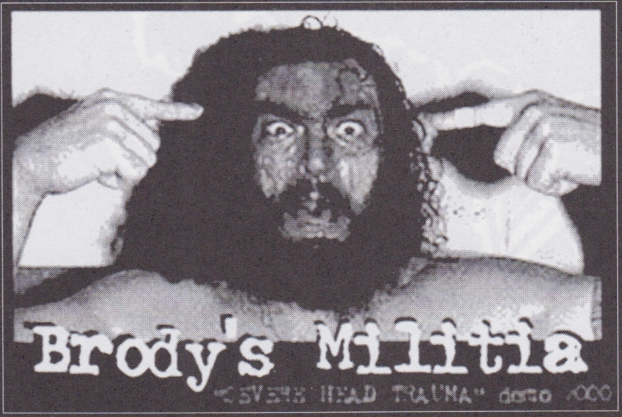


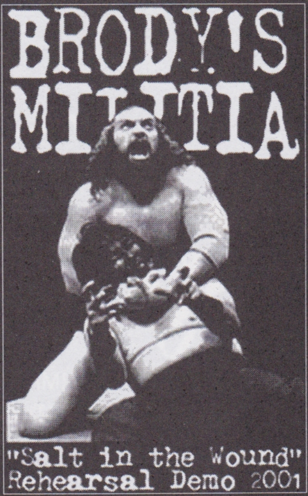






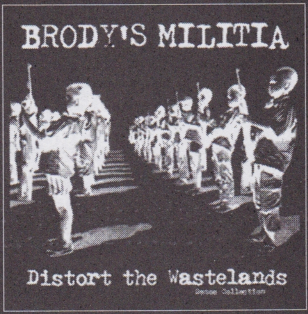




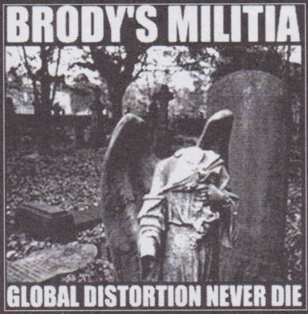




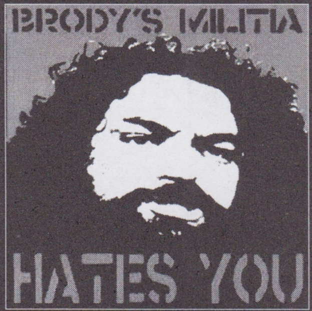
(左上)血まみれのブルーザ・ブロディーの写真が印象的な1stデモテープ。MOTORHEADとRUPTUREのカヴァーを収録。
(右上)ANTISEENとGG ALLINのカヴァーを収録し、ザ・グレート・カブキが痛めつけられているジャケットがナイス。
(左)2001年12月にレコーディングされたデモ。
(右)デモトラックを収録したCD-R。
(左下)GET THE AXE RECORDSよりリリースされた、事実上の初単独音源となった7"EP。ANTISEENの「Fuck All Ya'll」をカヴァー。
(下)THE FARTZ、FLAG OF DEMOCRACY、IDOL PUNCH、STRUCKそしてVIVISICKと共に収録されている。SOUND POLLUTIONよりリリース。
(右下)THE CRUNKY KIDSとのスプリット盤。
(最下)超クールなジャケの最新音源。











── 今後の予定を聞かせてください。

Douglas:俺達はスウェーデンのWIDESPREAD BLOODSHEDとのスプリットLPを今年の11月にSOUND POLLUTIONからリリースすることになっているんだ。あと、全てカヴァー曲の7"EPも制作している。NO VALUEとのスプリット7"EPもあるね。

── では最後にお決まりですが、何か言いたいことがあったら…。

Douglas:インタビューありがとう!!! とてもクールな質問だったから楽しかったよ。俺達に連絡とりたかったらP.O. Box 377, Mount Orab, Ohio, 45154 USA.かwww.thrashyourface.comにアクセスしてみてくれ。

HAVOC

『MAXIMIMROCKNROLL』誌、及び『DOLL』誌上の毒舌マニアック・コラムでお馴染みのFelix Havoc氏が運営し、間違いなく現在のハードコア・シーンに多大な影響を与えているHAVOC RECORDS。激しく移り変わるハードコア・シーンの最前線で、常に素晴しいバンド、音楽を提供し、シーンの活性化に貢献している重要人物のひとりであることは、誰もが認めるところだろう。彼は現役バンド、またはハードコア史に名を残す所謂名盤といわれるレコードのリリース、ディストリビュート、アメリカ国内のライヴのオーガナイズだけでなく、自らDESTROY～CODE 13～DAMAGE DEPOSITといったバンドでプレイするパワフルな人物だ。普段、上記雑誌コラムではシーン全体を、彼自身の知識と経験を活かして述べることが多いので、今回はあえて彼自身のことについて語ってもらうことにした。



DESTROY
『Burn This Racist System Down』
HC 7001 7"EP

1988年にFelix Havocを中心に結成されたENTやDISRUPTを彷彿させるポリティカル・グラインド・クラスティー。



CIVIL DISOBEDIENCE
『In A Few Hours of Madness』
HC 7002 7"EP

ミシガンのポリティカル・バンドで、Felix曰く彼等の音源の中では最高傑作。93年当時、パワフルな勢いは群を抜いていた。



AUS ROTTEN
『Fuck Nazi Sympathy』
HC 7003 7"EP

HAVOC RECORDS史上最も売れたレコード。90年代の地下シーンは、彼等なしでは語れない。強力な存在感を放っていた。



BRISTLE
『System』
HC 7004 7"EP

トラディショナルなパンク、ハードコアを蘇らせたシアトル出身。ハイエナジーなパンクロックだが、1999年に解散。



CODE 13
『Doomed Society』
HC 7005 7"EP

パワーヴァイオレンスの勢いが増していた95年、Felixもフルスロットルのグラインドコア・バンドを結成。その1st。



MASSKONTROLL
『Warpath』
HC 7006 7"EP

スウェディッシュ・スラッシュの影響下にあり、元RESISTのメンバー在籍のブルータル・ハードコア。現DETESTATIONのメンバー在籍。



H-100'S
『Texas Death Match』
HC 7007 7"EP

80年代のパワフル且つロウ・スラッシュで人気を博し、後に9 SHOCKS TERRORへと発展した。



CODE 13
『They Made A Wasteland and Called It Peace』
HC 7008 7"EP

ポリティカルなアティチュードはもちろんのこと、ブルータル・サウンドは当時のHAVOCを象徴する内容だった2nd EP。

INTERVIEW

――まずHAVOC RECORDSの現在までの経緯を教えてください。

Felix: 俺は1983年にハードコア・パンクと出会ってすぐ、ファンジンやギグの手伝いをしながらシーンと関わり始めたんだ。レコードをコレクションし始めたときから、レーベルを持つということはクールだと思ってたから、MISERYの最初の2枚の7"EPのリリースやディストリビュートの手伝いや、PROFANE EXISTENCE RECORDSの手伝いなんかもしてたんだ。その後、1992年に学校を卒業したから時間的にも余裕ができたので、俺は自分のバンドであったDESTROYのレコードをリリースするという形でレーベルを始めたんだ。始めてから数年は、新しいバンドの7"EPのみをリリースしていたけど、だんだんレーベル自体が知られるようになって、LPやCDもリリースできるくらい成長し、今ではフルレンジ・アルバムだけでなく写真集を含む50種もリリースできるようになった。多額のお金を注ぎ込んでツアーを組んだり、毎年『Thrash Fest』を開催することもできるようになったんだ。

――HAVOC RECORDSは今でもあなたひとりで運営しているのですか?

Felix: HAVOC RECORDSは俺が運営しているんだけど、もうひとりMicheleって奴がいて、彼はメイルオーダーを担当してくれている。俺達はどんな時でも助け合える友達なんだ。レーベルとして南ミネアポリスにある小さな建物を所有してて、そこを拠点として運営しているんだ。その近くはデカイ会社というより、伝統的な小さい個人経営でビジネスをやっている人が多いんだ。

――ハードコア・シーンにおいて、CDをリリースすることは商業路線との見方も強いと思います。あなたとしてはCDをリリースすることについて、どのような見解を持ってますか?

Felix: そうだね。俺はどんなCDも好きじゃないから買うことはないね。だけど、今は多くの人に音楽を聴いてもらわないとレーベルとしての存続できない状況にある。個人的にはレーベルを始めた頃は、CDをリリースしたくなかったけど、サポートしたいバンドがショウでプレイした時、多くの人がCDはないかって聞いてくるんだ。しかもレコード文化がない場所も多々あるしね。例えば東南アジアとか。俺はCDってフォーマットは嫌いだけど、CDをリリースすることによって



THE MURDERERS
HC 7009 7"EP

DISORDERを彷彿させる原始的なハードコア・パンクだが、これこそパンクのあるべき姿だと思う。2000年に解散。



DISTRAUGHT
HC 7010 7"EP

ブルックリンが産んだ、超ブルータル且つヘヴィなハードコア。元JESUS CHRUSTのメンバー在籍!!!



HEIST
『Pain is Causing Life』
HC 7011 7"EP

HERESYに端を発した、スピード狂には堪らないオーストラリア出身。力で圧倒する点ではINFESTを思わせる。



PROTESTI
『8 Track EP』
HC 7012 7"EP

フィニッシュ・ハードコア・レジェンド!!! オリジナルは83年のデモだが、今から20年前の音源とは思えない凄まじさ。



BROTHER INFERIOR
NONE OF THE ABOVE
HC 7013 split7"EP

オクラホマの新旧ハードコア・バンドによるスプリット盤。ワーキング・クラスの立場の歌詞やキャッチーな曲は最高だ。



TAMPERE SS
『Sotaa E.P.』
HC 7014 7"EP

フィンランドの偉大なるハードコアといえばこのバンド。FIGHT RECORDSよりライセンスを受けてのリリース。



TAMPERE SS
『Kuollut & Kuopattu』
HC 7015 7"EP

デモ・トラックやコンピ盤収録の曲からなるEP。この音源は、フィニッシュ・ハードコアの基礎を作ったと言っても過言ではない。



CODE 13
『A Part of America Died Today』
HC 7016 7"EP

この時点で実力、人気、知名度共にマックスに達した。やはりグラインド・クラスティーな曲が持ち味。

多くの人が手に取ることができたんだ。

―― リリースしているEP/LPについて教えてください。
Felix:EPは新しいバンドの音源をたくさんの人に安く提供できるようにリリースしているんだ。7"EPは最高に価値のあるエンターテイメントなものじゃないかな。しかも作る側としては、多くのバンドが容易に作れるってのも良いよね。LPは多くのハードコア・バンドがリリースするまでに至らないので、より真剣に取り組まないとできないよね。とにかく素晴しいクオリティーなものを作ることが重要なんだ。LPはアートや音楽としての価値も高くなるからね。でも個人的にはパワフルな初期のNEGATIVE APPROACHやMINOR THREAT、ANTI CIMEX、DISCHARGEといった7"EPが大好きだね。

―― リリースするバンドはどうやって選んでいるのですか?
Felix:そりゃあ、素晴しい音楽をプレイして、凄く速くエネルギッシュで、アグレッシヴなハードコア・パンクで、音楽に取り組む熱い姿勢があるバンドだよ。ライヴを観なかったり、会ったことないバンドはリリースしないよ。俺にとって、とにかく重要なのは友情と信頼なんだ。俺のところにはたくさんデモテープが送られてくるし、素晴しいバンドはいるんだけど、やっぱり俺はライヴを観て、メンバーに会って、友達になったバンドをリリースしているんだ。

―― 今まで一番売れたレコードは何ですか?
Felix:2万2000枚売れたAUS ROTTENの『Fuck Nazi Syampathy』EPだね。他のレコードも大半が各3000枚は売れているよ。一部売れなかったのもあるけど。

―― では話を変えます。CODE 13はなぜ解散したのですか?
Felix:解散した一番の理由は、Trevorがロカビリーや SOCIAL DISTORTIONのようなバンドが好きで、そういったバンドを始めたし、Shaneはふたりの子供が出来て、更にタトゥーショップを始めた。Mitchは何人かで新しい仕事を始めたってことが理由だね。

―― 最近はじめたDAMAGE DEPOSITについて教えてください。
Felix:このバンドはポリティカルなメッセージを持ったスラッシュ・バンドとして、2002年の夏に結成されたんだ。HAVOC RECORDSから『Do Damade』という7"EPをリリースしている。ミッドウエストでたくさんプレイしてて、3週間東海岸のツアーもやっている



DEMON SYSTEM 13
HC 7017 7"EP

元々スウェーデンのBUSTED HEADS RECORDSからリリースされていたが、Felixの熱いラブコールによって再発。



SPAZM 151
『Power Songs for The Kids』
HC 7018 7"EP

BATTALION ON SAINTS辺りの80年代中期USハードコアを思わせるテキサス州ダラス出身。



UNITED SUPER VILLAINS
『Escapist』
HC 7019 7"EP

初期DYS、SIEGE、SSDのようなエネルギッシュなボストン・ハードコア・タイプ。パワーを絵に書いたかのようだ。



CLUSTER BOM BUNIT
『And The Dirty Little Weapons...』
HC 7020 7"EP

DISCHARGEの全盛期を思わせるドイツ産。よりブルータルに、よりクランチの効いたDIS-CORE。



KAAOS
『Nukke-EP』
HC 7021 7"EP

遡ること85年にリリースされたグレイト・フィニッシュ・ハードコアの再発。これ以上言葉はいらない。



9 SHOCKS TERROR
『Mobile Terror Unit』
HC 7022 7"EP

言わずと知れたオハイオのハードコア・ゴッズ。USコアにジャパコア風味を加味したサウンドは独創的だ。



THE REAL ENEMY
HOLDING ON
HC 7022.5 split7"EP

1% RECORDSとのスプリット・リリース。時代の流れからなのか、このEPを皮切りにユースクルー系をリリースし始めた。



CODE 13
DS-13
HC 7023 split7"EP

13繋がりのスプリット盤。両者ともに80年代通過したファスト・ハードコアをプレイ。DS-13の勢いはとにかく凄い。

んだ。

—— DESTROYはクラスティ・ハードコア、CODE 13はグラインド・スタイルだと思います。なぜDAMAGE DEPOSITはユースクルー・スタイルになったのですか?
Felix: 俺はDAMAGE DEPOSITはユースクルーだとは思っていないし、俺としてはハードコアかスラッシュって言葉が適切だと思う。わかっているかな、俺は曲を作っているのではなく、シンガーなんだぜ。クラストは今でも本当に好きだけど、俺はクラスト・シーンには属していない。DS-13のようなストレイトなハードコアとCODE 13はスプリット盤を出したことがあるけど、でもそれはグラインドではなかったけど好きなレコードだ。DAMAGE DEPOSITはそんな感じだと思うんだ。

—— そのDAMAGE DEPOSITですが、他のメンバーは若いですよね。ジェネレーション・ギャップは感じませんか?
Felix: そうだね。俺は34歳、他のメンバーは28歳、22歳、21歳、19歳と年齢差は凄い幅広いね。俺達はDIYハードコアで繋がっているけど、それはある意味問題でもあるんだ。ツアーをしたり、毎週末ショウでプレイしたいけど、俺くらいの歳になるとそういう奴は周りにはもうあまりいないんだよね。

—— 現在のハードコア・シーン全体をどう思いますか?
Felix: 商業主義にはしる奴やセルアウトする奴、ポーザー、リップオフ野郎、あと他にもブルシットな奴はたくさんいるよね。でも本物のDIYなアンダーグラウンド・シーンは、今はものすごく力強くて良いんじゃないかな。80年代の昔のバンドにはできなかったけど、今のハードコア・シーンはDIYなスタンスでいろいろオーガナイズドされているから、素晴しい状況だと思うよ。

—— フィンランド、またはスカンジナビアのハードコアは今人気あるように思えるのですが、どう思いますか?
Felix: 俺はそうは思わないけど、多くのフィンランドのレコードは500から1000枚くらいしかプレスされていないからね。今アメリカでは日本のハードコアの人気が高いんじゃないかな。

—— 今後の予定を教えて下さい。再プレスの予定とかもありますか?
Felix: とにかくたくさん予定があって、TEAR IT UPのLP/CD、KAAOSの再発LP、SKITSYSTEMの再発LP、VICTIMSとVITAMIN XのニューLP、DAMAGE DEPOSITとWOLFBRIGADEのニュー7"EP等だね。



CODE 13
『Discography 1994-2000』
HC 5001 CD

全50曲収録。東南アジア等のアナログ・レコード文化のない国をツアーするために製作された。



TEAR IT UP
HC 7024 7"EP

元DEAD NATIONのメンバーによる、現在のファスト・ハードコアの中核に位置するバンド。ハイエナジー!!!



VITAMIN X
『People who Bleed』
HC 7025 7"EP

以前はユースクルー・スタイルだったが、徐々にファスト・ハードコア・スタイルへと変化した。これがその分岐点。



ASSEMBLY OF GOD
『Submission Obedience Denial』
HC 7026 7"EP

BROTHER INFERIORのメンバーが在籍している影響なのか、音はまさにその直系のファスト・ハードコア。



DS-13
『Killed By The Kids』
HC 1202 LP / HC 5002 CD

パスヘッドによるジャケットも相俟って、まさに飛ぶ鳥を落とす勢いとなったこの1stフルレンジ・アルバム。



HOLDING ON
『Just Another Day』
HC 1203 LP / HC 5003 CD

88ユースクルーをよりパワフル且つラウドにしたハードコア。THDと1% RECORDSによる共同リリース。



MISERY
『The Early Years』
HC 5004 CD

7"EP等入手困難な音源収録のコンピ盤。SIN FRONTERASからほぼ同じ内容のLPもリリースされている。

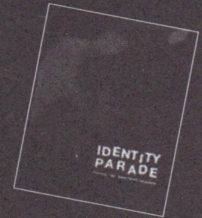


9 SHOCKS TERROR
『Zen and The Art of Beating Your Ass』
HC 1204 LP / HC 5009 CD

オリジナルはDEVOUR。この再発CD盤は、今までリリースされたマテリアル全てを収録したディスコグラフィー仕様になっている。

昔のフィンランドやスウェーデンのレコードが好きだから再発したいけど、新しいバンドが最優先だね。

── では最後に、日本についての印象は?
Felix:CODE 13で2000年にジャパン・ツアーをして、たくさんの人と会ったね。日本のシーン最高なんだけど、日本のハードコアのレコードを入手するのはアメリカでは困難で、DAN DOHのように素晴しいレコードを出していても、なかなか聴くチャンスがないんだ。俺にとってGAUZEは最高のバンドで『Thrash Til Death』は日本のハードコアの中でも一番のお気に入りだよ。最近のハードコア・バンドではFRAMTID、RAZORS EDGE、TOTAL FURY、DISCLOSEが良いね。



『Identity Parade』
HC 1101 Book
バンドでのプレイ、レコードのリリース、ライヴのブッキング等だけでなく、ついに写真集を発行した。ひとつの記録して十分に役立つ。


SKITSYSTEM
『Enkel Resa Till Rannstenen』
HC 1205 LP / HC 5005 CD

HAVOCの原点回帰となった、ノイジー且つブルータルなスウェディッシュ・ハードコアの2ndアルバム。


WOLFBRIGADE
『Progression/Regression』
HC 1206 pictureLP / HC 5006 CD

WOLFPACKより改名した、スウェーデンの重鎮。ダーク、ヘヴィ、ブルータルの3拍子揃った名盤の名に相応しい作品。


VITAMIN X
『Down The Drain』
HC 1207 LP / HC 5007 CD

ユースクルー・スタイルから一転、世界中で大評判となった現代ファスト・ハードコアの大傑作。オランダの底力を見せつけられた。



RIISTETYT
『Tervetuola Kuolema』
HC 7027 7"EP

フィニッシュ・ハードコアの生き証人。デビュー当時と全く変わらないエナジーは凄いの一言。これぞハードコア!!!



CAUSTIC CHRIST
HC 7028 7"EP

90年代ハードコアの中核だったAUS ROTTENのメンバーによって結成。クラスト色を抑えたファスト・ハードコア。

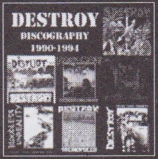

AMDI PETERSENS ARME
『Blod Ser Mere Virkligt Ud Da Film』
HC 7029 7"EP

初期80年代USハードコアを今に伝える、コペンハーゲン出身。パワフルでありながらキャッチーな曲で惹き付ける。



SPITTING TEETH
『Don't Believe The Hype』
HC 7030 7"EP

Felixがデモを聴いてぶっ飛び、シアトルでライヴを観て惚れこんだというスラッシュ・バンド。前作も必須!!!



DESTROY
『Discography』
HC 5008 CD

なぜか今頃リリースされたDESTROYの全音源集。80年代後期のブルータルなUKハードコア・スタイルは最高だ!



V.A.
『No Hold Back, All Attack!!!』
HC 1213 LP / HC 5013 CD

ミネアポリスとセントポールを拠点に置くリアル・ハードコア集。グラインド、クラスト、ファスト、メタルコア等全てを網羅。



PATH OF DESTRUCTION
『1:00 AM』
HC 7031 7"EP

POISON IDEA級のUSコアのスタイルで、現在のハードコア・シーンを象徴したかのような2ndEP。



DAMAGE DEPOSIT
『Do Damage』
HC 7032 7"EP

Felixもついにクラストから脱却か、とも思える1st。ただしスピーディー且つエナジー溢れるハードコアは本物だ。


FROM ASHES RISE
VICTIMS
HC 1211 splitLP / HC 5011 splitCD

90年代のカリスマHIS HERO IS GONE系譜のハードコアとスカンジナビア・ハードコアのスプリット。ダークな世界観に圧倒される。



ハードコアとメタルは今でこそ深い交流はあるが、

80年代は両者は犬猿の仲と言われるほど距離があった。

このBLACK MARKET FETUSは

ヘヴィメタルの轟音を取り入れる形で

ハードコアのスタンスを崩さずに、

より強力なバンドとして進化しているのだ!!!



INTERVIEW

──BLACK MARKET FETUSというバンド名の由来は？

Nate Phillips：人は生まれてからずっと学校に行って、仕事をして、結婚して、子どもをもつなど決められたパターンにセットされる。自分の人生の選択は、もっといろいろあってもいいんじゃないかって思うんだ。1997年にそんな俺と昔のベーシストのアイデアによって、こういった名前になったんだ。

──BLACK MARKET FETUSをやろうと思った理由は？

Nate Phillips：アイオワ州のデモインで結成されたんだけど、地元ではアンダーグラウンドへ目を向ける人は決して多くはなかった。でも俺達のことを支持してくれる若い奴らいてくれたおかげで、それからツアーで地元に来たバンドと共演したり、俺達の友人の前でプレイできたりと、奴らとシーンを作り上げることができたんだ。

──BLACK MARKET FETUSの歴史を教えてください。

Nate Phillips：さっきも言ったように、俺達は1997年の中頃に結成されたんだ。その頃は変な曲を作ってたんだけど、Andrewは当初ギターリストとしてやっていたのをベースに変更し、俺はヴォーカルを担当、Robertはベースからドラマーに変更等、バンドの改革を行なったんだ。で12曲入り1stデモテープ『Death System』をリリースして、1998年9月26日に新体制後初のライヴをやった。その後もメンバーチェンジを繰り返しそれは翌年まで続いたんだけど、『A.N.A.B』flexi 7"EPとCATHETERとのスプリット7"EPをリリース、CATHETER等と初めて東海岸ツアーを行なったんだ。各地でWEEDEATERやBENUMB、LAUGHING DOG、TOXIC NARCOTIC、PONTIOUS PILATEとい

ったグレイトなバンドと共演した。それはとにかく素晴しい経験だったね。それで俺達のリードギターであるNick Smeltzerの双子の兄弟であるAndrewが、またバンドに戻ってきてくれて、バンドとしては再び良い状況になったんだ。バンドのメンバーとして、お互いに力を出し合い、同じ目標に向かってがんばり続けるのは良かったよね。『Murder Machines』7"EPやBODIES LAY BROKENとのスプリットを出したのもその頃だよ。あと実は西海岸ツアーをセッティングしてくれたSIX WEEKSから『Midwest Meltdown』っていう新しいLP/CDを、もうすぐリリースすることになっているんだ。あとFIRST BLOOD FAMILYからDICIDERとのスプリット7"EP/MCDを10月以降に出す予定で、その後来年にはブラジルに行ったり、全米を廻る予定でなんだ。もしジャパン・ツアーが実現したら、それはみんなハッピーになれるだろうな!!!

── 音楽的にメタリックな部分もありますが、基本的にはハードコア・バンドですよね。具体的にどんなバンドに影響を受けましたか?

Nate Phillips: う～ん、あらゆる音楽に影響を受けたね。でも俺達は基本的に昔のパンクロック、スラッシュメタル、ヘヴィメタル、グラインド、クラストが大好きで、いろんな音楽を聴いているうちにD.I.Y.シーンにいることが自然なことになったんだ。具体的に俺達に影響を与えたのはWARSORE、CATHETER、IRON MAIDEN、SACRIFICE、EXODUS、VENOM、STATE OF FEAR、PENTAGRAM、SKARP、WASTEOID、CREAGRUTUS、BLACK SABBATH、CORRUPTED、DIO、MUNICIPAL WASTE、DYING FETUS、G.I.S.M.、AT THE GATES、NASTY SAVAGE、NUNSLAUGHTER等といったメタルやパンク、グラインド、スラッシュだね。キミにも、これらの中で気持ちの揺れ動いたバンドっていると思うな。

── 型にハメる必要はないのですが、自分達はどん



なバンドだと認識してますか？

Nate Phillips:俺は人がグラインドと呼ぼうがクラストと呼ぼうが何だって構わない。でも俺としては、ヘヴィ・ミュージックって言い方がピッタリだと思うし、基本的にはメタルヘッズだと思ってるけどね。

── ある写真で見たんですが、あなた達はスパイキーヘアでバリバリのパンクスかと思ってましたが…。

Nate Phillips:俺達はここしばらく髪型を変えてないよ。昔はそんな髪型にしてたけど。今はみんなドレッドにしたり長髪のストレートにしてるよ。

── 先程の影響を受けたバンドにも関連してくるのですが、あなた達はいろんなタイプのバンドと共演してますよね。HARUM SCARUM、AUS-ROTTEN、ORIGIN等々。あなた自身はどう思ってますか？

Nate Phillips:たしかにいろんなタイプのバンドとプレイしているけど、みんな友達のバンドだったりショウをオーガナイズしてくれた人だったりするんだ。だからデスメタルからストリートパンクまで、いろんな



バンドとプレイしているけど、皆楽しんでいる。俺達はデモインのヘヴィバンドのひとつってことだね。

──その地元について教えてもらえますか？

Nate Phillips：俺達は1998年からデモインを拠点にショウをするようになったけど、STATE OF FEAR、SHITLIST、HARUM SCARUM、CATHETER、DESPITE、CALLOUSED、FORCED INSTINCT、CATHETERといったバンドとプレイしたことがある。たくさんグレイトなバンドがいるから最高の場所だよ。他にも隣接した都市にはTRAGEDY、R.A.M.B.O.、VOETSEK、MUNICIPAL WASTE、BODIES LAY BROKEN、PATH OF DESTRUCTION、DAMAGE DEPOSIT、FURRZA X、TEEN CTHULUのようなバンドもいるんだ。この状況は凄いことだと思うね。あとヘヴィメタル・シーンもあって、高い金を払わずに観ることのできる、俺達と同じ空気感のあるバンドも多少いるんだ。例えばHIGH ON FIRE、CEPHALIC CARNAGEとかね。CANNIBAL CORPSEか何かを観たとき、俺は彼等と話したけどナイスガイだったね。とにかく隣接するデ



ンヴァーやマジソン、ミネアポリス等々はよく行くよ。

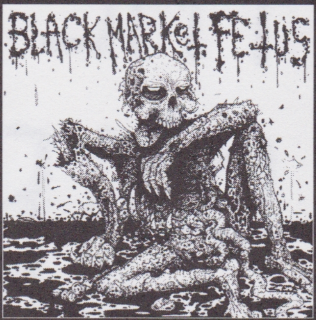
── 最近、個人的に何か良かったことは?
Nate Phillips:まぁ、良かったことといえば、地元以外のクールなD.I.Y.シーンに行けて出会えたことかな。人の優しさだったり気持ちを感じることができた。最悪だったのは全てのクールなバンドを観れなかったことと、インディーロックやエモみたいなクソ音楽が多いってことだ。全くオリジナリティーもなく、それでアンダーグラウンドを汚染しているクソバンドばかりだ。スラッシュ・ソングじゃなく、女のことを歌っているような奴ばっかで最悪だ。

── 日本についてはどうですか?
Nate Phillips:良いバンドがたくさんいるってことは知っているよ。理由はうまく説明できないけど、日本からそんな情報は入ってくる。TOMMOROWやROTARY BEGINERSと一緒にプレイしたことあるし、あとMELT BANANAも観たことある。でも言葉の壁があって、なかなかコミュニケーションがとれないんだ。日本の昔のパンクやハードコアやメタルバンドもリスペクトしているよ。CORRUPTEDのようなナイスなバンドもいるよね。

── では最後に一言お願いします。
Nate Phillips:Tシャツ、パッチ、ステッカーはまだ在庫あるからね。レコードが欲しかったらSIX WEEKSやHARDCORE HOLOCAUST、FIRST BLOOD FAMILYに是非連絡してみてくれ!!! 日本のメタルヘッズ、よろしくね!!!







Leon Manssur
C.P. 44034
Rio de Janeiro - RJ
CEP 22060-970 Brazil



消衰した脳の世代





Nailbiter

イギリス在住のブラジル人によって構成されているNAILBITERは、日本流ハードコアの雰囲気を感じることができるだけでなく、スカンジナビアの空気も味わえ、日本で人気急上昇中なのでご存知だろうと思う。ある意味非常にグローバルなので最高だ!!!

INTERVIEW

── NAILBITERというバンド名の由来を教えて下さい。
Carlos Casotti: 俺達の最初のベースプレイヤーが考えたんだけど、気付いているかもしれないけどANTI CIMEXの曲からとったんだ。

── NAILBITERの現在までの経緯を教えてください。
Carlos Casotti: このバンドは2000年にスタートしたんだけど、なかなかメンバーがなかなか落ち着かなかった。でも今は俺がギター兼ヴォーカル、Piotrekがベース、Carolineがギターになっているけど、だけど今はちょうどドラマーがいないんだ。リリースとしては、今までスプリットLPと、フルLP、あと7"EPをリリースしているよ。

── なぜブラジルからイギリスへ移住したのですか?
Carlos Casotti: 俺達は音楽をプレイしたいために、俺と昔のドラマーがイギリスに行ったんだ。言語、スクワット、音楽シーン等々、ブラジル人にとってイギリスは全てが素晴しく、最高の国だったんだ。

── どういったバンドに影響を受けたんですか?
Carlos Casotti: そりゃあやっぱりANTI CIMEXとMOTORHEADにつきるよ。でも今はもっといろんな音楽を聴いて影響を受けているよ。メタルとかにもね。

── あなた達はANTI CIMEXを含め、スウェーデンのハードコアや日本のハードコアに影響を多く受けていそうな気がしたのですが、いかがでしょう?
Carlos Casotti: もちろんだよ!!! 俺はスウェーデンや日本のハードコアは大好きだね。今でもその辺のLPやCDを買い漁っているよ。ABUSED辺りなんか聴きまくっているよ。もの凄く格好イイからその音を忘れることができないくらいだよ。そのうちNAILBITERに反影するかもね。

── 現在のイギリスのシーンはどうなっていますか? 私はここ数年ロンドンへよく行っているのですが、ニューヨーク・スタイルなメタリック・モッシュ・バンドが多いですよね?
Carlos Casotti: 申し訳ないけど、俺はイギリスやロンドンのハードコア・シーンについてあまりよく知らないんだ。俺はそういったスタイルのバンドとプレイしないし、決してバンド数も多くないんじゃないかな。

── イギリスではどうやってレコードやCDを入手しているの?
Carlos Casotti: ロンドンだったら、ハードコアのレコードを見つけることはそんな難しいことじゃないよ。例えばヴァージン・メガストア辺りに行けば、簡単に入手できるよ。

── ブラジルのハードコア・シーンはどうなのかな?
Carlos Casotti: またまたごめん。ブラジルのハードコア・シーンについても俺はよくわからない。70年代や80年代には素晴しいロックバンドはいたけど、その多くはイギリスやアメリカのモノマネ・バンドばっかりだよ。

── スカンジナビアのハードコアについてはどう思ってる?
Carlos Casotti: 俺はパンクと出会って以来、フィンランドやスウェーデンのハードコアを聴きまくっているよ。俺はとにかくスカンジナビア・パンクについて知っているよ! やっぱり素晴しいんだよ、だから聴きまくる。でもロンドンは最悪だ。

── 日本についてはどう? スプリットLPでは日本語を結構使っていたけど。
Carlos Casotti: とても面白いし、あらゆるものが完璧な印象もあるし、いろんな意味で日本の一般的な文化に興味を持っているんだ。それはパンクミュージックにも反影されるよ。

── 他に、日本についての印象は?
Carlos Casotti: バンドを多少知っているけど、他にはヤクザ、ヌードル、タトゥー、あとはいくつか変な言葉を知っているよ。だけど俺は日本が大好きだし、いろんな魅力のある国だから行きたいよ。

── 今後の予定を聞かせてください。
Carlos Casotti: ドラマーを早くみつけて、早くプレイをしたいよ。日本人ドラマーでも構わないし、メタルロックをプレイできれば最高だね。イギリスに来て俺達とプレイしよう!

CRYPTAS　RECORDSバイオグラフィー / メキシコ・シーンリポート

CRYPTAS RECORDS

FROM MEXICO

Text by Kei (keiyrupture@hotmail.com)

CRYPTASレーベルのバイオグラフィーを始める前に、メキシコのパンク・シーンの創成期のことを少し紹介したいと思う。この国は他の中南米諸国と同じく保守的で、しかも警察の力が強く、80年代半ば頃までは長髪の人間が街を歩いていると警察に呼び止められてその場で髪を切られるなどというような、ナチスがユダヤ人に行った所業を思わせるシーンが日常的に繰り広げられていた。このような閉鎖的な環境の中でパンクのコンサートを開こうものなら、たちまち警察が来て妨害されるという状況でした。85～86年になって一変する。うっぷんの溜まったパンクスが一丸となり、権力に対抗するために**CCRFPP(Colectivo Cambio Radical Fuerza Positiva Punks)**という組織を結成、合法的に政府の文化施設を借りてコンサートを開けるようにした。この組織の力によってパンクスは自由に、そして安全にライヴができるようになり、**HISTERIA**を皮切りとして一連のパンク・バンドが誕生し、シーンは一気に盛り上がった。

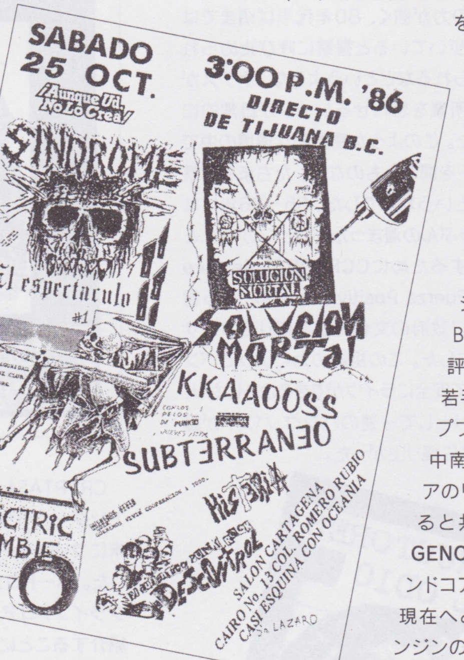




CONSTRUCTORES DEL ODIOS
Demo Tape

CRYPTASレーベルは、この熱くたぎるメキシコのアンダーグラウンド・シーンを紹介するために、87年末にフリーペーパーを発行することによってスタートした。ハードコアのみならずスラッシュ/デスメタルやグラインドコア、はてはノイズとあらゆる轟音音楽を紹介することによって、少しずつではありながら読者を獲得していき、それに伴い活動も盛んになっていった。88年の末にレーベル社長のCRYPTASが当時在籍していた**TORTURA AUDITIVA**のメキシコ・ツアーが敢行され、この時に多くの地方のバンドと交流を持つことができ、これがその後のレーベルのハードコア・ネットワークの形成にも役立つことになった。が、この時代、まだまだパンクスにとってはその活動に制約が多かったのも事実で、練習場所や楽器の確保に苦労している現状を目のあたりにしたCRYPTASは、今後の活動に意欲を燃やすのだった。例え、機材や練習場所に苦労していようとも絶えず輝き続けるバンドのエナジーが、CRYPTASに活力を与えたともいえる。

スタート当初はファンジンのみの活動だったが、89年の終わりにはレーベル第一弾の音源リリースにこぎつけた。**TAJOBASE**レコードとの共同リリースで、**KK CORE**と**VICION DISTORCIONADA**のスプリットテープをリリースした。そして90年半ばにはTORTURA AUDITIVAのフルアルバム『Entre la Resistencia y El cambio』を同じくテープにてリリース。その数ヶ月後には同じくTORTURA AUDITIVAの『Musica Mala Para Gente Mala』を7"EPにてリリースしました。このころからレーベル運営に関してさまざまな問題が発生したが、それでも何とか無事に**REGENERACION**の『De la Conbativa y Rabiosa』をTAJOBASEレコードと共同で92年初頭にリリース。



このレビューが『MAXIMUM ROCK'NROLL』誌に掲載されたことによって、レーベルは世界中のレーベルやファンジンと交流を持つことができた。が、前述の問題がうまく解決せず、その後レーベル活動は中断してしまう。しかし、この状況に屈することなく、レーベルはかわりにコンサートの企画を手掛けるようになった。94年に行われた1ヶ月にも及ぶ**LOS CRUDOS**のメキシコ・ツアーは大好評を博し、このツアーに同行した時、国内各地のパンクスの力強い情熱と音楽に対する愛情に感化され、レーベル活動を再開することを決めた。

そうしてできあがったものが94年の末にリリースされたメキシコ・ハードコア・コンピレーション『Ante su Milagro Neoliberal』です。メキシコ各地からポリティカル・クラストを9バンド集めたこのコンピレーションは、新たに立ちあがったCRYPTASレーベルに国内外から注目を集めることとなった。翌95年には**CAUSA JUSTA**と**FANATICOS BASTARDOS**のスプリットテープ、そして日本の**C.F.D.L.**と**REGENERACION**のスプリットEPをリリースして、さらに翌96年には**CONSTRUCTORES DEL ODIO**のデモを発表、世界中のファンジンから好リアクションを得た。この勢いで世界中から13ものハードコア・バンドを集めたコンピレーション『Madre Tierra』を同年にリリースした。97年に入り、レーベルの知名度の上昇に伴いファンジンは装丁を一新。同時に、元**ATOXXXICO**のメンバーが在籍している**NATAS**の『Tengo con que quererte....』をリリースし、翌98年以降レーベルは矢継ぎ早のリリースを行った。まずはトルコの**TURMOIL**と**REGENERACION**のスプリット7"EP、REGENERACIONのミニアルバム『La Lucha Continua』、そしてメキシコ・パンクの創始者**MASACRE 68**とHISTERIAのデモを再発したEP(93年リリース)をピクチャーディスクにて再発。さらに、シーンの底上げをねらいとして、若手バンドのデモテープのリリースも始めた。第一弾はパワーヴァイオレンス系の音を出す**HOG**、続いて政治色の濃いクラストコアの**DISCORDIA**のデモ『Deteriorarse』をリリース。99年に入り長年の夢でもあったLATINO AMERICA HCバンドのコンピレーションに着手、南米各地より20バンドを集めたこのコンピレーション『America es Bella』は世界中で好評を博した。この後は若手バンドのデモテーププロジェクトや他の中南米各国のハードコアのリリースに力を入れると共に、**STRESS**や**GENOCIDE**などのグラインドコアのリリースも始め現在へと至っている。ファンジンのほうも現在20号まで発行され、最新号では付録にCDまでついており、活動もどんどん大きくなってきていて、今後の活躍に大きな期待が寄せられている。レーベルへのコンタクトは、cons_internacion@hotmail.com へ。

CSSOの中南米ツアーのWEB日記

http://csso666.hp.infoseek.co.jp/

南米モノ取扱いディストロ・レーベル

OBLITERATION RECORDS
http://www.obliteration.jp/

DELTA MONDO DISCOS
http://www.deltamondo.tk

DISCOGRAPHY

※基本的にCRYPTASはナンバリングがありません。

1989
■ **KK CORE / VISION DISTORCIONADA** split Tape (500 copies)

1990
■ **TORTURA AUDITIVA**『Entre la resistencia y el cambio』Tape (500 copies)

1991
■ **TORTURA AUDITIVA**『Musica mala para gente mala?』7"EP (500 copies)

1992
■ **REGENERACION**『De la combativa y rabiosa』7"EP (500 copies)

1994
■ **V.A.**『Ante su milagro liberal... (Escena mexicana』 LP 500 copies
incl. **REGENERACION**、**DESOBEDENCIA CIVIL**、**NINOS SUBURBANOS**、**CONSTRUCTORES DEL ODIO**、**MODA RIDICULA**、**FANATICOS BASTARDOS**、**COPROFILIA**、**AUTODECADENCIA**、**CAUSA JUSTA**

1995
■ **REGENERACION / CFDL** split 7"EP (500 copies)
■ **CAUSA JUSTA / FANATICOS BASTARDOS** split Tape (500 copies)
■ **COPROFILIA**『Muerte en la ciudad』 Tape (800 copies)

1996
■ **CONSTRUCTORES DEL ODIO**『Coercion』Tape (500 copies)
■ **V.A.**『Madre tierra』LP (800 copies)
incl. **SANCTUS IUDA**(Poland)、**SOCIAL GENOCIDE**(Austria)、**REGENERACION**、**FORCA MACABRA**(Finland)、**PEACE OF MIND**(Germany)、**PIZDA MATERNA**(Slovenia)、**ANONIME**(France)、**BATTLE OF DISARM**(Japan)、**UNDER THREAT**(Brasil)、**STATE OF FEAR**(US)、**3-WAY CUM**(Sweden)、**SCUFFY DOGS**(Slovenia)、**KINA**(Italy)

1997
■ **NATAS**『Tengo con que quererte...』Tape (500 copies)

1998
■ **HOG**『Demo』Tape (500 copies)
■ **REGENERACION / TURMOIL**(Turkey) split 7"EP (500 copies)
■ **REGENERACION**『Y la lucha continua...』Mini LP (500 copies)
■ **MASACRE 68 / HISTERIA** Picture disc (500 copies)
■ **ABUSO SONORO**(Brasil)『Contra la violencia policial』Tape (500 copies)
■ **MISERIA HUMANA**『Sangre humana』Tape (500 copies)
■ **BASQUADE INCHALA**(Uruguay)『Levantate hermano』Tape (500 copies)
■ **DISCORDIA**『Deteriorarse』Tape (1000 copies)

1999
■ **V.A.**『America es bella... para vivir resistiendo!!!(Escena latina)』LP (1000 copies)
incl. **REGENERACION**、**ABUSO SONORO**(Brasil)、**DESOBEDIENCIA CIVIL**、**ES MIERDA**(Colombia)、**ENFERMOS TERMINALES**(Chile)、**AUTOCONTROL**(Argentina)、**FERTIL MISERIA**(Colombia)、**OS MOCOS**(Argentina)、**REVUELTA PROPIA**、**CRISIS POLITICA**(Venezuela)、**720°**(Argentina)、**REDENCION 9-11**(Argentina)、**LOS CRODOS**(US)、**ACCION DIRECTA**(Argentina)、**LOS RECIOS**(Peru)、**FUN PEOPLE**(Argentina)、**200 MUERTOS**(Paraguay)、**ENEMIGO DE KLASE**(Paraguay)、**DISTURBIO MENOR**(Chile)、**SILENCIO ABSOLUTO**(Chile)
■ **REGENERACION / SANCTUS IUDA**(Poland) split 7"EP (500 copies)
■ **DETASTATION**(US)『LP, mas tracks ineditos en un tape』Tape (500 copies)
■ **FLEAS AND LICE**(Holand)『The first works!!』Tape (500 copies)
■ **DEADMOCRACY**(Brasil)『Sus dos demos en un tape"Tape (500 copies)

2000
■ **CACOFONIA**『Great hits!』Tape (1000 copies)
■ **MAHOGANY**(Brasil)『Demo』Tape500 (500 copies)

2001
■ **TORTURA AUDITIVA**『Entre la resistencia y el cambio』CD』

2002
■ **V.A.**『Resistencia en los angeles』Tape (500 copies)
incl. **SUBSISTENCIA**、**RUIDO**、**TE ZACRIFICIO**、**FORNTERRORISMO**、**CONTRA ATAQUE**
■ **SUBSISTENCIA**『Tierra anahuac』Tape (500 copies)
■ **COPROFILIA**『10 anos para que?』CD (1000 copies)
■ **GENOCIDE**『Blood spilled』CD (1000 copies)
■ **STRESS**『Tierra y libertad』Tape (1000 copies)
■ **CONCIENCIAS MUERTAS**『Resiste!』CD (1000 copies)
■ **DISCORDIA**『Discografia』CD (1000 copies)
① ■ **COACCION**『Desorden』CD (1000 copies)
② ■ **V.A.**『Los que alimentan el odio... (Escena peruana)』CD (1000 copies)
incl. **SABOTAJE**、**IGNOBERNABLES**、**GRITO DE MISERIA**、**EX-KUPIDOS**、**LOS REZIOS**、**GENERACION PERDIDA**、**PERDIDA**、**CONFRONTO**、**S.Q.P.**

2003
③ ■ **MASSAKRO** CD (1000 copies)
■ **TROPIEZO / ACTITUD SUBERSIVA**(Puerto rico) split CD (1000 copies)
■ **MIGRA VIOLENTA**『Superficial』CD (1000 copies)
④ ■ **AUTONOMIA**『Escapando al silencio impuesto』CD (1000 copies)
■ **ANARCHUS**『Vals of hate』CD (1000 copies)



①



②



③



④

半田商会通信

Text by Handa (Handa&Company)

幸運にもまたFASTで書かせてもらう機会を与えてくれた松本君には感謝致します。毎回駄文の私の文章にも関わらずレイアウトしてくれたり、メインの本文の特集組んだり、インタビューしたり編集したり、本当に頭下がります。以前ミニコミらしき物を友達とやった事もあるので大変さはよく分かります。私達が作っていた物は同じ様な所もありましたが、それ以外にも風俗記事や自虐的エロネタ等かなりナンセンスな部分も半分位占めていて中野のタコシェなんかにも編集長が置きに行っていたらしい。その中のある記事は雑誌『GON!』にもちょこっと出た事もあった。編集者に知りあいがいたというのもあってそういう事になったらしいけど。そのミニコミの名前は『FELLOW』でした。

今回はダーティーなバンドが少なくなった事は私の気持ちをうきうき(死語か?)させる事が少なくなった事。19才で東京に出てきてかれこれ17、8年、最近は衰えみえみえで、兎に角ライブを観に行きたいという気持ちが薄れてきた。気力も体力も、酒の回復力も衰えてどうにも篭りがち。こんな事書くと引退しろやと言われそうだが、皆はどうよ最近? いいバンド観たかい? 毎回観てもグッとくるバンドはいるかい? いるはずだ! 只、私は年食った所為か少し違った味方でライブを観るのでもう1つをいう感じは受ける。好みが変わっただけかも知れないが。何せ私的に極上のHEAVY METAL、特に80年代を彷彿させるコテコテといわれるものを最近観、聴きしている為かも知れない。メロディーに翻弄させているのかも知れない。80年代の共通点は共にメロディーだと思っている私はもちろん80年代に多感な年頃だった訳だし歌謡曲全盛で歌番組も盛ん。ただ最近のHIP HOPやラップを曲間に入れる様な事はしないでくれと言いたい。それが流行っているからってそれは安易だし、それなら初めからHIP HOP聴いている方がまし。私は殆ど聴きませんが。殆どと書いたのはGASBOYS＆COCOBATの当たりは少しだけ観た事があったから。影響は限り無くないけど。

今でも80年代のジャパコアはルーツであるし、今だに、そのバンドスタイルは衰える事なく新しいバンドも生まれているし、解散せず活動しているバンドもいる事は承知の事実。20年間やっているバンドっていうのも凄くない? 20年前に生まれた子供が成長してハードコアに影響受けて20才になってそのバンドのライブを観られる。それが現実にある訳だし。ライブで会う仲間に20才位の奴もいるし。

私が考えるダーティーというのはそのままで野蛮で危なっかしく、ライブ中に何が起こるか分からない緊張感を持ち合わせたバンドの事で、今でも自分のスタイルを持って続けている大御所は観ていてもそういう緊張感はやっぱりある。語弊があるかも知れないけど、初期の頃の暴力的なものを求めている訳では無くて少し位あった方が客にもいい緊張感が出るのでは無いかと思って。ここ1、2年でそういうバンドに出会った事は1度だけだった。その時は80年代思い出してドキドキしながら観ていた。そのバンドのボーカルはフロアに降りてきてゴミ箱ぶちまけたり凶暴さは昔そのままで久々のその感覚、19、20才位の時にライブハウスに行き初めた時の感覚、緊張感を思い出した。雰囲気も良かったし見た目もカッコ良かった。残念ながら現在はメンバー変わってしまったけど。それが悪という訳では無くてごく個人的な好みの問題として前の雰囲気とは違うかなと。そこそこ破天荒なのがパンクであってハードコアではないかと。売れ筋青春パンクとやらはブルーハーツやジュンスカのコピーみたいでいいのかと。全然関係ないけど。

私自身どうも最近はライブハウスに慣れ過ぎてしまったのか、後ろの方でビール飲みながら知り合いと談笑していることも少なく無い。モッシュやダイブ(どうもこの言葉は最近のハードコアシーンに置いて随分意味合いが軽くなってしまったと思うが)の中に入ってもみくちゃになる事もほぼ皆無。緊張感ないのは自分の方かも知れない。物販係等請け負う事も多い所為でもあるかも知れない。いかんと思いつつスローライフなど気取ってみたり…やっぱり年かな。

文章にまとまりが無くなってしまい、更に駄文でこんな事書いてばかりではくだらなさ過ぎて次回は書けそうに無い。次は君の熱い文を期待するし、ファンジンは自由な物であるべきだし。我こそはという方は編集長にメールしてみて。

RECORD REVIEWS

OVER 50 EP·LP·CD

HARDCORE POWERVIOLENCE CRUST THRASH GRINDCORE BLACKTHRASH FAST



日々多種多様なレコードがリリースされている中から、本誌的に気になったものをピックアップして紹介するコーナーです。タイミングや金銭的な問題から全てを掲載することはできないので、あらかじめご了承ください。またレビューは、各ライターによる一感想にしか過ぎないので、書かれていることを鵜のみにしないように…。あくまでも参考程度に読んでいただければ幸いです。名盤とされる旧譜もいいけど、現在進行形こそリアル・パンクですよ!!!



ADDICTION
『腐敗人間のゴミ』7"EP
MCR Company
(157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 Japan)

新たに女性ギターリストを加えた待望の最新作は、これまでのUKスタイル・ハードコア路線から変態度の高いサウンドに大きく変貌し少々驚いた。80年代初期のSTALIN、あぶらだこ辺りの日本独自のパンクロックを彷彿させ、シンプルでありながら狂気に満ちたサウンドは、日本人なら一度は耳にしなければ犯罪級な必須内容といえる。精神病的にひねくれたパンキッシュな感覚は、一度ハマると病みつきになるほどアクが強く、80年代の日本のパンクロックならではのデストロイな姿勢が脳裏に焼き付くほど強力だ。2003年現在、意外とこの路線のバンドは見受けないので、貴重な存在であると同時にこれからも期待大だ。



AUTONOMIA
『Escapando Al Silencio Impuesto』CD
Cryptas Records
(Cruz V.Luis, Apdo. Postal #16-052, Cp:02011, Mexico, D.F., Mexico)

南米ペルーの首都リマ出身のアナーコ・バンド。今までカセットのみのリリースが多く、まとまった音源が少なかったのだが、これは1997年から2001年までの音源を集めた便利な編集盤だ。モノクロでキメて、権力で弱者を封じ込める政府や警察に対して反旗を翻したパンキッシュな姿勢は、平和ボケした日本では理解不可能な面もあるかもしれないが、音楽を通じて彼等の苦しみや怒りを地球の裏側に住む我々と分ち合えるのは、パンクロックの魅力のひとつだろう。緊迫した状況と対比するかのごとく意外なほどポップな曲調がメインで、世間で流行中の一連のポップ・パンクに近い馴染みやすいメロディが心に染みる。ただし深みが違うのだ。



BATHTUB SHITTER
『Angels Save Us』7"EP
Rusted Lock
(P.O. Box 27620, 2431, Nicosia, Cyprus)

ヨーロッパで開催されたフェスティバルへの参加や自らのツアーを行ない、それに関連してかどうかは定かではないが、レコードの再発ラッシュが続きすっかり知名度をアップした感がある。相変わらず迫力ある濁声と、狂ったシャウト声を使い分けたヴォーカルが終始暴れまわり好印象。これまでのグラインド一辺倒路線から、前号のインタビューにもあるようにもっと広い意味でロックな印象を受けた。ただしノリは良くなったが、決して一般的に受け入れやすいなったとかではなく、アグレッションとブルータル度は確保しながらも、ハードコアの魅力を最大限活かした楽曲なのだ。はっきりとした輪郭のある曲のセンスは、是非味わっていただきたい。



CATAPLEXY
『CATAPLEXY』CD

90年代前半からその名を馳せていた大阪最凶ブラックメタル・バンドの復活盤!!! 激速2ビートを軸に、終末を彷彿とさせる怪しく影を落とした旋律が乗り、恐ろしくも激しい展開に脱帽。日本において、これほどファストなブラックメタルの再登場は嬉しすぎる!!! アンチ・キリストの本場ヨーロッパ勢と比較しても、楽曲、テクニック、そしてステージングにしても何ら衰えておらず、むしろ日本やアジア圏にCATAPLEXYアリ、といわんばかりの存在感を放っている。ハードコア勢との絡みも多く、ブラックメタルの凄みを味わうにはうってつけのバンド。本作はナンバリング入りの500枚限定なので、即効入手することをお薦めします。

COMPLAIN
『Make A Mistake』7"EP
625 Thrash Core
(P.O.Box 423413, San Francisco, CA 94142-3413 USA)



北は北海道・札幌を拠点とするハードコア・バンド。ニューヨーク・スタイルのオールドスクール・ハードコアに、西海岸のスケート・スラッシュな軽快感さを兼ね備えている。曲に変化をつけて魅了する要因のひとつとして、緩急つけたりストップ&ゴーを用いてテンポチェンジを激しくしているから良いのだと思う。伝説のPROJECT Xのカヴァーは、むしろ原曲よりヘヴィで素晴しい。ヴォーカルの歌唱方法をいろいろ変えてくるのもユニークだし、それと関連して楽曲にバラエティさが出ているので良いのだ。裏ジャケに大きく掲げられた「Sapporo 80's Time」の文句は、彼等自身を適切に表現した言葉といえる。

CRUCIAL UNIT
『These Colors Get The Runs』LP
Six Weeks
(225 Lincoln Ave. Cotati, CA 94931 USA)



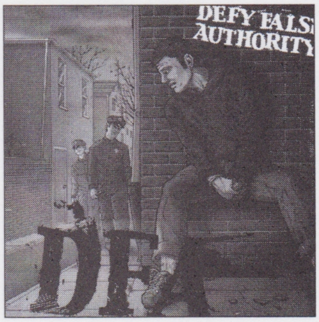
ゴー!の合図で一気に飛ばす、ブチ切れスラッシュコアのフルアルバム。他のスラッシュ系との違いは、アグレッシヴなツインギターを中心にメタリックな要素が強いことと、高音域で強力にシャウトするヴォーカルだろう。そういう意味では所謂スラッシュメタル的でもある。ライヴ時が文句なく盛り上がるであろう楽曲ばかりで、これでこそハードコア・バンドの醍醐味だ。しかもモッシュパートを導入している曲もあるくらい、ライヴを大切にしている印象を受ける。ザクザクとギターを刻むスラッシュナンバーに震えが止まらん。所謂ファストコアと違って、重さとスピードに変化を付けてくる点は、曲としての面白みがあって聴いていて楽しいのだ。

DAMAGE DEPOSIT
『Do Mamage』7"EP
Havoc Records
(P.O.BOX 8585 Minneapolis, MN 55408 USA)



DESTROY、CODE 13と常にシーンの最前線で活躍していた、言わずと知れたご存知Felix Havoc率いるニューバンドの1stEP。これまでの様なクラストでもグラインドでもなく、ユースクルーを更にスピードアップさせたスラッシュ・サウンドで、彼のかつてのイメージとは異なっているので最初は戸惑ったが、なかなかFelixのヴォーカルもマッチしているように思えた。自らのレーベルからVITAMIN X等をリリースしているのである程度予想はしていたがまさに直球! これが時代の流れなのか? しかしあの毒舌コラム同様、強烈な説得力のある歌詞と楽曲、そして圧倒的な存在感に、あらためて彼のパワーの凄まじさに脱帽する。

DFA
『Defy False Authority』LP
Six Weeks
(225 Lincoln Ave. Cotati, CA 94931 USA)



現在スラッシュメタリックなハードコア勢の中核にいるバンドといえば、文句なくこのカナディアンのDFAの名があがるだろう。前作に続く2ndアルバムにあたる本作は、よりメタリックにクロスオーヴァーし、スピードを緩めずに最後まで一気に爆走する。単に80年代の焼き直しなんかではなく、様々なスタイルのハードコアを通過した耳の肥えたハードコア・パンクスのツボを得たリフのオンパレードで、リアルな現在進行形のスタンスは二重丸。これぞスラッシャーの名に相応しい荒くれぶりとハイスピード、そして常時ハイテンションで圧巻だ。流通面もしっかりとしているSIX WEEKSからのリリースなので、全ハードコア・ファン必須。



DISCLOSE
『Raw Brutal Assault vol.2～Discography 1994-1998』CD
Dan-Doh Records
("K-Club"Honmachi 2-1-26, Kochi 780-0870 Japan)

前作リリース時点で多くの人が度胆を抜いたのだが、引き続きスーパー・コンピレーション盤の第2弾の登場。前作同様2枚のCDに収められた曲は90曲以上にも及ぶ。非常に分厚く凝ったブックレットは、収録されているオリジナル・レコードのジャケットをレイアウトし、眺めているだけでDISCLOSEの世界に浸れるほど楽しい。通して聴くと徐々に変化がみえてくるし、まさにD-beat且つロウなパンクの強襲で、源流であるDISCHARGEへの想いがひしひしと伝わってくる。ただしDISCLOSE流に消化したD-beatであって、亜流ではないのだ。時代の流れとは全く関係のない、DISCLOSE軸で時は進んでいる。



DISFEAR
『Misanthropic Generation』CD
Ritual Records
(Ikebukuro Wakabayashi Bldg 5F 2-16-19 Mejiro Toshima-ku, Tokyo 171-0031 Japan)

個人的にはDISTORTIONからリリースされた『Seoul Scars』LP以来聴いていなかったので、早8年も経ったことになる。そのLPと比較するとドラムとヴォーカルが変わっているのだが、そのヴォーカルはなんとAT THE GATESやSKITSYSTEM、LOCK UP等様々なバンドと関わっているTomasなのだから驚きだ。シンガーとしての力量の高さが浮き彫りになるだけでなく、個人的には過去のバンドとして終わっていたハズなのに、これほどクールにキメて復活してくれるとは感動の一言に尽きる。UNCURBED並のドライブ感バッチリなスウェーデン流のノイジー・ハードコアで、もうホント、格好良過ぎる!!!



DROP DEAD / UNHOLY GRAVE
split 7"EP
MCR Company
(157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 Japan)

かつての勢いを取り戻しつつある前者DROPDEADは、相変わらずトーンの高めなシャウトが狂ってて最高。なんとなくややスピードダウンした感もあるけど、4曲目の「Dead Inside」と続く5曲目の「I will Stand」は全盛時代の名曲「Bullshit Tradition」を彷彿とさせる、ブラストビート全開の強力ナンバーで見事に再生!!! 一方の名古屋のグラインド・ゴッドのUNHOLY GRAVEは乾いた感触の音で残虐に切り刻み、猛烈且つ邪悪なグラインドで攻め立てる。要所要所でスピードだけにとらわれず、スラッシュメタルばりに曲に変化と展開をもたらしている点も見逃せないナイスポイント。



EFFIGY
『From Hell』7"EP
Crust War
(Distributed by MCR Company:157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 Japan)

UKダーク・メタルクラスト系譜のハードコアが、日本に根付いたといえる香川出身のEFFIGY最新作。以前よりもMETALLICAやONSLAUGHT級のメタリック・スラッシュな内容になり、適度なスピードでザクザクと鋭く刻み込んでくるギターサウンドが特徴的なタイトル曲は、メタルクラスト好きなら超鳥肌モノのカッコ良さなので必須!!! 重くのしかかる分厚い音を見事に構築し、光の差し込むことのない暗黒世界を音で表現した。クラスト系の中でも一気にトップグループへと伸し上げた内容といえるだろう。また本作は大阪のZOEとのコラボレーション作で、同じコンセプトでレコードをリリースしている。最高傑作!!! 即ゲット!!!

EVIL PRIEST
『Underground Hardcore』CD



まさにバンド名とタイトル通り、イーヴィル且つアンダーグラウンドなハードコア·バンドだ。所謂ヘヴィ系のオールドスクール·ハードコアを身上に、邪悪な極悪サウンドを追求した内容で、大して飾ることのない白黒のアートワークから相当本気度が高いと思われる。ややクロスオーヴァー的なギターリフが堪らなく格好良いのだ。スローパートからミッドテンポに流れ、突如として意外にも3rdアルバムの頃のANAL CUNTばり発狂ヴォーカルとグラインドコア並のパートをブチ込んできて驚く。10秒以下の曲が3曲も収録されているので更に驚きだ。邪悪な空気がアルバム全体に漲り、16分間ブルータルな世界にどっぷりと浸れる。

EXHUMED
『Anatomy is Destiny』CD
Ritual Records
(Ikebukuro Wakabayashi Bldg 5F 2-16-19 Mejiro Toshima-ku, Tokyo 171-0031 Japan)



日本盤のリリースと来日公演によって、現在日本で一番有名なゴア系バンドになっただろう。今となっては、90年代のグラインドコアまたはパワーヴァイオレンスといったハードコア·シーンの中で活動していたなんて嘘のような本当の話。彼等のアンダーグラウンドな気質が現在の地位を確かなものにしたのであって、周りに流されていたわけではないし、ウケを狙ったものではないと思う。熟練してきた結果なのかどうかわからないが音がクリアになった分、かつてのような地下のゴア臭はやや抑え気味となり、初期CANNIBAL CORPSEのようにスラッシュメタルとブルータル·デスの中間をいくタイプになった。

FASTS
CD
Sound Pollution
(Distributed by MCR Company:157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 Japan)



何よりもスピード重視で勢いあるのみと言わんばかりの猛スピードに、ただ圧倒される埼玉出身ファストなハードコア·バンド。ただスピードを出すのではなく、ノイジーに荒々しく強引に突っ走るので、実際のスピードよりも体感速度を感じる。例えば7曲目の「When I was Young」のように激しい展開がメインでありながらも、どこかメロディック且つポップセンスがチラホラ見え隠れするのもポイントだ。個人的には2曲目の超高速発狂「Stale Punk Rocker」が最高。申し分ないスピードもさることながら、狂った巻舌ぎみのシャウト·ヴォーカルも最狂で堪らん。50秒にハードコアの魅力を凝縮した名曲だ。

FREAKS
『77 Points of Hate』7"EP
625 Thrash Core
(P.O.Box 423413, San Francisco, CA 94142-3413 USA)



程よいスピーディーなハードコアで、即FREAKSの世界に浸れる好印象なEP盤。特徴あるいろいろな味付けのギターによって曲のイメージに広がりをもたせるだけでなく、バンドとしての面白みを際立てていると思う。一見シンプルでありながら印象に残るリフのオンパレードと思えるいうことは、音楽性の深みによって様々な音楽を吸収し吐き出しているのだろう。つまり音楽的レベルの高さが伺える。日本語によるシャウト·ヴォーカルとの絡みも相性バッチリ。スピード感を損なうことなく聴きごたえタップリのギターサウンドによって、どの曲も全く飽きさせない引きつける魅力を放つ。ポイントをおさえたバランスの良さは最高だ!



FROM ASHES RISE / VICTIMS
split CD
Havoc Records
(P.O.B.x 8585, Minneapolise, MN 55408 USA)

ダーティ・ワールドであることには変わりはないが、ここに来て迫力ある重心の低い凄まじい極上のハードコアへ変貌したFROM ASHES RISE。これまで、ややパッとしない内容が多かったが、複雑に曲展開するわけではないけど流れがはっきりと表れた。「Moths to The Flame」は特に最高!!! 一方のスウェーデンのVICTIMSも、重厚スウェーデンならではのノイズ性の高いハードコア・サウンドだ。やや影のある独特なメロディを持ち味にしているが、中にはMOTORHEADを彷彿させるミッドテンポで攻めるドライヴ感のあるナンバーもあり、案外バラエティにとんでいることに気付く。ジャケはパスヘッド。



GEHENNA
『Upon the Gravehill』LP
King Of The Monsters

ひたすらダウンチューニングを施し、これまでのアメリカン・ハードコアにはない邪悪さを武器にダークサイドのスラッシュを放っている超強力盤。メロディック且つ軟派な要素を全く取り入れずに、ハードコア本来の感情表現を最大限引き出し、攻撃性と怒りをふんだんに詰め込んだ。外へ放出する自らの熱く燃えるような気持ちだけを形にし、誰もが安易に受け入れられないファッション性ゼロの正真正銘ハードコア・バンドといえる。ALL OUT WAR程うねるような箇所はないが、暗黒表現という点では共通点はあると思うし、またHELLHAMMERや初期CELTIC FROSTに近い初期ブラックメタル的な邪悪な感覚を備えている。



GOATWHORE
『Funeral Dirge for The Rotting Sun』CD
Ritual Records
(Ikebukuro Wakabayashi Bldg 5F 2-16-19 Mejiro Toshima-ku, Tokyo 171-0031 Japan)

邪悪な空気感満載なサタニック・メタルで、なんとSOILENT GREENを含めた強力なバンドのメンバーによって構成しているようだ。ゆえに全ての面での完成度の高さは保証済みだけどグラインドコアではなく、彼等が望んでいたことは初期ブラック・スラッシュメタルの追求だった。CELTIC FROSTの超名盤『To Mega Therion』を彷彿とさせる世界観は、暗黒の世界を表現する上でこれ以上ない程完璧。かなりそっくりなリフがあるけど、これもまた良しとしようではないか。ただし、90年代を通過しているので限りなくグラインドコアやブルータル・デスに近い曲もある。この種のバンドがアメリカから出てきたのは嬉しい。



HOLIER THAN THOU?
『High on Barbecue』12"EP
Deranged Records
(P.O. Box 543, Station P, Toronto, Ontario, M5S 2T1 Canada)

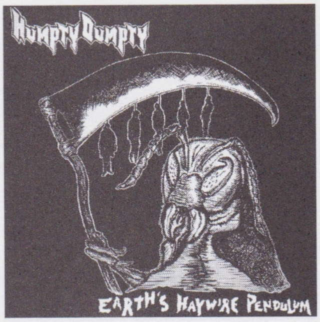
大人気なクロスオーヴァー・メタリック・スラッシュコアの新譜は片面のみの録音。スケートなジャケ写真だけでもグッドだが、ここへ来て初っぱなから『Join The Army』の頃のSUICIDAL TENDENCIES、またはヴォーカルのMikeのプロジェクトだったNO MERCYのようなスピードメタルで度胆を抜かす。上ずった感じの歌いまわしなんぞ、まさにスーサイダルである。2曲目以降もクロスオーヴァーなメタリックなスタイルを突き通しているが、OZZYのサンプリングを入れてみたり、MOTOR HEADをカヴァーしたりしてなかなか楽しめる。西海岸ならではの楽天的なノリの良さが表に出した好盤。

HOLIER THAN THOU?
『We Come in Peace, We Leave in Pieces』7"EP
Flowerviolence Records
(Kapellenstrasse 16, 69469 Weinheim, Germany)



左頁12"EPとほぼ同時期にリリースされたEP。今までの彼等らしいクロスオーヴァーなスラッシュ・ハードコアで、こちらの音源の方が彼等らしいといえるだろう。あっと言う間に3曲終わってしまうほどハイスピードで駆け抜け、メタリックにザクザク刻むスラッシュ・ギターサウンドは30代には堪らないはずだ。ヨーロッパ・ツアー用に作られたので既に入手困難かと思うけど、入手できなかった人はDERANGEDから『The Riviera Sessions』と題して左頁12"EPも収録してCDで再発しているのでそちらをどうぞ。中身は最高なのに購買意欲をそそらないチープなジャケットなので、見過ごさないように要注意!

HUMPTY DUMPTY
『Earth's Hayware Pendulm』12"EP
Human Records
(3-12-12 Ohishi Higashi, Ohtsu, Shiga Japan)



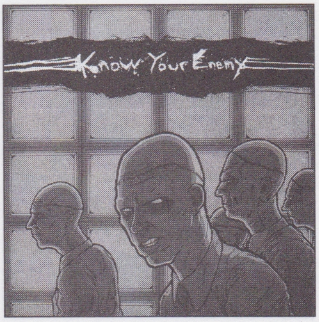
待望の新作発表とは、まさにこのHUMPTY DUMPTYを指す言葉だろう。ということで、滋賀出身の重鎮ハードコア・バンドによる約9年降りとなる新作だ。常にテンションを上げっぱなしのヴォーカルに、スカンジナヴィア的なノイジー且つスピードを維持したスラッシュ・ハードコアがミックスされ、力強く怒りを炸裂させる。ノイジーなギターサウンドとドラムのスリリングな絡みは、ライヴ時のハイテンションな緊張感に限りなく近い。ヴォーカルが加わることによって、さらに凄みは増す。ややスピードを落としたパートでも、ドッシリと構えて聴きごたえタップリ。今後も7"EP等のリリースがあるようなので、更に期待は高まる。

INFEZIONE
『Oppressione Quotidiana』LP
Agipunk
(Distributed by MCR Company:157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 Japan)



WRENTCHEDやNEGAZIONE、EU'S ARSE等と共に80年代初期のイタリアで活動をしていたバンドで、半永久的に入手不可能と思われていた音源の再登場に、イタリアン・ハードコア好きは狂喜し喝采すること間違いないだろう!!! 数百本しか出回らなかったという1stデモテープのLP化で、当然のことながら音質に難はあるけど、今から20年前のイタリアでこれほど荒々しくて速いバンドがいたことは驚きだ。高速ドラムも音質に惑わされなければ、とてつもなく格好良いことをやっているのだから十分満足だ。更に独特なギターサウンドは、ハードコアだけを通過しているだけでは生まれてこないと思えるほどユニーク。

KNOW YOUR ENEMY
7"EP
Crucial Response Records
(Kaisersfeld 98, 46047 Oberhausen-Germany)



絶好調なハードコア・バンドの宝庫として知られるオランダの出身。ストレートエッジな姿勢を全面的にアピールし、グラインドやクラスト辺りを吸収、通過したタイプではないので、比較的楽曲面で明るい印象がある。ちょうど同郷のVITAMIN Xと共通するニューヨーク周辺の88ユースクルー・スタイルを現代的にスピードアップしたといった感じだ。常時ハイテンションをキープし軽快に突っ走るところが目立つものの、ややスピードを落とした箇所でのヘヴィさとパワフルさは有無を言わせぬほど強力なハードコア・ナンバーの連続で最高だ。レコード内の写真でメンバーがCHAIN OF STRENGHのTシャツを着用もうなずける。



THE LASTDAYNOHUMANVOICE
『0640.4-50 55 DE 4 87-9.2223』CD
HG Fact
(105 Nakano Shinbashi-M, 2-7-15 Yayoi-cho, Nakano ku, Tokyo 164-0013 Japan)

時として不快感を生む不協和音を撒き散らし、複雑にして難解な曲展開によって無機質な闇へと葬りさる。ドラムがブラストビートを叩く部分があるのでその点ではグラインドコア系譜のバンドだと認識できるが、数々のサンプリングや電子的な音によって、原形が明らかにならない程究極の音となっている。もはやパンクやメタルといったロックという概念から大きく外れ、John Zornのソロ、もしくは彼がプロデュースするTZADIK周辺を彷彿させる。ただし非常にアグレッシブ!!! 即興音楽と対比し、隅々まで計算された印象を受けた。ビジュアル面で表現されている未来や宇宙のような終わりのない広大なスケールは、音とマッチして恐怖感を与える。



LET'S GROW
『Years Between Gatherings...』7"EP
625 Thrash Core
(P.O.Box 423413, San Francisco, CA 94142-3413 USA)

ユースクルー・ハードコアをスピードアップ化したユーゴスラヴィア出身のバンドで、NO FOR AN ANSWER等に代表される初期REVELATIONからレコードをリリースしていたバンドのような力強い速さが魅力的だ。ハードコア・バンドが訴えるべき事柄と姿勢を曲に乗せてパワフルにシャウトして、アドレナリンが大放出するグレイトなナンバーに酔いしれ、誰もがシンガロングすること間違いないだろう。常時スピード感溢れる点も堪らなく良いのだ。また、ストレイトエッジを掲げて自らのスタンスを明らかにし、80年代に始まったハードコアの基本形ともいうべきスタイルを、見事に現代流に再現し魅了するグレイト作。



MACHETAZO
『The Maggot Sessions』7"EP
First Blood Family
(P.O.Box 1766, Madison, WI 53701-1766)

以前CORRUPTEDとスプリット盤を出していたのでご存知と思う、スペインの野獣によるニューEP。超低音域を反復するリフと、余裕をぶちかましたかのような超重量級な威圧感の高い鬼神のごときヴォーカルを絡ませ、基本形を押し詰めたメタル成分のないグラインドコアによって皆を抹殺。興奮して荒々しい気持ちが、態度に常時あらわれたかのような重苦しい程の音圧は凄みを増し、やわで軟派な出来事に対する不満を全て叩き潰す。これほど威圧的で殺気に満ちた野獣のようなグラインドコアは久しぶりだし、醍醐味に溢れている!!! メタル成分ゼロで、その分クラスト成分が高いところが本物ならではの魅力。とにかく狂ってる!!!



MASSAKRO
CD
Cryptas Records
(Cruz V.Luis, Apdo. Postal #16-052, Cp:02011, Mexico, D.F., Mexico)

メヒコ北西部に位置し、アメリカのサンディエゴとの国境に近い観光都市ティファナを拠点としているバンド。ヴォーカルはEXTREME NOISE TERRORに端を発する濁声スタイルで、シンプル且つヘヴィなドライヴ感溢れるクラストコア。全曲スピーディな曲が続く中、6曲目はブラジルの伝説ハードコア・バンドCOLERAの1982年の曲を強烈にカヴァーで驚かされるが、もちろん違和感なく収まり素晴しい出来だ。曲間にSEを導入したり適度に曲展開がある点もナイス。ティファナも決して治安は良いとは言えないらしく、だからこのような危機迫り、リアリティあるハイテンション且つアグレッシヴな曲ができるのだろう。

MASTER
『Unreleased 1985 Album』LP



十数年前、デスメタルやグラインドコアがこの世に登場した時は、MASTERは一部マニアを除き一デスメタルバンドに過ぎない扱いだったが、この未発表音源集のリリースに伴い再評価が下された感がある。注目すべき収録音源は1985年の音源で、その年にこれほどラウドでアグレッシヴなバンド、またはサウンドが存在していた事実に震える。その他は91年と93年の音源。既発表済の曲もあるけど、ノイジー且つ破壊的な荒々しいスラッシュ・サウンドに誰もが即死間違いないだろう。地下シーンにおけるスラッシュメタルが、ハードコア・シーンと密接な繋がりがあったということはこのレコードを聴けば判る。LP盤は666枚限定!!!

MUNICIPAL WASTE
『Waste 'em All』LP
Six Weeks
(225 Lincoln Ave. Cotati, CA 94931 USA)



現役バンドで一番格好良いバンドと質問されたら、俺は文句なくこのバンドをあげるだろう。活動状況を含めたバンドの勢いで、これの上をいくバンドはいないだろうと思われる。時代の流れを完全に無視した80年代テイスト全開だけど、今まで敬遠されていたメタル的な要素をふんだんに取り入れ、逆に新鮮に感じさせるほど自らのスタイルとして確立した。メタル度が高いにも関わらず、久しぶりにハードコア色を損なっていないグレイトなバンドと出会った! ロゴやジャケも最高だ。初期NUCLEAR ASSAULT辺りの良い時代のクロスオーヴァー・スラッシュ・サウンドに、30歳以上の人は確実にヤラレるでしょう。裏ジャケの写真も必見!!!

THE NOW-DENIAL / HIGHSCORE
『Hope vs. Disillusion EP pt.2』split 7"EP
Repulsive Force
(2-10-4-101 Sangenjaya, Setagaya-ku, Tokyo 154-0024 Japan)

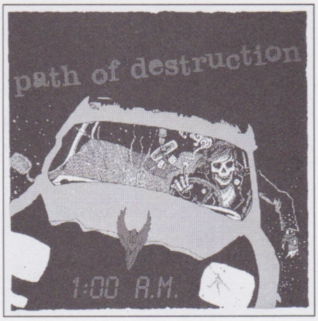


センスの良いアートワークから、一見CHARLES BRONSON系のブチ切れファストコアかと予想したが、良い意味で期待を裏切られた。前者はクラスティーな要素のあるハードコアといった感じで、重心を低く構え常に影のある音色を出している。後者は初っぱなの曲や速いパートではそれこそ上記バンドのようだが、2曲目以降はヘヴィさをポイントにした曲が目立つ。遅いパートではNEXT STEP UP辺りを彷彿とさせるヘヴィさを味わえ、速い曲と遅い曲のバランスは絶妙だ。両者の共通点は、ポリティカルな姿勢を持っているということ。ブックレットにそのメッセージは記されている。いろいろ考えさせられるベネフィット盤だ。

NO THINK
『Straight to Hell』7"EP
HG Fact
(105 Nakano Shinbashi-M, 2-7-15 Yayoi-cho,Nakano-ku,Tokyo 164-0013 Japan)



もはや日本の激速系ハードコアの先駆者的立場になったともいえるNO THINKの久しぶりの新作は、バンドの構成を変えてナント6人編成となった。当然音に厚みが出たし、圧倒的な存在感とバンドとしての凄みが増したのは言うまでもない。グラインドコアやファストコアと区別する以前のNO THINK流のブラストビート満載の究極のファスト・ハードコアとなり、加速感は半端じゃなく凄い!!! もちろん本領発揮のライヴはこのレコードと比較しても判るだろうが、我を忘れる勢いについのめり込んでしまう衝撃的な激しさだ!!! 表裏やレーベル面のパンキッシュなアートワークも魅力的で、やはりルーツはパンクロックである。



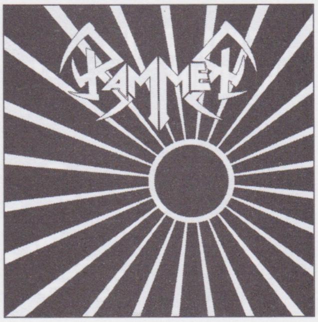
PATH OF DESTRUCTION
『1:00 a.m.』7"EP
Havoc Records
(P.O.BOX 8585 Minneapolis, MN 55408 USA)

昨年リリースされた1stを皮切りに、現在進行形のハードコア・バンドの中でも世界中から要注目な存在なのでご存知だろうと思う。CODE 13やASSRASH等のメンバーからなるミネアポリス最強ハードコアの2ndEP。1st時もパワフルだったけど、より拳を振り回したくなるほど暴れたくなるハードコア・サウンドに変貌した。まさにPOISON IDEA系譜のUSハードコア。モッシュパートといえるほどスピードを落とす箇所や微妙なギターソロを入れる箇所等、なかなか大人の味付けになっている。つまり経験豊富な大人がやるハードコアは震えるほど渋く格好良いのだ。バンドやレーベルのイメージカラーであるクラスト色は皆無。



THE PUBLIC / SEE YOU IN HELL
split 7"EP

ジャケットからダーティーなオーラを放ちながらも、ややマイナー感を拭えない。しかしかなりの強力盤なので侮るなかれ。前者スロヴァキア出身のTHE PUBLICは、初っぱなから重く暗い展開ながらも猛烈なダッシュ力のあるグラインド・ナンバーで一気に圧倒するクラスティー・スラッシュ。絶妙な押し引きのバランスの良さは、単にクラスト止まりな印象を打ち消す。一方のSEE YOU IN HELLはチェコ出身で、ついドラムにばかり耳がいってしまう超ヘヴィ級なブラスト全開な強力ブルータル・ハードコアに即死。乾いた感じのパワフルなヴォーカルとギターの音色が、極悪度数とブルータル度数をアップ。ベースの音も堪らん。



RAMMER
『Incinerator』7"EP
Deranged Records
(P.O. Box 543, Station P, Toronto, Ontario, M5S 2T1 Canada)

程度なスピード、重さ、激しさ、と申し分ないカナダはトロント出身のスラッシュメタリック・バンド。ただし100%ヘヴィメタル・バンドだと思わないが、極上のハードコア専門レーベルからこのようなメタリックなバンドがリリースされるということは、やはりサウンドだけではなく姿勢も重要視しているという証拠だろう。そこがポイントだったりするのだ。ということなので、いろいろな面でハードコア的な要素や雰囲気を感じさせられるし、サウンド的にも攻撃的な姿勢はあるにはあるが、スラッシュメタルというより、むしろ耽美的な旋律を取り入れたAT THE GATES辺りを彷彿とさせるメロディック・デスメタルの印象が強い。



RAMMER
『Suffer』LP
Slasher Records
(2 Stewart St. #202, Toronto, ON, M5V 1H6, Canada)

ロゴやルックスもさることながら、サウンドは明らかにスラッシュメタルからの影響大。更にスカンジナヴィアのデスメタルに近いダークさを加味し、攻撃一辺倒にならず押し引きのあるバランスの良さが過去のバンドとは違うところだろう。スラッシュメタルならではのドライヴ感溢れる適度なスピードに、思わずヘッドバンギングせずにはいられない80年代後半のベイエリア・スラッシュ独特のクランチの応酬で攻めてくるなど、聴きごたえのあるLPだ。時折もろハードコア的な凄まじさを出すなど、キチンと抑えるとかは抑えている。ちなみにURANUS、CHOCKHOLD、LEFT FOR DEADのメンバーによって構成されている。

REGURGITATE
『Deviant』CD
Ritual Records
(Ikebukuro Wakabayashi Bldg 5F 2-16-19 Mejiro Toshima-ku, Tokyo 171-0031 Japan)



いきなりグラインドコアの醍醐味である高速ブラストビートでぶっ飛ばし、発狂ボイスとスウェーデン特有のジャリジャリしたノイジーなギター・サウンドで即死寸前だ!!! 畳み掛けるように押し寄せる音の洪水は、時として恐ろしさを超えて異常に興奮する殺戮の嵐と化し、リスナーを激しく刺激する。これこそグラインドコアだと思う。80年代後半にNAPALM DEATH等がやったグラインドコアもたしかに凄いが、現在進行形である彼等の方が素直に良いと思えるし、比較してもむしろこちらの方が強烈。ファースト・インパクトという点では劣るけど、破壊的且つ高速グラインド・アタックに圧巻だ。全て良い曲なので中だるみ一切ナシ!!!

RIISTETYT
『Orjat ja Kurjat』10"EP
Fight Records
(Hikivuorenkatu 17 D 36, 33710 Tampere, Finland)



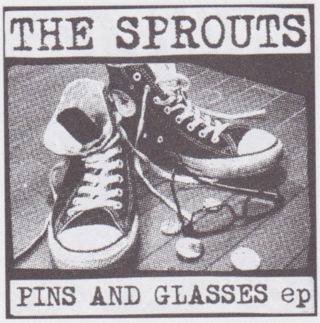
何年経っても衰えることを知らず、むしろ激しさを増し続けている北欧フィンランドの生きる伝説による最新作は、再び地元フィンランドのレーベルよりリリース。パワフルな勢いを保ちながらフィンランド特有のスタイルをより引き立て、他で聴くことのできないハードコア・パンクの魅力を打ち出している。発音によるところもあると思うが、非常にジャパコア的な雰囲気のある曲もあり興味深い。さらに片面のみ収録のLPと7"EP、あと『Hardcore 83』等のコンピ盤にしか音源を残していない80年代初期の伝説のフィンコアVARAUSのカヴァーを収録。旧譜もいいけどけど、やはり現在進行形に勝るものはないと思う。要チェック!!!

RUNNAMUCKS
『Of a Different Breed』LP
Six Weeks
(225 Lincoln Ave. Cotati, CA 94931 USA)

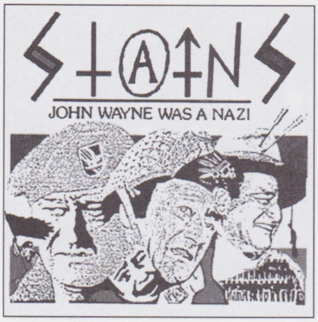


メタル要素を一切排除したフロリダ出身の真正スラッシュ・バンド。80年代初期から中期にかけてのオールドスクールなスタイルのスラッシュ・ハードコアで、時にスピードを落としながらも破壊的なテンションの高さを維持する点は、ハードコアの真骨頂を発揮した内容といえるだろう。BLACK FLAGからの影響がかなり強いようだが、がむしゃらにスピードをアップした感触からは、むしろ90年代以降のファストコア系の色合いが強く感じ取れる。決してシンプルとはいえないが、小細工を入れずに勢い重視な点は、ハードコア・パンクのあるべき姿だと思う。全作品通して漫画風のジャケットだけど、そのイメージとは対極的なほど強力サウンド。

THE SPROUTS
『Pins and Gilasses EP』7"EP
Sound Pollution
(Distributed by MCR Company:157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 Japan)



久しぶりに痛快なショートカット・スピードナンバーのみで突っ走るパンクロックと出会った!!! 7インチ45回転で20曲収録という元気良さがたまらない姫路出身のバンドの1stEP。チープというか、ポンコツでハチャメチャな感じがよりスピード感とパンキッシュなイメージを高め、周りの顔色なんか伺わずに暴れまくる姿勢はホントに好印象。これほど常にハイテンションにブチ切れ、イッてしまってるバンドは、最高としか言いようがないでしょう。アートワークも購買意欲が出るほどセンス良いし、メンバーのルックスも普通ならミスマッチなところだと言いたいけど、それ潔くやってしまってるところがこれまた格好良いのだ!!!



STAINS
『John Wayne was a Nazi/Born to Die』7"EP
Twisted Chorde
(Reutweg 1a, 76327 Pfinztal, Germany)

20年以上に渡りバンドが現在進行形なのは、世界的にみてもそう多くはない。ご存知MDCの前身にあたるバンドで、ナント超激レアな幻のEPが今年になって正規再発となったのだ。ということなので、事実上のMDCの初音源といえるだろう。ポリティカルなメッセージをふんだんに詰め込み発信する姿勢は今でも全く変わらず、その一途な態度にまず頭があがらない。「John Wayne was a Nazi」は軽いノリの初期パンクロックといった印象で、「Born to Die」はハードコアの重く攻撃的なサウンド。キミは20年以上にも渡って信念を貫くことはできるか？ いづれにしても歴史的に価値のあるレコード。



TERRIBLE HEADACHE / DUDMAN
『Show Your True Colors vol.2』split CD
F.A.R.-rec.
(c/o Yusuke Adachi:1-9-39 Shimizugaoka Fuchu, Tokyo 183-0015 Japan)

呼吸する暇さえ与えないほど高速スラッシュ・ナンバーの連続で、日本のファスト系の中でも極上部類に入るバンドへと伸し上がったDUDMAN。とりつかれて狂ったように飛ばしまくり、元EXCLAIMのメンバーを加えて新規一転といったところ。一方のTERRIBLE HEADACHE。昨年3月からしばらく活動停止中だったが、今夏、見事復活を遂げて本作が復活の挨拶代わりとも言えるだろう。スウェーデンと日本のハードコアの良いところを吸収し、自らの個性として消化しきったグレイトな内容で、発狂したヴォーカルの掛け合いなど様々な箇所でユニークな展開がある。空白だった時間があったとは思えない迫力と凄みに脱帽。



THINK I CARE
LP
Deadalive
(P.O.Box 42593 Philadelphia, PA 19101 USA)

はっきり言おう、このバンドでグッと来なかったらどうかしてる！ DYS、NEGATIVE APPROACHまたはINFESTからの影響大なストロング・スタイルのハードコアで、以前の7"EPより全体的にテンポを落とし、その分より超パワフルに仕上がった。所謂ファストコアな要素は減っている印象があるけど、これに関しては全く問題ない。レコーディングをしたブルックリンという土地のイメージ通り、超極悪なサウンドは震えるほど格好イイのだ!!! まさにジャケットのような、常に生死と隣り合わせな緊迫した状況が頭の中に浮かぶ。激重音から発するパワーは格別で、思わず拳を上げてシンガロングしたくなる格好良さ!!! 最高だ!!!



W.H.N.?
『No Cash...No Thrash!!』7"EP
Found & Lost
(IN More 7, 34564 Berlin, Germany)

『Metal Blade's Metal Massacre』に収録されていた曲のEP化である本作は、初期W.H.N?のファストコアを期待すると面を食らうこと間違いないだろう。まずいきなりヘヴィ。その後もスピードメタル以外の何物でもないメタル度数の極めて高い曲で攻め、B面に至ってはスピードメタルでもスラッシュメタルでもない所謂正統派ヘヴィメタル的なノリに驚く。まさに80年代のアンダーグラウンド・シーンの変化まで再現したかのような変貌ぶり。ただしバンド、またはメンバーのいるポジションは相変わらずリアル・ハードコア・シーンにあるので、こうしたメタル的要素に足を踏み入れる余裕が、逆に格好良いと思う。

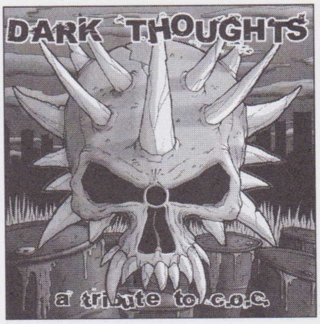
ZOE
『From Hell』7"EP
Crust War
(Distributed by MCR Company:157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 Japan)

香川出身EFFIGYの『From Hell』と対をなす作品で、コンセプトがなかなかユニークだ。そのEFFIGYと同じく震えるほど格好良いメタル・クラストを聴かせる大阪のZOEは、常に黒を基調にして影が落ちたサウンドながら、外敵に洗脳される以前のUKクラストや極初期のスラッシュメタルの洗礼を浴びて、メタリック・サウンドの醍醐味満載な内容に俺は震えが止まらない。イントロから既に惹き付け、ギターが切り込んでスピーディに突っ走る優れものだ。最後の曲がなぜフェイドアウトするのか判らないけど、これほど強力なレコードを平然と出してしまうCRUST WARには恐れ入る。30歳以上なら確実にヤラレるのでは？



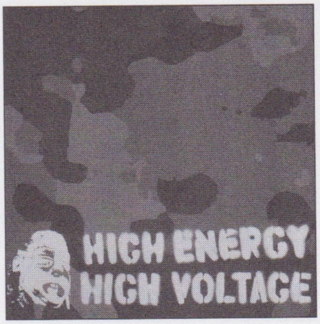
V.A.
『Dark Thoughts〜A Tribute to C.O.C.』7"EP
Rabid Dog Records
(6208 McCullar-Haltom City, TX 76117, USA)

メタリック・ハードコアとして名を轟かしているC.O.C.は、後にグルーヴ感を重視したヘヴィメタル・サウンドへ変化してしまったが、今が旬なスラッシュ・バンドによって古き良き時代のクロスオーヴァーなサウンドを現在に蘇らせた。WxHxN?、HOLIER THAN THOU?、CAUSTIC CHRIST、MUNICIPAL WASTEが自らの魅力や個性を損なわない程度に80年代中期のC.O.C.を再現し、効果的にメタリックな色合いを入れてるので全く嫌味にならない。現代のクロスオーヴァー・ハードコアの入門盤としても最適な一枚。現役バンドでノリに乗っている超強力な大人気4バンドが参加しているので見つけたら即買いだ!!!



V.A.
『High Energy High Voltage』CD
Sound Pollution
(Distributed by MCR Company:157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 Japan)

90年代はSLAP A HAMやPESSIMISER、BOVINE等におされ気味だった印象があるが、現在はHAVOCと並びファストなリアル・ハードコアの宝庫と化したSOUND POLLUTIONのサンプル盤。ASSUCKのように既に存在しないバンドも中には含まれるが、グラインド、クラスト、ファストコア、パワーヴァイオレンス等ファストなバンドを網羅しグッド。言ってみれば本誌読者ならハマること間違いないし、この種の音楽に興味を持ちはじめたばかりの初心者にも是非お薦めしたい一枚。ただしこうしてリリースされた全バンド全曲聴き通すと、やはり日本のメロコアちっくなTHE DUDOOSには違和感を感じる。



V.A.
『Killed By Finnish Hardcore』LP

どうあがいても入手困難な貴重な音源を多数収録し、まさにサブタイトルの『Raw, Rare Hardcore '81-'82』な内容で、『Propaganda』に次ぐ初期フィニッシュ・ハードコアのコンピレーション盤といえる。NATO、KOHU 63、DESTRUCKTIONS、POHJASAKKA、UNICEF、APPENDIX、MELAKKA等々、書ききれないほど数多く収録されているのだから頭があがらない。もちろんRATTUSやKAAOS、TEMPERE SS、RIISTETYT、LAMA等のような有名どころもキチンとおさえているのだから文句もあるまい。80年代初期のフィンランドはグレイトなハードコアの宝庫だったと改めて痛感した。





V.A.
『蠍固め～Scorpion Death Rock』CD
Scream House Records
(Distributed by MCR Company: 157 Kamiagu Maizuru, Kyoto 624-0913 Japan)

山口のDISTRUSTの企画『リキラリアット』で、異常に盛り上がったバンドを厳選して収録したというオムニバス。パワフル且つ最高のグルーヴ感を兼ね備えて狂喜モノな山口産ハードコア・メタルのSET IT OFF、グラインドコアに限りなく近く軽快に疾走するファストコアの福岡産511、起承転結があり聴きどころが多数ある北欧メロディック・デスメタル風、またはニュースクール・ハードコア的な岡山産YAKUZA LOVE、地を這うかのごとく重心を下げたスラッシュメタルが特徴の佐賀産CHOKE、神秘的なユニークな音を放つハードロックばりのスロウ・テンポがメインな山口産MAMUSIを収録。いずれも強力だ。



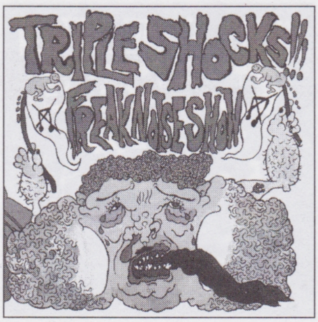
V.A.
『Terro-Rhythm』CD
Terro-Rhythm / Dan-Doh Records

西日本で勢いのある最強4バンドが集結し、ナイスなタイトルに思わず手に取りたくなるグレイト作。よりノイズ性を増したD-beatアタックに所々ギターソロやザクザクと刻むギターを入れるなど、最近の中では特に強力且つブルータルな仕上がっているD-beatマスターDISCLOSEを皮切りに、野蛮なハードコアで抹殺し存在感をアピールするIT'S YOU、話題のACROSTIXのメンバーが参加しているCONTRAST ATTITUDEはノイジーな極上のD-beatを聴かせ、先頃USツアーを行ない脂が乗っている超発狂女性ヴォーカルのCONGA FURYの狂ったハードコアと続く。安価なところも堪らないのだ。



V.A.
『Thrash or be Thrashed～An International Tribute to Thrash』CD
Blackfish Records
(PO B0x 15, Ledbury, HR8 1YG, England)

かつて世界的に人気を博した有名どころのスラッシュメタル・バンドのトリビュート盤。30代ならカヴァーされた曲全て知っていると思われる程、超有名曲のオンパレード。1曲目のMEGADETHの「Peace Sells」から19曲目のVIO-LENCEの「Calling In The Coroner」まで、どの曲も原曲のイメージを崩さずに現代的アレンジな仕上がりで最高な状態で蘇っている。参加バンドはUKハードコア・シーンで勢いのあるニューヨーク・スタイルのメタリック系バンドが大多数で、その多くがこのCDをリリースしたBlackfish周辺で活動するバンド。ジャケは当時のスラッシュメタル系御用達の巨匠Ed Repkaを起用し雰囲気たっぷり!!!



V.A.
『Triple Shocks!!! Freaks Noise Show』LP
Harshit Records / Meatbox Records

長年構想をあたためていた発狂3ウェイ・スプリットが、ついにリリースされた!!! 日本からは最狂公害ノイズ・グラインド・バンド代表のGORE BEYOND NECROPSYと肉奴隷が参戦。前者はロッケンロールでクールな出で立ちとは裏腹に、はち切れんばかりのノイズ・グラインドの嵐で、日本代表に相応しいノイズの大洪水で失禁KO。後者も負けじと変態ぶりを発揮。そしてスウェーデンからは、かつてのクールなイメージは何処へやら、より変態度がアップしたARSEDESTROYER。各バンドとも型にハマらない自由度の高いノイズ・サウンドだけでなく、自らのイメージを具体化した各ブックレットも変態度が高いので必須です。

FRIDAY, AUGUST 8TH
Doors @ 6:00 PM - Music @ 6:30 PM

DAMAGE DEPOSIT
ex-CODE XIII, fast hardcore from Minneapolis

DFA
blazing thrash from Saskatoon, new LP out on Six Weeks

LIVING UNDER LIES
ex-TALK IS POISON, political hardcore from Portland

SUBTRACTTOZERO
the midwest apocalypse machine

UNDER PRESSURE
hardcore motherfuckers contending for Winnipeg's most hated

SUNDAY, AUGUST 10TH
Doors @ 6:00 PM - Music @ 6:30 PM

DEATH FIRST
ripping hardcore played by Wisconsin troublemakers

DEAD STOCK CRUSHER
old farts devour youth to fuel thrash machine

nagasaki fondue
Vancouver noise, continuing the cycle of violence

theBLASPHENAUT
bangers playing dance music with rusty knives

he broke
urgent crushing brutality

THISTIMEIMGOD
screaming emotive art-damaged hardcore

JASON'S MILITIA
youth thrash terror

SATURDAY, AUGUST 9TH
Doors @ 5:30 PM - Music @ 6:00 PM

malefaction
enduring and laying many to rest, Winnipeg grindcore legends

FOURTEEN or FIGHT!
ex-CHARLES BRONSON/MK ULTRA, Chicago hardcore

WASTEOID
a furious barage of thrash/grindcore, from Nebraska

HEAD HITS CONCRETE
wall-of-noise chaotic destruction on Intolerant Messiah

NOT ENOUGH BULLETS
thrashcore meets TORCHES TO ROME, from St. John's, NF

XDEATHKILLX
Winnipeg straight edge pretty boys

ARSONFEST
AUGUST 8TH - 10TH 2003
WINNIPEG, CANADA

All shows are ALL AGES.

All shows will be held at the RIVERVIEW OSBORNE COMMUNITY CENTRE, located at 90 Ashland Ave. just off south Osborne.

All shows are $9 at the door. WEEKEND PASSES can be purchased for $22 at INTO THE MUSIC.

All shows are over by 11 PM.

All proceeds go to RAINBOW CENTRE, a non-profit, central community-service organization for Manitoba's gay, lesbian, bisexual, transgendered, and two-spirited communities.

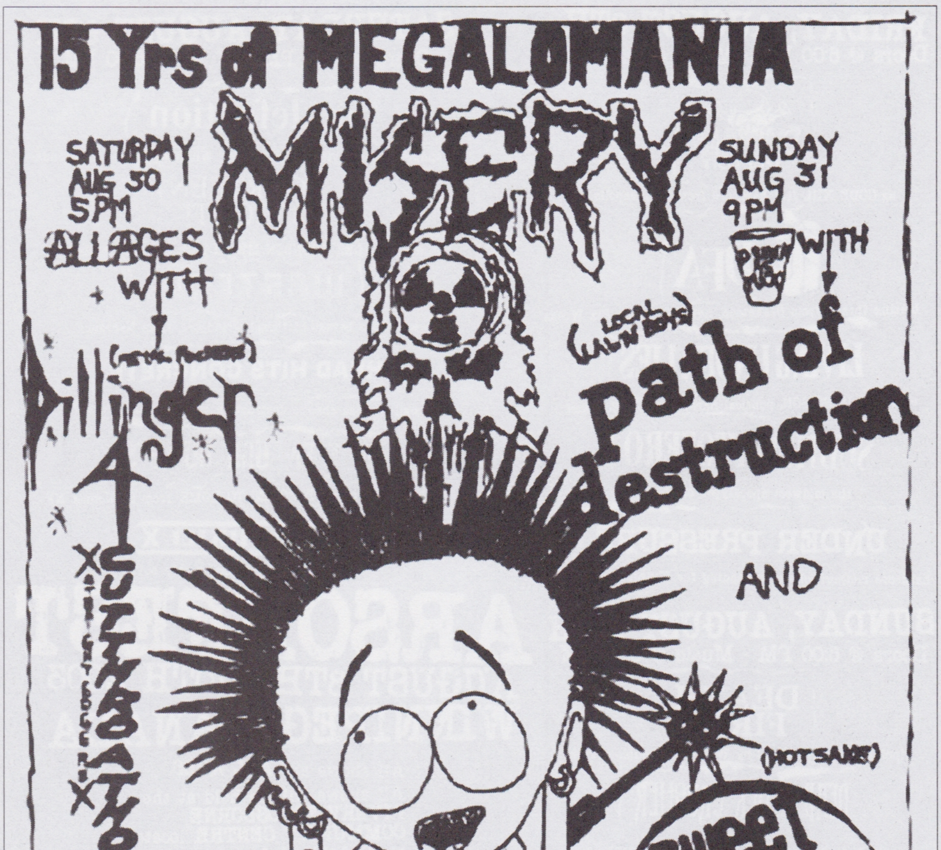
Brought to you by:

MOUNT ELGON PRODUCTIONS

101.5 FM UNIVERSITY OF MANITOBA WWW.CJUM.COM

http://arsonfest.n3.net

今年の8月8日から10日に、カナダで『ARSONFEST』と題したハードコア・フェスティバルが開催された。これはそのフライヤーで、現在注目のスラッシュ、ファスト・ハードコア、グラインドコア系18バンドが参加!!! 今回インタビュー掲載したFelix Havoc率いるDAMAGE DEPOSITやDFA、元TALK IS POISONメンバー参加のLIVING UNDER LIES、元CHARLES BRONSON/MK ULTRAメンバー参加のFOURTEEN OR FIGHT!等々、超強力なラインナップ!!!



本誌issue3にインタビューを掲載したご存知MISERYの結成15周年記念ギグのフライヤー。地元ミネアポリスのPATH OF DESTRUCTION、DAMAGE DEPOSITだけでなくDILLINGER 4のような音楽性が全く違うバンドも出演。

DISFEAR



現在SKITSYSTEM等引っぱりだこなTomasがヴォーカルをとるDISFEARのニューアルバム『Misanthropic Generation』が、RITUAL RECORDSよりリリースされた(欧米ではRELAPSE)。ノイジー且つドライヴィングなハードコアは名盤の名に相応しい出来栄えだ。少なくとも最近Tomasが参加したレコードの中ではNo.1。来日公演を願う。来日公演といえば、DEAD INFECTIONやVITAMIN X等の来日が決定している。詳細は各プロモーターにお問い合せください。

CROSSOVER

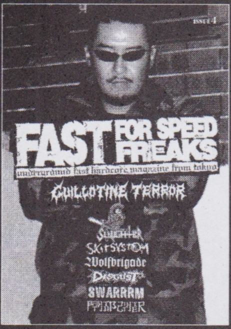
Text by EFU

今から十数年前、BLACK SABBATHを中心にヘヴィメタルばかり聴いていた私は、某友人からダビングにダビングを重ねて最悪な音質になっていたMETALLICAのカセットテープを借りて以来、速さと激しさへの欲求が始まった。速くて激しいモノばかり求めていると、その反動で遅くてポップなモノが欲しくなるのではと、よく言われるのだが、私にとって音楽の速さと激しさは、ある意味永遠のテーマだからより追求したくなるし飽きることはない。

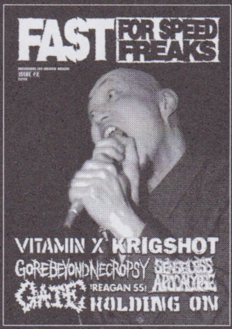
速さと激しさにハマってしまった当初は、METALLICAが当時スラッシュメタルという括りで扱われていたのでその周辺のバンドを漁りまくっていた。しかしスラッシュメタルとして聴いていたはずだったバンドが、後にデスメタルやハードコアと言われるタイプのバンドだったこともしばしばあった。つまり、その頃ちょうどクロスオーヴァーがアンダーグラウンド・シーンで盛り上がっていて、ジャンルという隔たりを抜きにしてスラッシュメタルもハードコアもデスメタルも聴ける状況にあったのだ。ただし80年代はメタルとパンクには壁があったのも事実で、国によってはそれをきっかけに闘争にまで発展したケースもあるようだが、私にとってはハードコアもスラッシュメタルも同一線上にあり問題なかった。今にして思うと、こうして『FAST for speed freaks』なるファンジンを製作することになったのも、80年代のクロスオーヴァーまたはスラッシュメタル系を体験したことが大本にあるからなのかもしれない。中にはハードコアとスラッシュメタルの交流に関して賛成できない人もいるだろう。こだわりは大切だと思うけど、そのポリシーやプライドによって視野を狭めているとしたら考え直すべきなんじゃないかなと思う。ハードコアは表面的な部分のみ武装するのではなく、中身だったり姿勢が特に重要だと思うし、何よりもライヴが熱く格好よければいいわけだから。

今回のissue5は、全体として今まで以上にクロスオーヴァーな内容になっている。そのため多少困惑する読者もいるんじゃないかなと思うのだが、巻頭頁にも書いたけど世間一般的に言われるジャンルが無意味だということです。例えばMUNICIPAL WASTEのメンバーのルックスやジャケットのイラスト、ロゴはモロにメタルだし、音だってACCUSEDやNUCLEAR ASSULT、またはS.O.D.辺りを彷彿とさせるメタリックな内容だ。だけど、これらがはたしてハードコアとスラッシュメタルのどちらなのか正確な答えを出す必要はないし、その答えによって区別する必要はないのだ。本誌は今後も"速"にこだわり、ハードコアもスラッシュもグラインドもクラストも紹介していきたいと思います。

FAST FOR SPEED FREAKS BACK NUMBER









ISSUE 4
BATHTUB SHITTER
DISGUST
GUILLOTINE TERROR
SKITSYSTEM
SLAUGHTER
SWARRRM
WOLFBRIGADE

ISSUE 3
ANAL CUNT
AVULSION
FUCK ON THE BEACH
HAEMORRHAGE
MISCONDUCT
MISERY
MUKEKA DI RATO
OX BAKER
ROT

ISSUE 2
GATE
GORE BEYOND NECROPSY
HOLDING ON
KRIGSHOT
REAGAN SS
SENSELESS APOCALYPSE
SLAP A HAM RECORDS
VITAMIN X
(近日また増刷します!!!)

ISSUE 1
COMIN CORRECT
DESTROYER 666
HELLNATION
INTERNAL BLEEDING
JUNGLE ROT
STRONG INTENTION
WHAT HAPPENS NEXT?

各バックナンバーは、全国のインディーズ系ハードコア取扱いショップにて御購入できます。(本号を買ったショップなら確実です) 在庫については各ショップへお問い合せください。次号issue666は2004年2～3月頃発行予定です!!!





レーベル・個人問わずに広告を随時募集しております。
1/4頁3千円、1/2頁6千円、1頁1万円です。掲載締めきり日等のお問い合せは下記までお願い致します。ただし本誌の傾向と違う場合はお断りする場合もありますので、あらかじめご了承ください。
また、シーンリポートやインタビュー等でき、地元シーンに詳しいライターも随時募集してます。基本的にはボランティア前提です。

F-FACTORY
〒195-0063東京都町田市野津田町1086-1 ブリックハウス2D
e-mail : fast@f-factory.com
tel. 042-737-3205 (※時間帯によって応対できない場合がございます)
fax. 042-737-3206


IMPORT & USED LP/CD/TAPE/VTR/T-SHIRTS...
RECORD SHOP
BASE
通信販売大歓迎!! 代引OK!!
お気軽にお問い合せ下さい!!
RECORD SHOP BASE
BASE 東京店
〒166-0003 東京都杉並区高円寺南4-23-5 ACPビル 3F
TEL 03-3318-6145 FAX 03-3318-6150
OPEN 12:00 ➡ CLOSE 21:00
e-mail adress base@recordshopbase.com
TOKYO
高円寺駅
新宿
南口
20000V
八千代銀行
FRESHNESS BURGER
RECORD SHOP BASE ACPビル3F
BASE 京都店
〒604-8062 京都市中京区蛸屋町152-1 3カラットビル 3F
TEL 075-213-6060 FAX 075-213-6061
OPEN 12:00 ➡ CLOSE 21:00
e-mail adress basekyoto@gold.ocn.ne.jp
KYOTO
RECORD SHOP BASE KYOTO 三カラットビル3F
三条通
寺町通
京極通
河原町通
蛸薬師通
サークルK
錦通
烏丸
四条通
阪急河原町駅 ⑨番出口
BASE H.P !! 上記のようなタイトル、新旧問わず入荷状況を毎日更新!! オーダーもカンタン!!
http://www.recordshopbase.com


全身全霊
速きゃいいんだよ、
クソッタレ!!
Handa&Company-018
c/o HIdeki Handa
102 Chikaraishi-So, 3-71-8 Ikebukuro
Toshima-Ku, Tokyo 171-0014 Japan
Phone&Fax 03-3980-7563
E-mail: handacore@mwc.biglobe.ne.jp
http://www.geocities.co.jp/Hollywood-Stage/9052/
什捌

OBLITERATION RECORDS PRESENTS

www.obliteration.jp

DEAD INFECTION

BUTCHER ABC

DEAD INFECTION / BUTCHER ABC
"A CHAPTER OF GORE" Japan Tour 2003

21th Nov Tokyo, Shinjuku WALL
03-5351-6241

DEAD BY DAWN vol 11
open 18:00 start 18:30 Tickets 2500 YEN (advance) / 2800 YEN (door)
with WOUNDEEP, NOISEDIPSIA,
MORQUIDO, VISCERA INFEST

22th Nov Tokyo, Koiwa eM 7
03-5622-3520

BLOODBATH RECORDS presents
Koiwa Death Fest vol.4 Special
open 17:30 start 18:00 Tickets 2500 YEN (advance) / 2800 YEN (door)
with MAGGUT, ANATOMIA, DxIxE, REALIZED,
FLAGITIOUS IDIOSYNCRACY IN THE DILAPIDATION,
7 MINUTES OF TORTURE
(No BUTCHER ABC)

23th Nov Osaka, Namba BEARS
06-6649-5564

open 18:30 start 19:00
Tickets 2000 YEN (advance) / 2500 YEN (door)
with PUKELIZATION, CATAPLEXY

24th Nov Nagoya, HUCK FINN
052-733-8347

GRIND FREAKS vol 9
open 18:00 start 18:30 Tickets 2000 YEN (advance) / 2500 YEN (door)
with DISGUST, GORE BEYOND NECROPSY,
UNHOLY GRAVE, DEAD BY DAWN

total infromation : grindrock@hotmail.com / 090-3432-8319

FAST FOR SPEED FREAKS

underground fast hardcore magazine from tokyo

ISSUE 5



FAST for speed freaks #5

F-FACTORY



FAST for speed freaks #5

F-FACTORY

ISSUE 5

FAST

underground fast hardcore

BRODY'S MILITIA

Apocalyptic Raids

HOLIER THAN THOU?

MUNICIPAL WASTE

CRYPTAS RECORDS

Nailbiter

HAVOC

DFA

BLACK MARKET FETUS



Die You

FAST FOR SPEED FREAKS

underground fast hardcore magazine from tokyo

ISSUE 5

